

第6回自然環境保全基礎調査

巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書

平成13(2001)年3月

環境省自然環境局 生物多様性センター

目 次

はじめに

I.巨樹・巨木林フォローアップ調査業務の概要	1
1.業務の目的	1
2.業務の内容	1
II.巨樹・巨木林調査（前回調査）の概要	7
1.調査目的	7
2.調査内容	7
III.本編	8
1.本調査の位置づけ	8
2.項目別集計結果	10
2.1 基礎的項目	10
2.2 生態的項目	28
2.3 人文的項目	34
2.4 保護の項目	37
2.5 その他の項目	40
2.6 枯死・伐採等	41
3.項目間集計結果	55
4.解析結果	60
4.1 巨樹・巨木林の分布特性	60
4.2 大都市における巨木の賦存状況	88
4.3 巨樹・巨木林と人との関わり	89
5.総括	91
6.参考文献	97

付表

付表— 1 ～13	98
-----------	----

資料

1.巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票の記入方法	105
2.追跡調査票（見本）	109
3.巨樹・巨木林フォローアップ調査 巨樹・巨木林調査票の記入方法	110
4.巨樹・巨木林調査票【新規調査票】	114
5.巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票（一般）記入方法	116
6.巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票（一般）記入例	117
7.巨樹計測講習会のお知らせ	118
8.巨樹・巨木林計測マニュアル“大きな木が待っている！”	120

はじめに

環境庁（当時）は、我が国における巨木の現況を把握するため、昭和 63 年度に第 4 回自然環境保全基礎調査の一環として、初めて巨樹・巨木林調査を実施いたしました。それ以降、現在まで 10 年余りが経過しましたが、その間全国各地の自治体や有志の方々による巨木の調査・保全活動が活発化してきました。それらの一つの現れとして、「巨木を語ろう全国フォーラム」が各地の自治体の努力で毎年開催され、また巨木を愛する有志により「全国巨樹・巨木林の会」が設立されたことなどは喜ばしい限りです。こうした活動の中から、新たな巨木が発見されたり、逆に残念ながら枯死した巨木の情報なども寄せられるようになりました。このような情報を集約し、前回調査以降の変化状況を含めた巨木の現況を把握するために、平成 11,12 年度に巨樹・巨木林フォローアップ調査を実施いたしました。本報告書は、この調査結果をまとめたものです。

今ある巨木のほとんどは、人間若しくは人間が形成してきた地域社会との関わりあいの中で残ってきたものとも言えます。今後の巨木の保全の方向を考えた場合に、人間及び地域社会との関係性は無視できないものであり、その現状をしっかり見据えた上で保全方策を模索していかなければなりません。これは巨木に限らず自然環境の保全全般に共通することでもあります。

また、巨木は、地域のシンボルにもなりうるものであり、その大きさに圧倒されることも事実ですが、単に大きさだけに意味があるのではなく、その存在自体やそこに込められた長い長い人と自然との関わりあいの歴史に意味があるものと考えています。

本調査を実施するに当たり、全国の市町村役場をはじめ多くの方々にご協力をいただきました。ご協力をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、本調査結果が広く活用され、自然環境の保全に役立つよう心から願う次第であります。

平成 13 年 3 月

環境省自然環境局生物多様性センター

Ⅰ.巨樹・巨木林フォローアップ調査業務の概要

1.調査の目的

本調査は、昭和 63 年度に実施した第 4 回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査（以下、「前回調査」という。）で確認された巨樹・巨木林の現況ならびに新たに発見された巨樹・巨木林の現況を把握し、その保全に資することを目的として、全国の市町村及び巨樹・巨木林に関する調査研究等を行っている全国巨樹・巨木林の会（会長 伊藤秀三長崎大学名誉教授）の会員にアンケート調査を実施し、集計・解析とりまとめを行った。

前回調査は、各都道府県に委託して調査を行ったが、本調査は全国の市町村へ直接調査票を送付し、回答を依頼した。

2.調査の内容

本調査は、昭和 63 年度に実施された前回調査の結果について、平成 11・12 年度の現況に更新するとともに、新たに発見された巨樹・巨木林を追加して、我が国の巨樹・巨木林の現況を全国的な規模で把握することが主な内容である。

なお、本調査における類型区分（単木・樹林・並木）は、前回調査に準じた。

(1) 聞き取り用調査票の作成

本調査では、3 種の調査票及びその「記入方法」を作成した。（巻末資料 p105 参照）

ア) 追跡調査票

前回調査された巨樹・巨木林 5 5, 7 9 8 本の現況について、その所在地である 2, 8 1 9 市町村に該当巨樹・巨木林のデータの一部（下記の項目）を印刷した追跡調査票を送付し、現況の調査、変更事項の記入及び返送を依頼した。

追跡調査の項目は、次の通りである。

- ①調査の有無：調査を行った、調査対象木を探したが見つかることができなかった、調査を行わなかった
- ②基礎的項目：ア.単木・樹林・並木の別 イ.独特の呼称・名称の有無 ウ.位置（所在） エ.所有者（管理者） オ.巨木測定値（樹種名、幹周、主幹、株立本数） カ.健全度 キ.独特の呼称・名称
- ③保護の項目：ア.保護制度指定
- ④その他の項目：ア.特記事項（保護対策事例等）

イ) 巨樹・巨木林調査票（以下、「新規調査票」という。）

巨樹・巨木林調査票を、全国の 3, 2 5 2 市町村と全国巨樹・巨木林の会会員に送付し、前回調査以降、新たに発見された巨樹・巨木林の現況の調査、調査票への記入及び返送を依頼した。

新規調査の項目は、次の通りである。

- ①基礎的項目：ア.単木・樹林・並木の別 イ.独特の呼称・名称の有無 ウ.巨木（林）の位置 エ.林（並木）内の巨木本数 オ.所有者（管理者） カ.巨木測定値（樹種名、幹周、主幹、株立状況、樹高、枝張） キ.樹齢（林齢） ク.巨木（林）の健全度 ケ.巨木の欠損 コ.計測位置
- ②保護の項目：ア.保護制度指定 イ.解説板等の有無

③生態的項目：ア.周囲の状況 イ.根本（林床）の状況 ウ.動物生息 オ.着生植物等

④人文的項目：ア.信仰対象等 イ.故事・伝承 ウ.直接利用（樹林） エ.視認性

⑤その他の項目：ア.特記事項

調査項目は、前回調査票と同じであるが、1枚の調査票に巨木1本について記入する点が前回と異なる。前は、同じ場所にある巨木は調査票1枚で4本まで記入できるようになっていたため、巨木4本に同じコード番号（都道府県コード+市町村コード+対照コード）が付くこととなり、整理の上で混乱が生じていたため改善したものである。

また、今回は新たに「調査日」に加え、「計測位置」欄を設けて幹周の計測位置を示すとともに、そのスケッチや写真の添付を求めた。

調査対象基準は、次のとおりとした。

①調査対象基準（前回調査と同じ）

地上から約130cmの位置での幹周（囲）が300cm以上の樹木。なお、地上から約130cmの位置において幹が複数に分かれている場合には、個々の幹の幹周の合計が300cm以上であり、そのうちの主幹の幹周が200cm以上のものとした。

②樹齢を重ねても幹周300cm以上に育たない、あるいは育ちにくい樹種も今回は調査対象とした。

ウ) 追跡調査票（一般）

①対照コード番号 ②3次メッシュコード ③樹種 ④独特の呼称 ⑤枯死年度

⑥枯死原因：a.大風 b.落雷 c.積雪 d.病虫害 e.その他の自然災害 f.人為（剪定等） g.不明

全国巨樹・巨木林の会会員に追跡調査票（一般用）を送付し、前回調査された巨樹・巨木林について、衰弱枯死及び開発等の理由で伐採されたものを確認した場合には調査票に記入し、返送するように依頼した。

(2) 巨樹・巨木林計測マニュアルの作成

調査票を送付するにあたり、計測方法の統一を図るために、全国巨樹・巨木林の会に所属する学識経験者らからなる計測方法検討委員会を設けて巨樹・巨木林計測マニュアル（以下、「計測マニュアル」という。巻末資料p120参照）を作成し、調査票に同封した。

委員会では、樹齢を重ねても幹周300cm以上に育たない、あるいは育ちにくい樹種も「巨樹の仲間」として、調査対象とすべきとの意見が出され、計測マニュアルに該当する樹種を載せることとした。

①開催日：平成12年1月21日

②検討委員

委員長 伊藤秀三（長崎大学名誉教授、全国巨樹・巨木林の会会長）

検討委員 平岡忠夫（画家、巨樹の会主宰）

牧野和春（エッセイスト、牧野出版代表取締役）

菅沼孝之（元奈良女子大学教授）

欠席 井幡清生（石川県巨樹の会会長）

代理出席 枝松 章（石川県林業試験場）

(3) 巨樹計測講習会

本調査実施にあたり、調査における計測技術の向上を図るために、全国巨樹・巨木林の会会員を対象に巨樹・巨木林保全の先進地である東京都奥多摩町で巨樹計測講習会を開催した。

講習会は、平成 12 年 6 月 2～4 日に 2 グループ（延べ 42 名参加）が 1 泊 2 日で参加し、奥多摩町森林館を会場として講習を行い、町内の巨木を教材に計測実習を行った。

◆講師・実習指導

平岡忠夫（画家、巨樹の会主宰）

◆講師補佐

大野耕一、北山郁人、高橋礼重（3 名とも巨樹の会所属）

◆協力

奥多摩町、全国巨樹・巨木林の会、巨樹の会

(4) 調査票の発送・回収

平成 11 年度に、前回調査で巨樹・巨木林が確認された 2,819 市町村に追跡調査票及び巨樹・巨木林調査票（新規発見用）を全国巨樹・巨木林の会会員あてに追跡調査票（一般）及び新規調査票を計測マニュアルとともに発送した。また、平成 12 年度には、前回調査で巨樹・巨木林が確認されなかった 450 市町村に新規調査票及び計測マニュアルを発送し、回収した。

また、平成 12 年 10 月に調査票がまだ返送されていない 1,849 市町村に、回答を促す葉書を送付した。

返送されてきた調査票及び添付資料（写真・地図・その他資料）は、平成 12 年 12 月末日で締め切り、各々市町村別に整理した。添付資料は、巨木や計測位置の写真（調査票に貼付されたものを含む）が 345 市町村、巨木の位置を記した地図が 353 市町村、巨木に関する資料等が 187 市町村で添付されていた。また、調査票の欄外に記入された伐採や枯死、合体木（異なる樹種の木が幹が癒着したもの）、計測不能の理由等のコメントは備考欄に記載したが、その数は延べ 1,341 件であった。

最終的に 1,661 市町村及び全国巨樹・巨木林の会会員約 50 名から回答があった。この 1,661 市町村には「該当する巨木無し」と回答した 143 市町村も含まれている（表 1-2-1）。

なお、平成 12 年度に噴火活動のために全島避難となった東京都三宅村については、追跡調査票が役場から、新規調査票は 1998 年に調査した全国巨樹・巨木林の会会員から提出された。

(5) 調査票の確認・修正作業等

平成 11・12 年度に回収された調査票について、記入漏れ等を確認し、不明の点については延べ 160 市町村へ 287 件、全国巨樹・巨木林の会会員 7 名へ 20 件の問い合わせを行い、それぞれ 201 件（回答率 73%）、12 件（同 60%）の回答を得て調査票を修正した。

問い合わせをおこなった調査項目は、基礎的項目に限り、位置、所有者（管理者）、巨木測定値（樹種名、幹周、株立状況）、健全度、欠損の状況等とした。

調査年及び故事・伝承、枯死・伐採等の年の元号については、西暦に統一した。

株立ちの幹周の計測について、本調査では個々の幹の幹周の合計値を記入するとしたが、造園工事の歩掛かりとおなじ 0.7 を乗じて記入しているものがあり、これはもとの合計値に戻した。

表1—2—1 調査票回収市町村数

都道府県名	市町村数*	調査票回収 市町村数	回収率 (%)	追跡調査票 のみ回収市 町村	新規・追跡 調査票回収 市町村	新規調査票 のみ回収市 町村	巨樹・巨木林 の該当なしの 回答あり	前回巨木なし で、今回新規調 査票の回収あり
北海道	212	103	49%	37	23	16	27	11
青森県	67	37	55%	13	17	6	1	2
岩手県	59	31	53%	12	17	0	2	0
宮城県	71	37	52%	14	16	6	1	4
秋田県	69	33	48%	9	11	7	6	7
山形県	44	25	57%	8	15	1	1	0
福島県	90	48	53%	20	24	3	2	1
茨城県	85	40	47%	20	15	2	3	1
栃木県	49	32	65%	12	16	0	4	0
群馬県	70	44	63%	23	18	3	0	0
埼玉県	92	56	61%	25	25	4	2	1
千葉県	80	53	66%	25	24	2	2	0
東京都	63	57	90%	31	21	5	0	2
神奈川県	37	28	76%	16	10	2	0	0
新潟県	112	56	50%	37	17	2	0	1
富山県	35	15	43%	7	7	0	1	0
石川県	41	24	59%	7	16	0	1	0
福井県	35	15	43%	8	5	0	2	0
山梨県	64	31	48%	11	13	3	4	0
長野県	120	52	43%	15	30	2	5	2
岐阜県	99	56	57%	31	16	4	5	2
静岡県	74	53	72%	28	20	4	1	1
愛知県	88	61	69%	26	21	6	8	4
三重県	69	30	43%	14	9	4	3	2
滋賀県	50	20	40%	10	7	2	1	0
京都府	44	24	55%	9	14	0	1	0
大阪府	44	28	64%	12	10	3	3	2
兵庫県	88	46	52%	24	16	6	1	2
奈良県	47	15	32%	5	7	2	1	0
和歌山県	50	26	52%	14	7	1	4	0
鳥取県	39	12	31%	7	3	1	1	1
島根県	59	30	51%	15	11	2	2	0
岡山県	78	38	49%	10	14	5	9	3
広島県	86	46	53%	25	16	2	3	1
山口県	56	24	43%	11	11	0	2	0
徳島県	50	19	38%	9	10	0	0	0
香川県	43	20	47%	8	10	0	2	0
愛媛県	70	30	43%	10	8	4	8	0
高知県	53	24	45%	13	8	2	1	0
福岡県	97	49	51%	18	19	5	7	4
佐賀県	49	21	43%	14	6	0	1	0
長崎県	79	32	41%	16	13	1	2	1
熊本県	94	47	50%	21	16	5	5	3
大分県	58	26	45%	10	13	2	1	0
宮崎県	44	15	34%	8	7	0	0	0
鹿児島県	96	43	45%	12	21	5	5	3
沖縄県	53	9	17%	2	5	1	2	1
合計	3,252	1,661	51%	732	658	131	143	62

*前回調査時の市町村数は3,269

(6) 巨樹・巨木林データベースの作成

前回調査の結果と今回の調査結果を比較するため、追跡調査票の各項目、新規調査票の各項目について、既存データベースの更新と新たなデータの入力を行った。

データは次の3種からなる。

- ①未更新データ：追跡調査票が返送されないため、前回データのままのもの
- ②更新データ：返送された追跡調査票に基づき前回データを更新したもの
- ③新規データ：巨樹・巨木林調査票で報告され、今回データベースに加えられたもの

なお、前回調査では、各巨樹・巨木林の位置データを標準地域メッシュ・システム（昭和48年7月12日付け行政管理庁告示第143号）における基準地域メッシュ（第3次メッシュ、約1km×約1km）コードで調査票に記入したが、今回調査の新規データでは、住所の記入及び位置図の添付を求めるに留め、基準地域メッシュコードの記入を求めなかった。

(7) 確認計測調査の実施

前項の結果に基づき、主要25樹種の全国最大級クラス（各樹種3本程度）の巨木については、確認調査として、該当の巨木について、その報告者である市町村及び全国巨樹・巨木林の会会員あてに写真の送付と計測値の再確認を依頼した。この結果追跡調査票の回答の無かった4市町村から枯死等、また新規調査票の回答があった4市町村から再計測の結果数値の変更等の回答があったため、再度新たな該当市町村に同様の依頼を行った。該当の巨木は89本、確認の依頼は延べ81市町村及び全国巨樹・巨木林の会会員6名であった。その結果40市町村及び全国巨樹・巨木林の会会員5名から46本の巨木について写真の送付、49本の再計測値の報告があった。

(8) 巨樹・巨木林の変化状況及び現況の解析

確認調査の結果に基づき、必要に応じて巨樹・巨木林データベースを訂正し、前回調査の結果と今回の調査結果とを比較して、巨樹・巨木林の変化状況と現況について把握・解析をした。特に、前回調査以降に衰弱枯死及び開発等の理由で伐採された巨樹・巨木林について把握した。

図1-2-1に、本業務の作業手順を示した。

データベースを用いて、全国レベルでの集計・解析を行なった。データの集計は、基礎的な集計（単純集計）及び多項目にまたがる集計（クロス集計）を行ない、巨木と人との関わり、あるいは巨木と社会との関わりを中心に解析を行った。

主な集計項目は次の通りである。

ア) 単純集計項目（更新データと新規データ、一部未更新データを加えた）

- ①基礎的項目：単木・樹林・並木の別、独特の呼称、所有者、樹種、測定値、樹齢、健全度等
- ②保護の項目：保護制度指定等
- ③生態的項目：周囲や根本の状況、動物生息、着生植物等
- ④人文的項目：信仰、故事・伝承、利用状況等
- ⑤その他の項目：特記事項

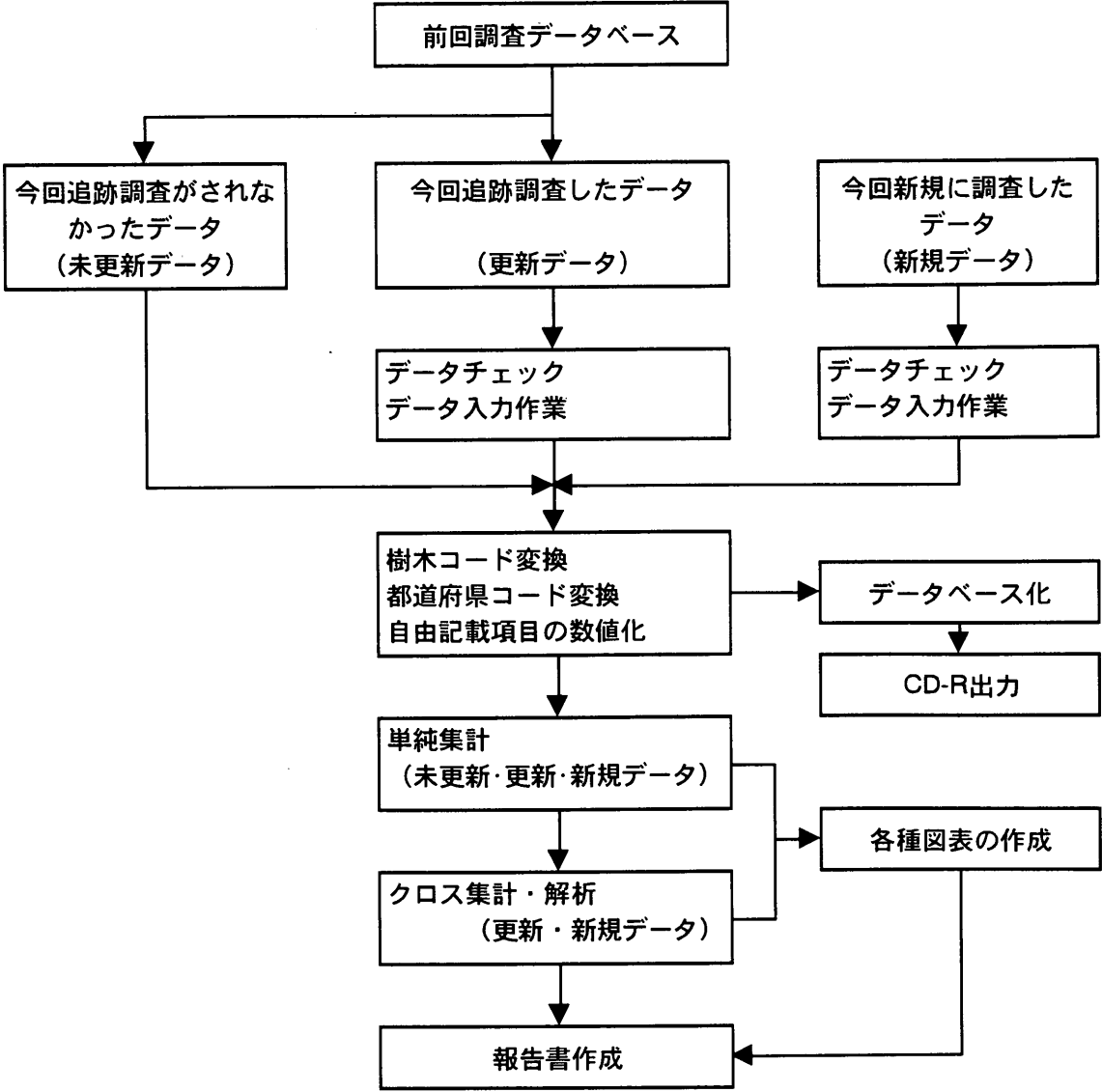
また、追跡調査票及び追跡調査票（一般）から判明した衰弱枯死及び開発等の理由で伐採された巨樹・巨木林について、樹種・原因等を解析した。

イ) クロス集計項目（更新データと新規データ）

樹種・健全度と周囲の状況・保護制度指定・信仰等との関係

以上の集計結果に基づき、巨木をめぐる環境及び巨木と人との関わりあいについて解析し、実態を把握した。

図1—2—1 情報処理業務の作業手順



Ⅱ.巨樹・巨木林調査（前回調査）の概要

1.調査目的

前回調査（第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査）は、わが国における巨樹及び巨木林の現況を把握するため昭和63年度に全都道府県に委託して実施した。この規模の全国調査としては、初めてのものであった。

2.調査内容

調査内容の概要は以下のとおりであった。

(1) 調査対象

調査対象は、次の調査対象基準に該当する樹木又は樹林であった。

①調査対象基準

地上から約130cmの位置での幹周（囲）が300cm以上の樹木。なお、地上から約130cmの位置において幹が複数に分かれている場合には、個々の幹の幹周の合計が300cm以上であり、そのうちの主幹の幹周が200cm以上のものとした。

なお、調査対象基準に該当する樹木について前回調査では「巨木」または「巨樹」と呼んでいるが、前回調査報告書ではこれを、「巨木」という言い方で基本的に統一していた。本報告書もこれに準じた。

②調査対象の類型区分

「単木」：巨木が単体で生育しているもの。

これには、巨木の周囲には他に樹木が生育していない場合と、周囲にも樹木が生育しているが、これら周囲一帯には調査対象基準以上の樹木がない場合とがある。

「樹林」：巨木及びこれに準ずる樹木が複数生育しており、面的な広がりをもつもの（社叢等小規模のものも含む）。

「並木」：巨木及びこれに準ずる樹木が複数生育しているもののうち並木をなしているもの。

なお、前回調査報告書ではこれらの「樹林」及び「並木」を併せて「巨木林」と呼ぶこととした。また、前回調査報告書の中で使用している「林木」という言葉は、「巨木林」に属する巨木を意味しており、「単木」と区別する意味で用いていた。

(2) 調査項目

- ①基礎的項目：ア.巨木（林）の位置 イ.単木・樹林・並木の別 ウ.所有者（管理者） エ.樹齢（林齢） オ.林（並木）内の巨木本数 カ.巨木測定値（樹種名、幹周（主幹）、樹高、枝張、株立状況）
- ②生態的項目：ア.周囲の状況 イ.根元（林床）の状況 ウ.巨木の欠損、エ.林木の欠損、オ.動物生息 カ.着生植物等、キ.巨木（林）の健全度
- ③人文的項目：ア.信仰対象等 イ.独特の呼称・名称 エ.故事・伝承の有無 オ.視認性 カ.直接利用（樹林）
- ④保護の項目：ア.保護制度指定 イ.解説板等の有無
- ⑤その他の項目：ア.特記事項

Ⅲ.本編

1.本調査の位置づけ

本調査は、第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査のデータの更新を図るものであり、調査の位置づけは前回と変わらない。以下、本調査の位置づけについて第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査報告書（1990）から引用する。

悠久の時によって育まれた巨樹・巨木林はわが国の森林、樹木の象徴的存在であり、良好な景観を形成したり、野生鳥獣の営巣の場となるなど、自然環境保全上重要な価値を有するばかりでなく、年輪等に過去の気候や環境の状況を記録していることから、古気象等の研究素材として学術的価値にも大きいものがある。

さらに、古くから信仰の対象となり、あるいは地域のシンボルとして人々にやすらぎと潤いを与えるなど、生活環境保全面からも重要な自然環境資源である。

日本人と樹木との関係は古く、文書的には日本書紀の国生み神話において国土とともに木神が生じたことから始まる。また、考古学的には縄文時代早期の遺跡と推定される福井県三方町の鳥浜遺跡から豊富な木製品が出土し、日本人の木の文化が一万年以上も前からすでにその姿を表わしていることがわかる（山田、1990）。

歴史的に日本人と樹木とのつながりを考えた場合、木製品や燃料などの材としての利用面の他、ご神木・神体木に代表される日本人の神感覚、桜、梅、松といった精神的なつながり、一里松などの境界木・標木、記念樹・奇蹟などの言伝えなど、さまざまな面でつながりを持っていることに気づく。このような日本人と樹木とのつながりの最も具体的な現れが「巨木」であるといえよう。

「巨木」とは、学術用語でも専門用語でもなく、巨樹、大樹、老木、老樹といった一連のイメージを与える言葉のひとつであり、一般的に杉なら杉、楠なら楠の樹木としての概念に比較して、樹高、幹周、枝張り等、群を抜いて巨大である木をもって「巨木」と考えて差し支えないとする人もいる。

また、巨木はユーカリなど一部の樹種を除けば、樹齢何百年、ときには一千年、二千年という人間の命と比べれば悠久とも言えるほどの驚異的な生命力をもっている。

今回の調査の結果、全国の巨木数は単木の状態で28,800本であったが（注：先は前回調査の結果、今回調査では単木は33,203本であった）、この調査での巨木の定義は、「地上1.3mの高さでの幹周が3m以上のもの」を全て巨木としている。一般に「巨木」として取り扱われている樹木は幹周がこれより大きいものを指す場合が多いので、その数もきわめて少ないと考えられる。

一般に言われる「巨木」の多くが民間伝承を有しており、牧野（1989）は巨木にまつわる民間伝承を次のように分類している。

- | | | | | |
|------------|------|---------|---------|--------|
| ①大王・木霊 | ②守護神 | ③境界木・標木 | ④記念樹・木蹟 | ⑤豊饒・生産 |
| ⑥占い | ⑦雨乞い | ⑧子育て | ⑨相生い | ⑩墓標・犠牲 |
| ⑪変異（逆さと奇態） | ⑫浄土 | ⑬その他 | | |

このような民間伝承には、人間と自然との一体的な情感が基層に横たわっており、その根源にはアニミズム的な対自然感覚があるものと推察される（牧野、1989）。

このような点を踏まえて、巨樹・巨木林をめぐる環境を構成する要因を大きく分けると次の3つに分類することができる。

a.巨木そのものに関する要因（位置、樹齢（林齢）、幹周、樹高などの基礎項目）

b.自然的な環境要因（周囲・根元（林床）の状況、欠損の状況、動植物生息状況などの生態的項目）

c.社会的な環境要因（信仰対象・故事伝承の有無等の歴史的要因と視認性、利用等の人文的項目及び保護制度の有無等の行政的項目）

これらの要因は、それぞれが独立しているのではなく相互に密接な関係を持ち、その結果として現在の巨樹・巨木林をめぐる環境が形成されているものと理解することができる。

巨樹・巨木林の実態を把握するためには、巨樹・巨木林の自然生態系における位置付けと、巨樹・巨木林を含む生態系（いわば巨木環境と呼べる）の人間社会系における位置付けを正しく把握することが必要となる。

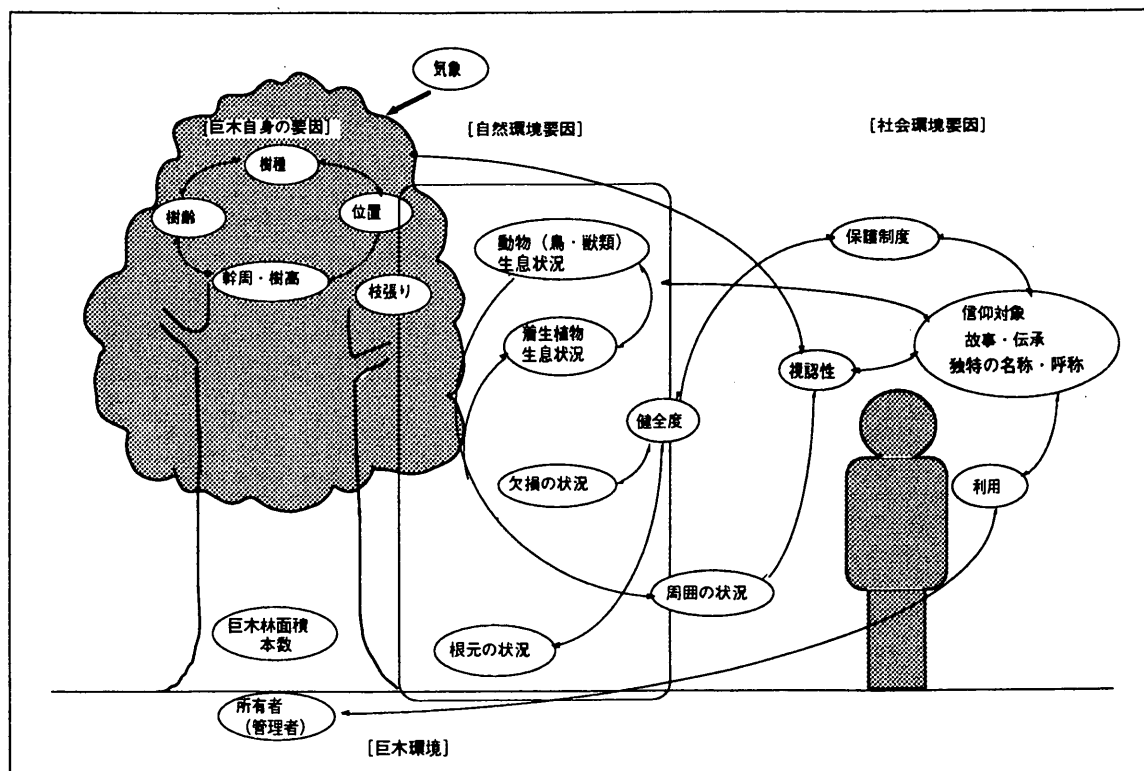
図一2（註：本報告書では、下図 3—1—1 となる）に巨樹・巨木林をめぐる環境を構成する要因について概念的に整理したものを掲げた。

図一2（註：下図 3—1—1）に基づく巨樹・巨木林の実態を把握するためには、巨樹・巨木林の自然生態系における位置付けと、巨樹・巨木林を含む生態系（いわば巨木環境と呼べる）の人間社会系における位置付けを正しく把握することが必要となる。

このようなことから、解析の基本的方針としては巨樹・巨木林をめぐる自然環境の実態の把握と、巨樹・巨木林と人との関わりあいの実態の把握を中心に行なった。

（引用終わり）

図 3—1—1 巨樹・巨木林をめぐる環境構成要因の相互関係概念図（再掲）



2. 項目別集計結果

2.1 基礎的項目

(1) 巨木の本数

巨木本数の集計結果を表3-2-1～3に示す。各類型別の巨木本数は、単木：33,203本、樹林：29,248本、並木：2,005本であった。各データ種とも単木・樹林・並木の割合は、ほぼ同じで単木は半数を超えた。

未更新データと更新データから、枯死や伐採等で無くなった巨木を除き、新規データを加えたものが、後出の集計・解析のベースとなるデータである。

表3-2-1 類型別巨木本数

類型	データ種別*						合計		前回データ
	未更新データ		更新データ		新規データ				
	本	%	本	%	本	%	本	%	%
単木	13,692	50.3%	13,574	52.8%	5,937	51.3%	33,203	51.5%	51.6%
樹林	12,669	46.5%	11,199	43.6%	5,380	46.5%	29,248	45.4%	45.0%
並木	846	3.1%	914	3.6%	245	2.1%	2,005	3.1%	3.4%
無回答	9	0.0%	4	0.0%	10	0.1%	23	0.0%	—
合 計	27,216	100.0%	25,691	100.0%	11,572	100.0%	64,479	100.0%	100.0%

* 未更新データ：前回データ（1998年調査）のままのもの

更新データ：前回データを今回の調査結果により更新したもの

新規データ：今回の調査で新たに確認されたもの

表3-2-2 データ種別巨木本数

追跡調査の本数

データの種別	本	本
未更新データ（空欄）*		27,222
更新データ**		
調査の有無 1	18,445	更新データ 28,576
2	2,698	
3	5,440	
4	199	
5	540	
6	1,205	
7	20	
8	29	
追跡データの総計***		55,798

* 調査票が未提出のものを示す

** 調査の有無の内訳は、12ページ参照

*** 前回調査の巨木の本数は55,798本

全データの本数

データ種別	本
未更新データ	
A：調査の有無の空欄の数	27,222
B：うち健全度＝6（枯死）の数	6
A-B	27,216
更新データ	
C：調査の有無1，2，3の和	26,583
D：うち健全度＝6（枯死）の数	892
C-D	25,691
新規データ	11,572
未更新・更新・新規データの合計数	64,479

表3—2—3 都道府県別本数

(単位：本)

都道府県名	データ種別*			合計
	未更新データ	更新データ	新規データ	
北海道	323	410	145	878
青森県	230	228	235	693
岩手県	672	1,247	203	2,122
宮城県	361	432	198	991
秋田県	572	377	616	1,565
山形県	588	462	215	1,265
福島県	209	246	348	803
茨城県	1,609	1,016	649	3,274
栃木県	1,122	949	217	2,288
群馬県	610	658	133	1,401
埼玉県	644	732	210	1,586
千葉県	710	1,376	576	2,662
東京都	166	1,357	2,276	3,799
神奈川県	186	463	131	780
新潟県	1,295	1,149	180	2,624
富山県	452	318	89	859
石川県	537	1,133	157	1,827
福井県	807	546	28	1,381
山梨県	475	473	219	1,167
長野県	1,053	870	333	2,256
岐阜県	939	501	233	1,673
静岡県	474	1,610	270	2,354
愛知県	265	608	263	1,136
三重県	629	497	92	1,218
滋賀県	881	434	125	1,440
京都府	159	414	306	879
大阪府	208	162	232	602
兵庫県	607	737	115	1,459
奈良県	770	258	597	1,625
和歌山県	707	402	89	1,198
鳥取県	674	234	33	941
島根県	947	371	208	1,526
岡山県	168	130	178	476
広島県	648	421	98	1,167
山口県	456	333	44	833
徳島県	587	490	141	1,218
香川県	271	215	68	554
愛媛県	434	256	60	750
高知県	345	266	110	721
福岡県	465	733	256	1,454
佐賀県	451	305	99	855
長崎県	521	336	183	1,040
熊本県	827	301	324	1,452
大分県	768	479	55	1,302
宮崎県	695	355	61	1,111
鹿児島県	458	343	148	949
沖縄県	241	58	26	325
合計	27,216	25,691	11,572	64,479

* 未更新データ：前回データ（1998年調査）のままのもの
更新データ：前回データを2000年の調査により更新したもの
新規データ：2000年の調査で新たに確認されたもの

●追跡調査票 55,798 件

ア)追跡調査の対象は 55,798 本で、この中で回答の無かったもの 27,222 本から、健全度が「6 枯死」(前回報告書で既に枯死と報告されていた)であった 6 本を除いた 27,216 本が未更新データとなる。

イ)回答のあった 28,576 本から、伐採等ですでに存在しないもの及び重複分などを除くと、26,583 本(調査の有無の「1、2、3」の合計)となる。

ウ)ここから健全度の「6 枯死」892 本を除いた 25,691 本が更新データとなる。

伐採等ですでに存在しないものとは、調査の有無の「4(消失)、5(伐採)、6(新規調査票と重複)、7(再計測の結果、300cm 以下と判明し計測値を記入していないもの)、8(全国巨樹・巨木林の会員から枯死報告)である。

(註) 調査の有無欄の区分は、調査票では「1～3」であったが、調査票の整理・集計の際に下記の 4～8 を加えて区分した。

1：調査に行った。

2：現地調査の結果、見つけれず、不明の場合。社寺林などの中で、対象の 1 本の木を特定出来ない場合も含まれる。

3：調査を行わなかった。

4：対象となる巨樹・巨木林が現実にその場所にはない、他の市町村に移植してしまった、切ってしまったらしい等などで、調査票で該当欄を赤線等で消したものの、削除、抹消、除外等の書き込みのあったものである。なお、前回調査で間違えて記載したもので、そもそもそのような巨木はない、というものも含まれる。

5：人為的な伐採(自然災害等の原因ではなく、建て替え・開発等の人間の都合で切った場合)

* 雷による焼失、台風による倒木、マツクイムシ等の病虫害で枯れたもの(自然災害で枯れ危険なので切ったという場合も含む)、また火事による延焼も、健全度の「6.枯死」とする。切った原因が、自然災害か、人間の都合によるものか、の違いで区分。また前回調査で健全度が「枯死寸前」で、今回調査で「伐採」した場合は「枯死」とみなした。

6：追跡調査票があるが、同じ木について新規調査票にも記入して提出してきた場合は、新規調査票のデータを用いることとしたため、更新データから除いた。同じ木かどうかの重複のチェックは、住所・社寺等の施設や所在地の名称・所有者・樹種・幹周の値等を目安としたが、同一の巨木と断定できないものは重複とみなさなかった。

7：追跡調査の計測の結果、基準値(幹周り 300cm)以下と分かり、計測値が未記入(空欄)の場合。

* 樹種を問わず、300cm 以下のものでも数値が書いてあれば、そのままデータは残した。

8：同じ木について、別々の報告者から「枯れていない」「枯死」との相反する報告がなされた場合は、備考欄に「○年枯死との報告あり(××より)」と記載し、本編の集計・解析のデータでは「調査の有無の 1.2.3」として扱い、後出 2.6 枯死・伐採等の項(41 ページ)では、「枯死」として扱った。

●新規調査票 11,572 本

新規調査票は、11,572 本分（新規データ）で、前記の追跡調査票の重複分 1,205 本はここに含めた。

ア)調査票の重複について

今回は、市町村と全国巨樹・巨木林の会会員に調査票の提出を依頼したため、同じ木について、それぞれ調査票が提出された例が散見されたが、整理中に気がついた範囲で備考欄に註をつけ、その旨を記した。

イ)一般からの調査票について

本調査は、市町村及び全国巨樹・巨木林の会会員から提出された調査票を用いることで進められたが、一般市民の巨樹・巨木林への関心は高く、調査への問い合わせ、送付された調査票もかなりの数に達した。そこで、このような市民からの調査票の扱いについては、該当市町村に調査票のコピーを送り、同意を得た上で、市町村から提出されたものと同様に取り扱うこととした。

24 市町村へ、446 件の調査票を送付したところ、1 町役場から同意できない旨の連絡があったため、当該データ 4 件は本調査のデータ（新規データ）から除いた。

ウ) 幹周 300cm 以下の巨樹の仲間

今回の調査では、樹齢を重ねても幹周 300cm 以上に育たない、あるいは育ちにくい樹種も「巨樹の仲間」として調査票の提出を求めた。

対象の樹種は、「巨樹・巨木林計測マニュアル」に次の 2 つの区分の代表例のリストを載せ、他にも気づいたものがあれば調査票を提出するように求めた。

- ・ 幹周 1 m 以上を計測の対象とするものとして、ツゲ科やミカン科など 7 科
- ・ 幹周 2 m 以上を計測の対象とするものとして、ツバキ科やエゴノキ科など 22 科

なお、以下の巨木の解析は、これらの幹周 300cm 以下のものを含めて行った。

表3-2-4 都道府県別巨木本数

都道府県名	全市町村数	巨木有リ* 市町村数	割合	単木測定	樹林測定	並木測定	無回答	測定巨木総
				数	数	数		数**
				本	本	本	本	本
北海道	212	128	60%	537	332	9	0	878
青森県	67	56	84%	486	189	16	2	693
岩手県	59	59	100%	882	1,037	201	2	2,122
宮城県	71	65	92%	591	229	171	0	991
秋田県	69	52	75%	565	895	105	0	1,565
山形県	44	44	100%	891	335	29	10	1,265
福島県	90	83	92%	589	200	14	0	803
茨城県	85	84	99%	1,920	1,235	117	2	3,274
栃木県	49	49	100%	1,124	1,115	49	0	2,288
群馬県	70	70	100%	747	608	46	0	1,401
埼玉県	92	88	96%	1,212	334	40	0	1,586
千葉県	80	78	98%	990	1,612	60	0	2,662
東京都	63	63	100%	1,353	2,418	27	1	3,799
神奈川県	37	37	100%	743	33	4	0	780
新潟県	112	101	90%	1,389	1,117	118	0	2,624
富山県	35	31	89%	491	356	12	0	859
石川県	41	41	100%	444	1,365	18	0	1,827
福井県	35	34	97%	300	1,061	20	0	1,381
山梨県	64	61	95%	606	541	20	0	1,167
長野県	120	99	83%	1,067	1,072	117	0	2,256
岐阜県	99	92	93%	753	896	24	0	1,673
静岡県	74	73	99%	1,027	1,266	61	0	2,354
愛知県	88	75	85%	936	152	48	0	1,136
三重県	69	67	97%	771	436	11	0	1,218
滋賀県	50	50	100%	420	928	92	0	1,440
京都府	44	40	91%	380	461	38	0	879
大阪府	44	37	84%	389	211	2	0	602
兵庫県	88	84	95%	586	844	29	0	1,459
奈良県	47	43	91%	615	989	21	0	1,625
和歌山県	50	49	98%	456	703	39	0	1,198
鳥取県	39	37	95%	415	490	36	0	941
島根県	59	55	93%	838	625	63	0	1,526
岡山県	78	49	63%	328	135	11	2	476
広島県	86	85	99%	738	395	33	1	1,167
山口県	56	53	95%	612	182	39	0	833
徳島県	50	46	92%	1,013	194	11	0	1,218
香川県	43	40	93%	261	289	4	0	554
愛媛県	70	51	73%	490	245	15	0	750
高知県	53	53	100%	401	308	12	0	721
福岡県	97	72	74%	824	589	40	1	1,454
佐賀県	49	47	96%	383	468	4	0	855
長崎県	79	69	87%	763	237	39	1	1,040
熊本県	94	81	86%	969	458	25	0	1,452
大分県	58	56	97%	667	621	14	0	1,302
宮崎県	44	44	100%	628	474	9	0	1,111
鹿児島県	96	74	77%	363	499	87	0	949
沖縄県	53	37	70%	250	70	5	0	325
合 計	3,252	2,882	89%	33,203	29,249	2,005	22	64,479

* 前回と今回の調査で巨樹・巨木林が確認された市町村の数

** 測定巨木総数：未更新・更新・新規データ

(2) 巨木の内訳

表 3-2-4 は、都道府県別の巨木本数（未更新データ・更新データ・新規データ）である。全国で測定され、報告された巨木の総数は 64,479 本であり、巨木の存在が記録された市町村数は全国で 2,882 に及んだ。この間、市町村合併等もあり単純には比較できないが巨木が確認された市町村が 62 増えたことになる。

※前回調査で巨木があると報告された市町村数 2,819+今回新たに巨木が確認された市町村数 62=2,882

表 3-2-5 は、樹林・並木における測定本数（調査票の提出された巨木の本数）以外の林全体の巨木の実測及び推定本数を示した。実測本数約 3,000 本、推定本数約 21,000 本には、前回調査の推定本数約 68,000 本との重複本数も含まれると想定され、この点を勘案してわが国の巨木の本数は約 132,000～156,000 本程度と推測される。

※ $64,000+68,000=132,000$ $64,000+3,000+21,000+68,000=156,000$

「推定本数」の算出にあたり、幅のあるデータについては、中間値におきかえ、並列記入については、最初の数字を選択した。

例：「6～8本」は7本、「1,200～1,600本」は1400本、「2,3本」は2本とする。

表 3-2-4 から、測定巨木本数のが 3,000 本を超える県は、茨城県、東京都で、2,000 本を超える県は、岩手県、栃木県、千葉県、新潟県、長野県、静岡県であり、前回同様に関東地方で測定数の多い傾向は変わらない。

表 3-2-6 は、市町村別の測定巨木本数の上位 100 位であるが、上位 3 位はいずれも山間部の巨木林の調査結果が報告されたものである。また新規データの本数で 5 位に都市部の東京都世田谷区が位置しているのは注目される。なお、島根県大東町・茨城県常陸太田市などのように未更新データがあるものの追跡調査票の返送がなく、新規調査票が提出されている場合には未更新データと新規データの重複があるものと推測されるので注意されたい。

表 3-2-7 に、実測された巨木の樹種別の本数を前回調査の上位 50 種（今回は 48 種に相当）について集計し、その結果の比較を示す。

実測された巨木のうち最も多かったのはスギであり（14,869 本）、次いでケヤキ（9,452 本）、クスノキ（5,926 本）、イチョウ（4,855 本）、スダジイ（4,830 本）の順で、前回と順位は変わらなかった。以下、タブノキ、マツ、ムクノキ、モミ、エノキ、ミズナラ等の樹種があがっている。

いずれの樹種も本数が増えているが、今回の調査で特に大幅に増えたのは、スギとスダジイである。

なお、唯一本数が減ったのはマツで、後出の表 3-2-32・34・36 の枯死・伐採等で無くなった巨木の本数をみるとマツは 226 本もある。

全データを樹種別に整理したところ約 550 種であった。しかし、表 3-2-7 でもサクラとエドヒガン・ヤマザクラ・ソメイヨシノが見られるように、属と種が明確に区分されていなかったり、地域固有の呼び名や明らかな間違い等も含まれていた。

図 3-2-1・2 に、実測された巨木 64,479 本の幹周別の本数を示す。図 3-2-1 は幹周 10m までの巨木 63,645 本で 20cm 区分のグラフである。図 3-2-2 は幹周 10m 以上の巨木 464 本で 50cm 区分のグラフである。

表3—2—5 林内の巨木本数

(単位：本)

都道府県名	* 測定巨木総数	林（並木）内の巨木本数**			合計
		実測	推定	小計	
北海道	878	70	2,213	2,283	3,161
青森県	693	19	33	52	745
岩手県	2,122	68	159	227	2,349
宮城県	991	66	5	71	1,062
秋田県	1,565	20	15	35	1,600
山形県	1,265	43	343	386	1,651
福島県	803	48	305	353	1,156
茨城県	3,274	220	17	237	3,511
栃木県	2,288	71	13,138	13,209	15,497
群馬県	1,401	74	110	184	1,585
埼玉県	1,586	33	22	55	1,641
千葉県	2,662	102	121	223	2,885
東京都	3,799	37	56	93	3,892
神奈川県	780	49	0	49	829
新潟県	2,624	139	100	239	2,863
富山県	859	102	125	227	1,086
石川県	1,827	132	0	132	1,959
福井県	1,381	0	20	20	1,401
山梨県	1,167	107	48	155	1,322
長野県	2,256	174	410	584	2,840
岐阜県	1,673	31	5	36	1,709
静岡県	2,354	96	142	238	2,592
愛知県	1,136	324	32	356	1,492
三重県	1,218	21	1,330	1,351	2,569
滋賀県	1,440	70	10	80	1,520
京都府	879	182	146	328	1,207
大阪府	602	31	40	71	673
兵庫県	1,459	46	49	95	1,554
奈良県	1,625	216	1,138	1,354	2,979
和歌山県	1,198	14	11	25	1,223
鳥取県	941	31	21	52	993
島根県	1,526	39	142	181	1,707
岡山県	476	39	73	112	588
広島県	1,167	24	5	29	1,196
山口県	833	14	12	26	859
徳島県	1,218	2	39	41	1,259
香川県	554	0	10	10	564
愛媛県	750	3	58	61	811
高知県	721	87	50	137	858
福岡県	1,454	68	89	157	1,611
佐賀県	855	22	13	35	890
長崎県	1,040	46	390	436	1,476
熊本県	1,452	16	52	68	1,520
大分県	1,302	24	89	113	1,415
宮崎県	1,111	3	5	8	1,119
鹿児島県	949	22	0	22	971
沖縄県	325	3	10	13	338
合 計	64,479	3,048	21,201	24,249	88,728

*測定巨木総数：未更新・更新・新規データの合計

**林（並木）内の巨木本数：測定巨木総数以外に本数を調査したもの

表3—2—6 市区町村別 巨木本数

(単位：本)

順位	都道府県名	市町村名	未更新データ	更新データ	新規データ	総計
1	東京都	西多摩郡奥多摩町		35	856	891
2	東京都	三宅支庁御蔵島村		4	645	649
3	秋田県	仙北郡角館町		31	413	444
4	熊本県	熊本市	141	9	198	348
5	栃木県	日光市	327			327
6	静岡県	静岡市		323		323
7	千葉県	八日市場市	78	21	211	310
8	石川県	金沢市		275	9	284
9	茨城県	水戸市	225			225
10	島根県	大原郡大東町	121		101	222
11	東京都	世田谷区		12	208	220
12	福岡県	福岡市		158	45	203
13	静岡県	富士宮市		200		200
14	栃木県	鹿沼市	196			196
14	奈良県	宇陀郡大宇陀町	196			196
16	新潟県	糸魚川市	192			192
17	京都府	舞鶴市		64	127	191
18	石川県	加賀市	173			173
19	秋田県	能代市		67	104	171
19	茨城県	常陸太田市	69		102	171
19	千葉県	市川市		26	145	171
22	茨城県	久慈郡里美村		11	157	168
23	京都府	京都市		105	57	162
24	千葉県	市原市		157		157
25	東京都	文京区		112	44	156
26	岩手県	盛岡市		155		155
27	茨城県	鹿島市	151			151
27	長野県	佐久市	151			151
29	栃木県	宇都宮市	2	147		149
29	東京都	港区		149		149
31	東京都	三宅支庁三宅村		11	136	147
31	長崎県	長崎市		125	22	147
33	茨城県	つくば市		142		142
34	静岡県	三島市		139		139
35	徳島県	徳島市		138		138
36	滋賀県	犬上郡多賀町	136			136
37	長崎県	佐世保市	134			134
38	山形県	山形市	133			133
38	石川県	小松市		132	1	133
40	奈良県	吉野郡川上村		46	84	130
40	大分県	日田市	130			130
42	北海道	札幌市		123		123
42	岩手県	陸前高田市		123		123
42	福井県	大野市		120	3	123
45	岩手県	二戸市		73	49	122
46	長野県	長野市		115	6	121
47	福井県	福井市	120			120
47	福井県	鯖江市		119	1	120
49	島根県	松江市	118			118
50	青森県	弘前市	117			117
50	岩手県	遠野市		117		117
50	新潟県	南魚沼郡六日町		117		117

順位	都道府県名	市町村名	未更新データ	更新データ	新規データ	総計
50	佐賀県	佐賀市	117			117
54	奈良県	宇陀郡室生村	116			116
55	福島県	会津若松市		33	82	115
56	群馬県	桐生市	58		49	107
56	東京都	新宿区		107		107
56	奈良県	桜井市	13		94	107
59	富山県	西礪波郡福光町		106		106
59	徳島県	那賀郡木沢村	106			106
59	熊本県	上益城郡矢部町	105		1	106
62	静岡県	沼津市	105			105
63	茨城県	東茨城郡茨城町		29	75	104
64	鳥取県	八頭郡八東町	103			103
65	奈良県	吉野郡吉野町		46	55	101
65	大分県	玖珠郡玖珠町	101			101
67	宮城県	白石市		56	44	100
67	山形県	最上郡金山町		32	68	100
67	新潟県	東頸城郡松之山町	100			100
67	島根県	能義郡広瀬町	100			100
71	岩手県	花巻市		87	12	99
71	茨城県	鹿島郡旭村		12	87	99
71	長野県	更埴市		92	7	99
74	栃木県	塩谷郡栗山村	98			98
74	福井県	三方郡美浜町		98		98
74	宮崎県	西都市	97		1	98
77	長野県	小諸市		30	67	97
77	岐阜県	大野郡白川村	97			97
77	奈良県	御所市	59		38	97
80	神奈川県	小田原市		96		96
80	静岡県	清水市		6	90	96
82	秋田県	秋田市	95			95
82	大分県	大分市		90	5	95
84	栃木県	那須郡馬頭町	94			94
84	石川県	珠洲市		92	2	94
86	千葉県	千葉市		85	8	93
86	石川県	松任市		41	52	93
86	福井県	今立郡池田町	93			93
86	和歌山県	東牟婁郡那智勝浦町	93			93
90	東京都	大島支庁利島村		18	74	92
91	群馬県	吾妻郡吾妻町	91			91
91	新潟県	東頸城郡浦川原村		63	28	91
91	山梨県	大月市		91		91
91	徳島県	美馬郡一宇村		3	88	91
95	岐阜県	益田郡萩原町	5	3	82	90
96	山形県	酒田市	89			89
96	和歌山県	有田郡清水町	89			89
96	徳島県	阿南市		89		89
96	大分県	玖珠郡九重町	2	85	2	89
96	鹿児島県	熊毛郡屋久町	89			89
		合計	5,025	5,191	4,835	15,051

* 未更新データ：前回データ（1998年調査）のままのもの
 更新データ：前回データを今回の調査結果により更新したもの
 新規データ：今回の調査で新たに確認されたもの

表3—2—7 全国の樹種別巨木総数

(単位：本)

順位	樹種	今回の本数 (2000年)	前回の本数 (1988年)	前回との増減
1	スギ	14,869	13,681	1,188
2	ケヤキ	9,452	8,538	914
3	クスノキ	5,926	5,160	766
4	イチヨウ	4,855	4,318	537
5	スダジイ(シイノキ)	4,830	3,530	1,300
6	タブノキ, イヌグス	2,124	1,907	217
7	クロマツ, アカマツ	1,677	1,729	-52
8	ムクノキ	1,641	1,465	176
9	モミ	1,605	1,364	241
10	エノキ	1,371	1,221	150
11	ミズナラ	1,259	665	594
12	カヤ	971	854	117
13	ヒノキ	786	681	105
14	トチノキ	783	647	136
15	カツラ	712	508	204
16	ブナ	688	504	184
17	イチイガシ	434	420	14
18	シラカン	413	363	50
19	イトヒガン, アスマヒガン	363	323	40
20	アカガシ	332	296	36
21	ツガ, トガ	322	236	86
22	ハルニレ, ニレ	312	292	20
23	アコウ	287	239	48
24	ツブラジイ	284	268	16
25	サワラ	268	240	28
26	ヤマザクラ	264	198	66
27	サクラ	245	190	55
28	イヌマキ	240	214	26
29	ホトノキ, モカシ	220	204	16
30	イチイ	217	190	27
31	クリ	210	163	47
32	ウラジロガシ	209	187	22
33	クロガネモチ	199	182	17
34	カン	180	139	41
35	シダレザクラ	171	98	73
36	コウヤマキ	167	140	27
37	ソメイヨシノ	164	98	66
38	イブキ, ヒメヤクシ	178	166	12
39	ヤマモモ	158	140	18
40	センダングサ	154	138	16
41	サイカチ	152	130	22
42	コナラ, ハナソ	148	127	21
43	ガジュマル	144	140	4
44	ハリギリ, センノキ	137	120	17
45	アヲカン	133	132	1
46	カシ	118	107	11
47	デイゴ	101	100	1
48	アヘマキ	94	82	12
	その他の樹種(不明含む)	3,912	3,024	888
	合計	64,479	55,798	

* 前回調査報告書の表-3 との比較表だが、「クロマツ・アカマツ」、「スダジイ・シイノキ」を比較のために1種としたため、50種が48種となっている。

図 3—2—1 幹周（10 m未満）別の本数 [63,645本]

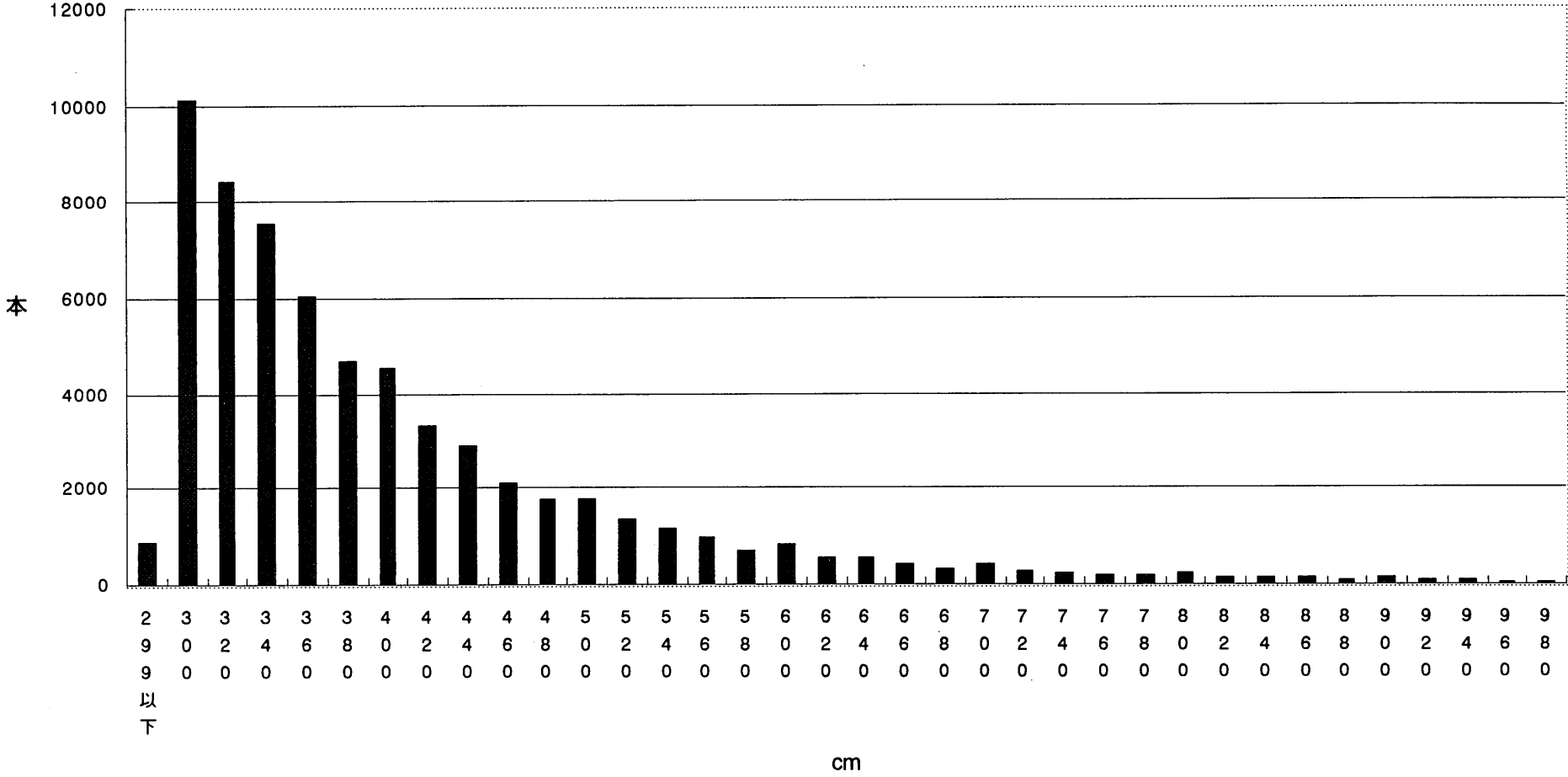
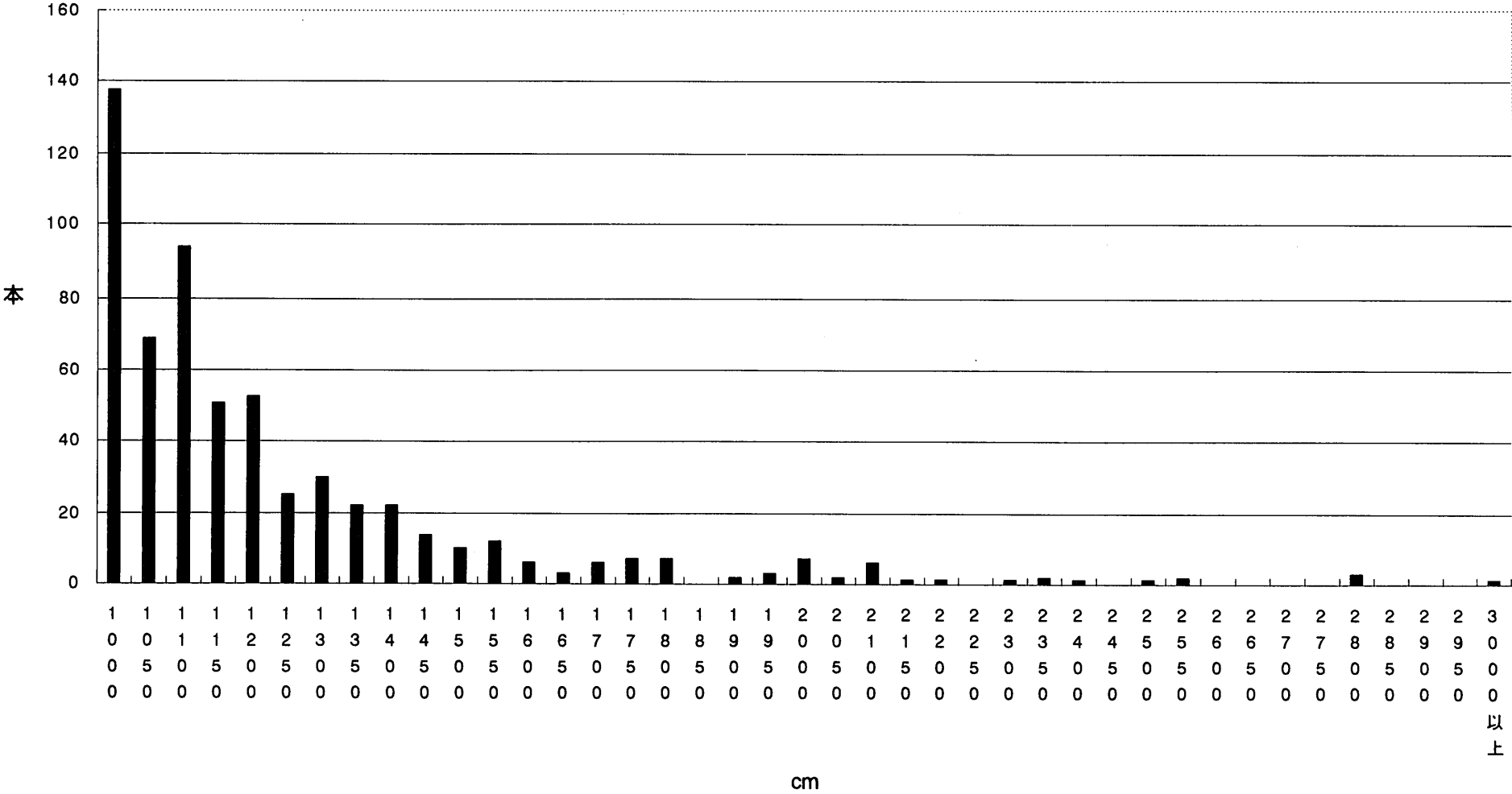


図 3—2—2 幹周 (10 m以上) 別の本数 [464 本]



(3) 巨木の大きさ

実測された巨木の幹周から算出した胸高直径（本調査では地上 1.3m の高さでの直径をいい、株立ちで幹が複数のものは主幹の胸高直径をいう。更新データ・新規データ）と、樹高の集計結果（新規データ）を表 3-2-8・9 に示す。なお、「単木・樹林・並木」の区分の記入のなかった巨木が更新データで 4 本、新規データで 10 本あり、これらは下表には含まれていない。

幹周が実測された巨木のうち、今回報告があった巨木本数は、37,249 本であった。その内訳をみると、胸高直径 1～2 m のものは約 29,000 本で 78% であった。次いで 1 m 以下のものが約 6,000 本（15%）、2～4.9 m のものが約 2,500 本（6.7%）となっており、5 m 以上のものは 32 本（0.1%）であった。

表 3-2-8 巨木の胸高直径

胸高直径（m）		更新データ						合計	
		単木		樹林		並木			
		（幹周：cm）		本	%	本	%	本	%
～0.9	（0 ～313）	1,574	11.6%	1,429	12.8%	124	13.6%	3,127	12.2%
1～1.9	（314～627）	10,920	80.4%	9,120	81.4%	742	81.2%	20,782	80.9%
2～2.9	（628－941）	879	6.5%	546	4.9%	40	4.4%	1,465	5.7%
3～3.9	（942－1255）	142	1.0%	71	0.6%	3	0.3%	216	0.8%
4～4.9	（1256－1569）	39	0.3%	10	0.1%		0.0%	49	0.2%
5m以上	（1570以上）	12	0.1%	7	0.1%		0.0%	19	0.1%
無回答		8	0.1%	16	0.1%	5	0.5%	29	0.1%
合 計		13,574	100.0%	11,199	100.0%	914	100.0%	25,687	100.0%

胸高直径（m）		新規データ						合計	
		単木		樹林		並木			
		（幹周：cm）		本	%	本	%	本	%
～0.9	（0 ～313）	1,442	24.3%	1,115	20.7%	57	23.3%	2,614	22.6%
1～1.9	（314～627）	4,123	69.4%	3,853	71.6%	176	71.8%	8,152	70.5%
2～2.9	（628－941）	291	4.9%	372	6.9%	10	4.1%	673	5.8%
3～3.9	（942－1255）	51	0.9%	28	0.5%	1	0.4%	80	0.7%
4～4.9	（1256－1569）	12	0.2%	4	0.1%		0.0%	16	0.1%
5m以上	（1570以上）	11	0.2%	2	0.0%		0.0%	13	0.1%
無回答		7	0.1%	6	0.1%	1	0.4%	14	0.1%
合 計		5,937	100.0%	5,380	100.0%	245	100.0%	11,562	100.0%

胸高直径（m）		更新・新規データ*						合計	
		単木		樹林		並木			
		本	%	本	%	本	%		
	（幹周：cm）							本	%
～0.9	（0 ～313）	3,016	15.5%	2,544	15.3%	181	15.6%	5,741	15.4%
1～1.9	（314～627）	15,043	77.1%	12,973	78.2%	918	79.2%	28,934	77.7%
2～2.9	（628～941）	1,170	6.0%	918	5.5%	50	4.3%	2,138	5.7%
3～3.9	（942～1255）	193	1.0%	99	0.6%	4	0.3%	296	0.8%
4～4.9	（1256～1569）	51	0.3%	14	0.1%	0	0.0%	65	0.2%
5m以上	（1570以上）	23	0.1%	9	0.1%	0	0.0%	32	0.1%
無回答		15	0.1%	22	0.1%	6	0.5%	43	0.1%
合 計		19,511	100.0%	16,579	100.0%	1,159	100.0%	37,249	100.0%

* 「単木・樹林・並木」の区分の記入のなかったものは含まれていない：更新データ4本、新規データ10本

また、樹高について今回報告があった巨木本数は、10,706 本であり、20～29m のものが 4,749 本と最も多く全体の 41%を占めている。次いで 10～19m のものが 3,519 本、30～39m が 1,608 本の順である。樹高が 40m を越すものは 346 本あり、全体の 3.2%程度である。なお、報告のあった樹高データのうち、約 2 割 (2,174 本) は実際に測定されたデータであるが、残り約 8 割 (8,575 本) については推定によるデータである (付表－1)。

表 3－2－9 巨木の樹高 (新規データ)

樹高 (m)	単木		樹林		並木		無回答		合 計	
	本	%	本	%	本	%	本	%	本	%
10m以下	359	6.0%	94	1.7%	27	11.0%	2	20.0%	482	4.2%
10-19	2,171	36.6%	1,286	23.9%	58	23.7%	4	40.0%	3,519	30.4%
20-29	2,357	39.7%	2,307	42.9%	83	33.9%	2	20.0%	4,749	41.0%
30-39	671	11.3%	885	16.4%	52	21.2%	0	0.0%	1,608	13.9%
40-49	105	1.8%	171	3.2%	14	5.7%	2	20.0%	292	2.5%
50m以上	23	0.4%	32	0.6%	1	0.4%	0	0.0%	56	0.5%
無回答	251	4.2%	605	11.2%	10	4.1%	0	0.0%	866	7.5%
合 計	5,937	100.0%	5,380	100.0%	245	100.0%	10	100.0%	11,572	100.0%

一方、調査の対象となった巨木 (新規データ) の推定樹齢を表 3－2－10 に示した。

表から明らかなように、巨木推定樹齢としとしては 300 年以上と推定されているものが 19%と最も多く、次いで、200～299 年のものが多い。しかしながら、不明あるいは無回答のものも 25%程度あり、巨木の樹齢を把握することが困難であることがうかがわれる。

樹種別に推定樹齢の分布をみると、イチイ、カヤ、スギ、ヒノキは推定樹齢 300 年以上のものが 3 割以上を占めており、他の樹種に比べて特徴的であるが、前回と比較すると全体的に推定樹齢の若い割合が増えている (付表－2)。

表 3－2－10 巨木の推定樹齢

推定樹齢		新規データ		前回データ
		件	%	%
推定		8,132	70.3%	88.4%
	a. 99 年以下	155	1.3%	1.1%
	b. 100 - 199 年	1,069	9.2%	11.4%
	c. 200 - 299 年	1,707	14.8%	18.8%
	d. 300 年以上	2,231	19.3%	35.0%
	e. 不明	2,923	25.3%	22.1%
伝承		415	3.6%	—
無回答		3,025	26.1%	11.6%
合 計		11,572	100.0%	100.0%

* 前は推定以外の伝承を集計していない

表 3－2－11 には調査の対象となった巨木（更新データ・新規データ）の所有者を示した

巨木の所有者で最も多かったのが寺社で、全体の 57%を占めており、この割合は前回とほぼ同じである。ただし、更新データは 63%で、新規データの 44%に対して 1.5 倍と大きく違う。一方個人は更新データは 18%だが、新規データでは、24%と逆に多い。新規データの寺社の割合が減ったのは、前回調べやすい社寺には目配りが十分になされ、今回はむしろ前回調査で目の届きにくかった個人所有のものにまで調査が及んだためと考えられる。

前回は、官公有の巨木は国、都道府県、市町村及びその他をあわせて全体の 16%だが、今回は 20%である。ただし、新規データだけみると、約 30%になる。

寺社の所有が多いことは、後述の巨木の周囲の状況において社叢林が 3 割近いこととも一致しており、巨木の生育する環境として社叢林のように保護された林の存在が重要であることがうかがわれる。

新規データ 11,572 本について樹種別に所有者の割合をみると、ほとんどの樹種で寺社あるいは個人所有が大半を占めている傾向は、前回と変わらない。特にイチョウ、カシ、スギ、ヒノキは寺社が約 7 割、ミズナラとブナについては、国、都道府県の官公有のものが 8 割以上を占めている点が特徴的である（付表－3）。

表 3－2－11 巨木の所有者

区分	更新データ		新規データ		総計		前回データ
	件	%	件	%	件	%	%
国	1,369	5.3%	801	6.9%	2,170	5.8%	5.1%
都道府県	529	2.1%	900	7.8%	1,429	3.8%	1.4%
市町村	1,351	5.3%	1,121	9.7%	2,472	6.6%	4.9%
その他公有	952	3.7%	475	4.1%	1,427	3.8%	4.4%
社寺	16,167	62.9%	5,095	44.0%	21,262	57.1%	57.5%
個人	4,544	17.7%	2,791	24.1%	7,335	19.7%	17.9%
法人等	318	1.2%	305	2.6%	623	1.7%	1.2%
不明	333	1.3%	379	3.3%	712	1.9%	1.7%
無回答	181	0.7%	55	0.5%	236	0.6%	6.2%
合 計	25,691		11,572		37,263		

* 重複回答

（註）代表的な 24 種とその他の樹種

集計・解析の便宜上、樹種を次の 25 種に集約区分した。

アコウ、イチイ、イチョウ、エノキ、カシ、カツラ、カヤ、クスノキ、ケヤキ、サクラ、サワラ、シイ、スギ、タブノキ、ツガ、トチノキ、ニレ、ヒノキ、ブナ、ホルトノキ、マツ、ミズナラ、ムクノキ、モミ、その他

例えば、次の樹種名は、複数の樹種を集約したものである。

- ・カシ：アカガシ、アラカシ、イチイガシ、ウラジロカシ、シラカシ等
- ・サクラ：イヌザクラ、エドヒガン、オオシマザクラ、シダレザクラ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ等
- ・シイ：コジイ、スタジイ、ツブラジイ等
- ・スギ：キタヤマスギ、コウヨウザン、ヌマスギ、ラクウショウ等
- ・マツ：アカマツ、カラマツ、クロマツ、ヒマラヤスギ、ヒメコマツ、リュウキュウマツ等

(4) 幹周 300cm 以下の巨樹の仲間

今回の調査では、樹齢を重ねても幹周 300cm 以上に育たない、あるいは育ちにくい樹種も「巨樹の仲間」として調査票の提出を求めた。

前回のデータをみたところ、未更新データ、更新データに幹周（株立ちの場合は主幹の最大値）300cm 以下のものがそれぞれ 146 本、234 本の計 380 本、156 種があった。なお、新規データでは、この「巨樹の仲間」の定義を誤解されたのか、幹周 300cm 以下のクスノキ 43 本やケヤキ 23 本なども含めて計 523 本の調査票が提出された。

これらの未更新データ・更新データ・新規データのうち、計測マニュアルに挙げた「巨樹の仲間」に該当したものは、幹周 1m 以上を対象としたものが 12 種 30 本、幹周 2m 以上を対象としたものが 41 種 141 本であった（表 3-2-12・13）。該当する本数とその幹周の最大値を整理した。なお、これらの樹種で幹周 300cm 以上の巨木の有無を見たところ、無しが 16 種で、有りが 37 種であった。

計測マニュアルに記載した樹種以外のもので、幹周 300cm 以上の巨木がないものは、18 種 29 本であった（表 3-2-14）。すべて、新規データであった。

表 3-2-12 幹周 3m 以下の巨樹の仲間（対象：幹周 1m 以上）

科	種名	幹周の最大値	幹周3m以下	幹周3m以上	備考
		(cm)	(本)	(本)	
クスノキ科	ニッケイ	421	5	6	
クスノキ科	ヤブニッケイ	390	3	2	
マメ科	ネムノキ	126	2	0	
ミカン科	カラスザンショウ	308	2	1	ミカン科のすべて
ミカン科	キハダ	650	0	12	"
ミカン科	ニッポンタチバナ	95	1	0	"
ミカン科	ヒロハノキハダ	157	1	0	"
ミカン科	ミカン	110	2	0	"
ミカン科	ユズ	140	2	0	"
ツゲ科	ツゲ	292	7	1	
ツツジ科	アセビ	180	3	0	ツツジ科で直立幹をもつもの
ツツジ科	ネジキ	92	2	0	"
合計			30	22	

表3—2—13 幹周3m以下の巨樹の仲間（対象：幹周2m以上）

科	種名	幹周の最大値	幹周3m以下	幹周3m以上	備考
		(cm)	(本)	(本)	
マツ科	カラマツ	600	5	52	
マツ科	ゴヨウマツ	460	4	3	
ヒノキ科	ネズミサシ	450	0	2	
ヒノキ科	ヒムロ	310	2	2	
ヤナギ科	オオバヤナギ	430	1	4	
カバノキ科	シラカンバ	305	0	1	
ブナ科	ウバメガシ	800	5	15	
モクレン科	シキミ	170	2	0	
ツバキ科	サカキ	340	4	1	ツバキ科のすべて
ツバキ科	サザンカ	433	2	1	〃
ツバキ科	ツバキ	300	13	1	〃
ツバキ科	モッコク	400	12	6	〃
ツバキ科	ヤエツバキ	140	1	0	〃
ツバキ科	ヤブツバキ	340	9	4	〃
ツバキ科	ヤマツバキ	160	3	0	〃
バラ科	アズ	350	1	1	エドヒガン系のサクラを除くサクラ属のすべて
バラ科	イヌザクラ	800	6	14	〃
バラ科	ウメ	560	5	8	〃
バラ科	ウミズザクラ	430	3	5	〃
バラ科	オオシマザクラ	730	7	25	〃
バラ科	オクチョウジザクラ	200	1	0	〃
バラ科	カスミザクラ	508	4	5	〃
バラ科	サトザクラ	860	4	5	〃
バラ科	バクチノキ	520	3	5	〃
バラ科	リンボク	157	1	0	〃
トウダイグサ科	ユズリハ	169	2	0	
ニガキ科	ニワウルシ	380	2	3	
ウルシ科	ハゼノキ	520	2	15	
シナノキ科	ヘラノキ	430	0	2	
シナノキ科	ボダイジュ	740	8	11	
ミソハギ科	サルスベリ	330	7	2	
ミズキ科	クマノミズキ	353	2	1	
ミズキ科	ミズキ	330	2	3	
カキノキ科	カキ	447	15	15	カキノキ科のすべて
カキノキ科	シナノガキ	230	1	0	〃
エゴノキ科	アサガラ	312	0	1	エゴノキ科のすべて
エゴノキ科	エゴノキ	480	0	11	〃
エゴノキ科	オオバアサガラ	431	0	1	〃
エゴノキ科	ハクウンボク	312	0	1	〃
モクセイ科	アオダモ	300	0	1	
スイカズラ科	サンゴジュ	130	2	0	
合計			141	227	

表 3—2—14 幹周 3 m 以下だけの樹種（新規データ）

樹種名	最も大きい幹周	本数
	(cm)	(本)
イヌヅカ	245	2
オヒルギ	250	1
クリシマツツジ	135	2
クロキ	130	1
ゴムノキ	200	2
コルクガシ	230	1
サツキ	190	1
サラサモクレン	162	2
シャクナゲ	183	5
シャシヤンホ	115	1
ハチジョウクワ	260	3
ハンノキ	260	1
ホウキネズ	75	1
ムロナシ	215	1
ヤマトアオダモ	257	1
ヤマフジ	138	2
リュウキュウハゼ	212	1
ワビヤクダシ	125	1
合計		29

* 未更新・更新データには該当がなかった

2.2 生態的項目

(1) 巨木の周囲の状況

巨木について、周囲の状況の集計結果（新規データ）を表3—2—15に示す。

巨木の周囲は、樹林が7,337件（63%）と前回（62%）同様に最も多く、次いで道路1,574件（14%）、建物群1,400件（12%）の順である。樹林の内訳をみると、社叢等の小面積のものが3,373件（29%）、山林等大面積の樹林に位置する巨木は3,249件（28%）とほぼ同じである。前回調査では社叢等が44%と多く、山林等は半分以下の16%の割合であった。これは、前回調査では比較的人目につきやすい社叢等の巨木が多く抽出され、今回は山間部にも広く調査が及んだ結果と考えられる。

表3—2—15 巨木周囲の状況

区分	新規データ		前回データ
	件	%	%
樹林 小計	7,337	63.4%	62.1%
樹林（山林等）	3,249	28.1%	16.3%
樹林（社叢等）	3,373	29.1%	44.1%
樹林	715	6.2%	1.7%
公園	421	3.6%	5.0%
耕地	865	7.5%	13.7%
建物群	1,400	12.1%	21.8%
道路	1,574	13.6%	18.9%
水面	130	1.1%	2.2%
その他	1,139	9.8%	14.8%
無回答	1,114	9.6%	6.8%
合計	11,572		

* 重複回答

表3-2-16に巨木について、根元（林床）の状況の集計結果（新規データ）を示す。

根元（林床）の状況は、稚樹・低木等が3,555件（31%）と最も多く、次いで、裸地が3,455件（30%）草地等が3,313件（29%）の順であり、舗装は759件（6.6%）である。

前回と比べると、裸地、草地等が減り、稚樹・低木等が増えている。これは、前回調査に比べ、山間部の林内の巨木の割合が増えたことによるものと推測される。

表3-2-16 巨木根元の状況

区分	新規データ		前回データ
	件	%	%
裸地	3,455	29.9%	45.7%
草地・地被類	3,313	28.6%	35.4%
稚樹・その他低木生育	3,555	30.7%	24.1%
ササその他やぶ	1,367	11.8%	16.0%
舗装 小計	759	6.6%	8.8%
舗装 砂利・碎石	228	2.0%	2.1%
舗装 アスファルト・コンクリート	403	3.5%	3.4%
舗装 その他	58	0.5%	4.7%
その他	272	2.4%	0.8%
無回答	1,505	13.0%	7.3%
合計	11,572		

* 重複回答

(2) 巨木の生態的状況

巨樹・巨木林における鳥類あるいは獣類の生息状況の集計結果（新規データ）を表3-2-17・18に示す。なお、セミ・ハチ等の昆虫は獣類に含めた。

鳥類及び獣類の生息状況について生息が有りと報告されているのは、鳥類で8.5%、獣類で4.1%と少ない。ただし、前はどちらも約3%と少なかった。鳥類や獣類のように移動能力の大きな生物の生息に関しては今回のような1回だけの調査ではなかなか生息状況を把握するまでには到らず、経年的な調査が必要であろう。

表3-2-17 特記すべき鳥類の生息状況

区分	新規データ		前回データ
	件	%	%
無し	6,472	55.9%	73.9%
有り	988	8.5%	3.0%
不明	1,422	12.3%	18.7%
無回答	2,690	23.2%	4.4%
合計	11,572	100.0%	100.0%

表3-2-18 特記すべき獣類の生息状況

区分	新規データ		前回データ
	件	%	%
無し	7,120	61.5%	70.1%
有り	469	4.1%	2.7%
不明	1,233	10.7%	19.2%
無回答	2,750	23.8%	7.9%
合計	11,572	100.0%	100.0%

表3-2-19に巨樹・巨木林における着生植物等の有無の集計結果（新規データ）を示す。着生植物等があると報告された巨木は、全体の34%と、動物に比べて高い割合を示している。巨木のように年数を経てくるとツタやヤドリギのような着生植物も多くなると、動物の生息状況に比べて着生植物等の生息状況は把握し易いことも理由の一つと思われる。前は45%と多かったが、推定樹齢を比較すると、今回は前回よりも樹齢の高いものが少なくなっていることもその一因であろう。

表3-2-19 着生植物等の有無

区分	新規データ		前回データ
	件	%	%
無し	5,571	48.1%	47.7%
有り	3,876	33.5%	44.8%
無回答	2,125	18.4%	7.5%
合計	11,572	100.0%	100.0%

鳥類の生息に関して代表的な24種の樹種別の特徴はあまり明瞭ではなかったが、シイで41%、ホルトノキで39%が生息有りと高い割合を示した（付表-4）。前者は、御蔵島のオオミズナギドリ、後者は小笠原の母島がほとんどを占めており、地域の特性と解釈すべきである。

獣類の生息に関して樹種別の特徴は明瞭ではなかったが、カツラで20%が生息有りと最も高い値である（付表-5）。

着生植物の有無について、着生植物等がない割合が高かった（60%以上）ものは、前回同様イチイ、イチョウ、サワラ、マツで、さらにカヤ、スギ、ニレ、ヒノキが加わった（付表-6）。

巨樹・巨木林に生息している鳥類あるいは獣類について特に種類名が記入してあったのは、鳥類917件、獣類320件であった。鳥類及び獣類の名前は重複回答であり、個々の種類名を抽出すると、鳥類で記入が多かったのは、オオミズナギドリ（643件）、フクロウ（76）、アカゲラ（49）、カラス（36）、ク

マタカ (30)、キツツキ (20)、スズメ (14)、メジロ (10)、キジバト (10)、ムクドリ (10)、ウグイス (10) 等であった。

一方、獣類で多かったのは、リス (エゾリス) (67 件)、ヘビ (65 件)、クマ (ヒグマ) (61 件)、シカ (エゾシカ) (61 件)、カモシカ (40 件)、ムササビ (21 件)、タヌキ (10 件)、イノシシ (9 件)、キツネ (7 件)、モモンガ (7 件) 等であった。

(3) 巨木の健全性

単木及び樹林・並木の欠損の状況と欠損の要因の集計結果（新規データ）を表 3－2－20・21 に示す。

まず単木についてみると、欠損のない巨木 3,100 本（46％）に対し、欠損のある巨木は 2,878 本（43％）で欠損のない巨木の方がわずかに多い。前回は、欠損のない巨木の方が約 2.3 倍もあったが、今回はかなり欠損が多いといえる。欠損の内訳をみると、小枝枯損が 1,034 件と最も多く、次いで大枝枯損が 695 件、空洞有りが 597 件の順であり、この順は前回と変わらない。欠損の原因は、不明が 726 件と最も多く、次いで剪定等による人為的な原因も 412 件と多かった。大風によるもの 438 件、病虫害 124 件、落雷 91 件、積雪 88 件、その他の自然災害が 290 件となっている。前回と割合を比べると、大風が 16％から 20％と増えている。

次に樹林・並木についてみると、欠損のない林木 2,538 件に対し、欠損のある林木は 3,422 件で、全体の半数に欠損があることになる。前回は、欠損のある林木は全体の 15％だったので、その割合は 3 倍になった。林木の欠損の内訳をみると、小枝枯損が 1,299 件と最も多く、次いで空洞有りが 901 件、大枝枯損が 796 件の順であり、空洞の割合は単木の 1.5 倍に当たる。欠損の原因は、不明が 716 件と最も多く、次いでその他の自然災害が 378 件、大風によるもの 307 件である。積雪 113 件、剪定等による人為的な原因 99 件、病虫害 47 件、落雷 46 件となっており、単木と比べると、その他の自然災害が約 1.6 倍、人為的な原因は 1 / 3 以下である。なお、林木の欠損についての調査項目は単木と同じにしたため、前回と異なっている。

欠損の原因について、前回は単木、樹林・並木ともその内訳の構成割合が良く似ていたが、今回は樹林・並木で人為的な原因の割合が、極端に少なく、これは今回調査があまり人手の入らない山間部に及んだことが関係あると考えられる。

表 3－2－20 巨木の欠損度

区分	単木			樹林・並木**		合計	
	新規データ		前回データ	新規データ		新規データ	
	件	%	%	件	%	件	%
無し	3,100	46.0%	49.7%	2,538	38.0%	5,638	42.0%
有り	2,878	42.7%	21.7%	3,422	51.2%	6,300	46.9%
大枝枯損	695	10.3%	17.4%	796	11.9%	1,491	11.1%
小枝枯損	1,034	15.3%	21.2%	1,299	19.4%	2,333	17.4%
頭頂部枝折れ	298	4.4%	6.8%	162	2.4%	460	3.4%
下部枝折れ	107	1.6%	1.7%	96	1.4%	203	1.5%
空洞あり	597	8.9%	10.6%	901	13.5%	1,498	11.2%
異常なこぶあり	147	2.2%	3.7%	168	2.5%	315	2.3%
無回答	766	11.4%	18.0%	722	10.8%	1,488	11.1%
合計	6,744			6,682		13,426	

* 「有り」の内訳は重複回答

** 樹林・並木の前回データは調査項目が異なるため掲載していない

表 3—2—21 巨木の欠損の要因

区分	単木			樹林・並木		
	新規データ		前回データ	新規データ		前回データ
	件	%	%	件	%	%
大風	438	20.2%	15.5%	307	18.0%	18.3%
落雷	91	4.2%	4.4%	46	2.7%	5.8%
積雪	88	4.1%	4.1%	113	6.6%	6.0%
病虫害	124	5.7%	4.5%	47	2.8%	7.5%
その他自然災害	290	13.4%	19.9%	378	22.2%	25.1%
人為（剪定等）	412	19.0%	16.5%	99	5.8%	10.0%
不明	726	33.5%	35.1%	716	42.0%	27.2%
合計	2,169	100.0%	100.0%	1,706	100.0%	100.0%

* 重複回答

健全度（未更新データ・更新データ・新規データ）の集計結果を表 3—2—22 に示す。

健全度（合計）は良が 48,050 件、不良が 13,072 件であり、今回報告のあった巨木の 75%は健全度が良とされているが、不良のものは 20%である。前は、良が 75%、不良が 17%だったので、やや不良が増えた。これは、更新データで不良が 25%、新規データで 19%と多くなったためである。

健全度が不良の場合の内訳を更新データでみると、一部枯損が 4,868 件（19%）と他の項目に比べて圧倒的に多く、枯死寸前と報告されているものは 913 件（3.6%）、病虫害ありと報告されているものは 116 件（0.5%）であった。新規データでは、一部枯損が 1,559 件（14%）で、枯死寸前と報告されているものは 142 件（1.2%）、病虫害ありと報告されているものは 57 件（0.5%）であった。

表 3—2—22 巨木の健全度

区分	未更新データ		更新データ		新規データ		合計		前回データ
	件	%	件	%	件	%	件	%	%
良	20,509	75.4%	19,002	74.0%	8,539	73.8%	48,050	74.5%	75.2%
不良	4,644	17.1%	6,290	24.5%	2,138	18.5%	13,072	20.3%	17.0%
枯死寸前	324	1.2%	913	3.6%	142	1.2%	1,379	2.1%	1.2%
一部枯損	3,888	14.3%	4,868	18.9%	1,559	13.5%	10,315	16.0%	14.3%
病虫害	145	0.5%	116	0.5%	57	0.5%	318	0.5%	0.5%
異常落葉	25	0.1%	28	0.1%	14	0.1%	67	0.1%	0.1%
その他	262	1.0%	365	1.4%	366	3.2%	993	1.5%	1.0%
不明	2,176	8.0%	423	1.6%	936	8.1%	3,535	5.5%	8.0%
合計	27,216	100.0%	25,691	100.0%	11,572	100.0%	64,479	100.0%	100.0%

* 「不良」の内訳は重複回答

また、健全度を樹種別に見ると、サクラでは前回同様に特に健全度不良の割合が高く、更新データで 52%、新規データで 32%、未更新データとの合計では 44%と著しく高い割合を示している。次いで、合計では前回同様にイチイ、カシ、カツラ、シイ、タブノキ、ニレ、ミズナラ、ムクノキ等でも健全度が不良の割合が 20%以上にのぼっており、さらに今回エノキ、カヤ、ケヤキ、サワラにおいて健全度が不良の割合が 20%程度であった。これらの樹種では 5 本に 1 本以上は健全度が不良であることが明らかになった（付表一 7）。

2.3 人文的項目

(1) 信仰対象としての巨木

信仰対象等の集計結果（未更新データ・更新データ・新規データ）を表3－2－23に示す。

信仰対象等の有無についてみると、「無し」が42,020件（65%）と多いが、信仰対象物（社、ほこら、鳥居、しめ縄等）があるものが13,984件（22%）、禁忌（タブー等）がある場合が751件（1.2%）、巨木にまつわる祭事等がある場合が1,353件（2.1%）となっており、何等かのかたちで人との結び付きが強い巨木は16,088件報告されている。内訳の割合では、前回との差はあまりみられないが、「無し」が1.6ポイント増えた。

信仰対象の有無について、樹種別の差異はあまり明瞭ではないが、アコウ、ツガ、ブナでは信仰の対象となっていないものが8割を超えており、一方スギは信仰の対象となっているものが前回と同じく3割近いことが、特徴的である（付表－8）。

表3－2－23 信仰対象等の有無

区分	未更新データ		更新データ		新規データ		合計		前回データ
	件	%	件	%	件	%	件	%	%
信仰対象無し	17,800	65.4%	16,927	65.9%	7,293	63.0%	42,020	65.2%	63.6%
信仰対象有り	6,088	22.4%	5,606	21.8%	2,290	19.8%	13,984	21.7%	21.6%
禁忌（タブー）有り	346	1.3%	345	1.3%	60	0.5%	751	1.2%	1.2%
祭事有り	589	2.2%	583	2.3%	177	1.5%	1,353	2.1%	2.1%
不明	1,324	4.9%	1,237	4.8%	426	3.7%	2,987	4.6%	4.7%
無回答	1,961	7.2%	1,858	7.2%	1,520	13.1%	5,339	8.3%	6.7%
総計	27,216		25,691		11,572		64,479		

*「有り」の内訳は重複回答

(2) 巨木の呼称・名称

巨木に関する独特の呼称・名称等の有無の集計結果（未更新データ・更新データ・新規データ）を表3－2－24に示す。

独特の呼称・名称の有無についてみると、「無し」が49,344件（77%）、「有り」が10,259件（16%）で、「無し」が「有り」の約5倍となった。前回と比べると、「有り」が若干多くなった。特に新規データでは24%と大変多い。

樹種別にみると、前回同様にイチイ、サクラ、マツで独特の呼称・名称が「有り」とされている割合が高い（30～40%）。なお、新規データでみると、シイが60%、トチノキとホルトノキが35、36%と高い。シイは、伊豆諸島のスダジイの樹林の多くが〇〇の森との名称があることによる。これらの樹種はいずれも人との関わりが深いことがうかがわれる（付表－9）。

表3－2－24 独特の呼称・名称の有無

区分	未更新データ		更新データ		新規データ		合計		前回データ
	件	%	件	%	件	%	件	%	%
無し	20,668	75.9%	20,208	78.7%	8,468	73.2%	49,344	76.5%	75.6%
有り	3,618	13.3%	3,905	15.2%	2,736	23.6%	10,259	15.9%	13.1%
不明	1,065	3.9%	1,285	5.0%	358	3.1%	2,708	4.2%	4.4%
無回答	1,865	6.9%	293	1.1%	10	0.1%	2,168	3.4%	6.9%
合 計	27,216	100.0%	25,691	100.0%	11,572	100.0%	64,479	100.0%	100.0%

(3) 巨木の故事・伝承

巨木の故事・伝承有無の集計結果（未更新データ・更新データ・新規データ）を表3－2－25に示す。

故事・伝承の有無についてみると、「無し」が47,573件（74%）、「有り」が3,621件（5.6%）で、大半の巨木に関しては故事・伝承等はないとされている。前回と比べると、故事・伝承がある割合は変わらない。

表3－2－25 巨木に関する故事・伝承の有無

区分	未更新データ		更新データ		新規データ		合計		前回データ
	件	%	件	%	件	%	件	%	
無し	20,483	75.3%	18,963	73.8%	8,127	70.2%	47,573	73.8%	74.6%
有り	1,508	5.5%	1,604	6.2%	509	4.4%	3,621	5.6%	6.0%
不明	3,262	12.0%	3,232	12.6%	1,409	12.2%	7,903	12.3%	12.3%
無回答	1,963	7.2%	1,892	7.4%	1,527	13.2%	5,382	8.3%	4.1%
合 計	27,216	100.0%	25,691	100.0%	11,572	100.0%	64,479	100.0%	100.0%

(4) 巨木の視認性

巨木の視認性に関する集計結果（新規データ）を表3－2－26に示す。

巨木の視認性についてみると、「遠方からも目立つ」巨木は2,113件（18%）、「付近に行けば目立つ」巨木が6,238件（54%）で、「直前まで見えない」巨木は1,770件（15%）であった。

前回と比べると、「遠方からも目立つ」巨木の割合が32%から18%と減ったが、「付近に行けば目立つ」巨木の割合は48%から54%、「直前まで見えない」巨木の割合は13%から15%と増えている。巨木の視認性は、巨木の大きさのみならず周囲の状況にも大きく左右されると思われるが、「遠方からも目立つ」巨木の割合の減少は、今回の調査が山間部の樹林に及んだことも関係あると考えられる。単木と樹林を比較すると、「遠方からも目立つ」巨木は単木の方が多く、「直前まで見えない」巨木は樹林が多かった。

表3－2－26 類型別巨木の視認性

区分	新規データ										前回データ
	単木		樹林		並木		不明		合計		
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	
遠方からも目立つ	1,361	11.8%	672	5.8%	77	0.7%	3	0.0%	2,113	18.3%	32.1%
付近に行けば目立つ	3,015	26.1%	3,074	26.6%	144	1.2%	5	0.0%	6,238	53.9%	47.5%
直前まで見えない	772	6.7%	984	8.5%	12	0.1%	2	0.0%	1,770	15.3%	13.4%
無回答	789	6.8%	650	5.6%	12	0.1%	0	0.0%	1,451	12.5%	7.0%
合 計	5,937	51.3%	5,380	46.5%	245	2.1%	10	0.1%	11,572	100.0%	100.0%

* 不明は、単木・樹林・並木の区分の記入がなかったもの

(5) 巨木の直接利用（樹林）

巨木の直接利用（樹林）の集計結果（新規データ）を表3－2－27に示す。

直接利用の有無についてみると、「無し」が 8,805 件（76%）、「有り」が 644 件（5.5%）で、「無し」が「有り」の約 14 倍である。前回は、「無し」の割合が 65%、「有り」が 7.3%だったので、巨木の直接利用は「無し」が増えていることになる。

巨木林を何等かの形で利用しているものの内訳をみると、観光・レクリエーション・公園が 481 件（4.2%）と最も多く、次いで林業的利用 124 件（1.1%）、その他材木の直接利用 39 件（0.3%）の順であった。前回の観光・レクリエーション・公園の割合は 5.2%だったので、少なくなったことになる。今回の調査では、利用の実績がない山間部の巨木が多く記録されたことも関連すると見られる。

表 3－2－27 巨木林の直接利用の有無

区分	新規データ		前回データ
	件	%	%
特に無し	8,805	76.1%	64.7%
林業的利用	124	1.1%	1.9%
その他林木の直接利用	39	0.3%	0.2%
観光・レクリエーション・公園	481	4.2%	5.2%
無回答	2,162	18.7%	27.2%
その他**	—		2.3%
合 計	11,572		

* 重複回答

** 前回調査では「その他」があった

2.4 保護の項目

(1) 巨木の保護指定

単木及び樹林の保護制度の指定に関する集計結果（更新データ・新規データ）を表3-2-28に示す。

保護制度の指定がないものは19,586件（53%）、何等かの形で保護制度があるものは16,400件（44%）で、「無し」が「有り」を上回っている。ただし、新規データでは、逆に「有り」（48%）が「無し」（44%）をわずかが上回っている。前回は、「無し」が50%でありあまり変わらないが、「有り」が29%だったので今回はその約1.5倍となった。これは、今回の調査は回答者が市町村であるため、保護制度については詳しく把握していることが影響したと考えられる。

保護制度別にみると、天然記念物等の指定が5,329件（14%）と最も多く、次いでその他制度4,634件（12%）、自然公園4,229件（11%）、風致地区・緑地保全地区等2,009件（5.4%）などの順であった。前回と比べると、いずれも件数が増えているが、この順は変わらない。新規データでは、自然公園が23%と更新データ（6.3%）の4倍近いことが特徴的である。

表3-2-28 巨木の保護制度指定の有無

区分	更新データ		新規データ		合計		前回データ
	件	%	件	%	件	%	%
保護制度 無し	14,555	56.7%	5,031	43.5%	19,586	52.6%	50.2%
保護制度 有り（小計）	10,826	42.1%	5,574	48.2%	16,400	44.0%	28.7%
天然記念物等	4,384	17.1%	945	8.2%	5,329	14.3%	12.1%
自然公園	1,609	6.3%	2,620	22.6%	4,229	11.3%	4.5%
自然環境保全地域	344	1.3%	191	1.7%	535	1.4%	0.5%
保安林・学習参考保護林等	740	2.9%	171	1.5%	911	2.4%	1.6%
都市公園	454	1.8%	179	1.5%	633	1.7%	1.0%
風致地区等	1,368	5.3%	641	5.5%	2,009	5.4%	2.6%
その他制度	3,580	13.9%	1,054	9.1%	4,634	12.4%	9.1%
不明	158	0.6%	108	0.9%	266	0.7%	1.2%
無回答	310	1.2%	967	8.4%	1,277	3.4%	21.2%
合計	25,691	100.0%	11,572	100.0%	37,263	100.0%	100.0%

*「有り」の内訳は重複回答

巨木の大きさによって保護制度指定の状況（更新データ・新規データ）を整理したのが、表3-2-29である。胸高直径が2m以上（幹周628cm以上）のものについては保護制度指定があるものの方が多く、これは前回と変わらない。一方、胸高直径が2m以下の樹木については、単木・樹林・並木とも保護制度の指定がない方が多い。ただし、新規データでは樹林では、胸高直径が1m（幹周314cm以上）から1.9mで保護制度指定があるものの方がわずかが多い。更新データでは指定無しの方が多く、新規データでは指定有りの方が多く、約2倍となっている。前回は、並木で保護制度の指定あるものの方が多く、樹林では保護制度有無の割合はほぼ同じだった。

さらに、樹種別に保護制度の指定の有無について整理すると、イチイ、カヤ、サクラは天然記念物等の指定がある割合が25%以上と高い（付表-10）。また、ブナ、ミズナラでは自然公園内にある割合が70%以上と高いことが特徴的である。これらの傾向は、前回と変わらない。なお新規データでは、ツガも自然公園の指定の割合が大変高い。

表3-2-29 胸高直径別の保護制度指定の有無

更新・新規データの合計

胸高直径 区分		更新・新規データ（保護制度の有無 ※不明を除く）																前回データ	
		単木				樹林				並木				合計				合計	
		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り		保護無し	保護有り
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	%	%
～0.9	(0 ～313)	1,817	9.63%	1,039	5.51%	1,134	7.10%	1,303	8.16%	104	9.15%	71	6.24%	3,055	8.49%	2,413	6.71%	—	—
1～1.9	(314～627)	8,918	47.29%	5,679	30.11%	6,335	39.66%	6,171	38.63%	511	44.94%	394	34.65%	15,764	43.82%	12,244	34.04%	58.67%	34.30%
2～2.9	(628～941)	416	2.21%	723	3.83%	234	1.46%	660	4.13%	19	1.67%	29	2.55%	669	1.86%	1,412	3.93%	1.84%	4.52%
3～3.9	(942～1255)	49	0.26%	134	0.71%	15	0.09%	78	0.49%	1	0.09%	3	0.26%	65	0.18%	215	0.60%	0.13%	0.72%
4～4.9	(1256～1569)	7	0.04%	42	0.22%	2	0.01%	12	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	9	0.03%	54	0.15%	0.01%	0.19%
5m以上	(1570以上)	6	0.03%	16	0.08%	0	0.00%	9	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.02%	25	0.07%	0.01%	0.09%
無回答		5	0.03%	9	0.05%	7	0.04%	15	0.09%	1	0.09%	4	0.35%	13	0.04%	28	0.08%	—	—
小 計		11,218	59.48%	7,642	40.52%	7,727	48.37%	8,248	51.63%	636	55.94%	501	44.06%	19,581	54.43%	16,391	45.57%	60.66%	39.47%
合 計	(件)	18,860				15,975				1,137				35,972				34,192	

*前回調査では1m以下の巨木は「1～1.9」に含まれていた

*前回調査では、「無回答」は集計していない

更新データの合計

胸高直径 区分		更新データ (保護制度の有無 ※不明を除く)															
		単木				樹林				並木				合計			
		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り	
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
	(幹周: cm)																
～0.9	(0 ～313)	1,036	7.66%	532	3.93%	769	7.04%	610	5.58%	73	7.99%	51	5.58%	1,878	7.40%	1,193	4.70%
1～1.9	(314～627)	6,605	48.81%	4,283	31.65%	5,101	46.67%	3,818	34.93%	393	43.00%	349	38.18%	12,099	47.68%	8,450	33.30%
2～2.9	(628～941)	308	2.28%	567	4.19%	191	1.75%	343	3.14%	17	1.86%	23	2.52%	516	2.03%	933	3.68%
3～3.9	(942～1255)	33	0.24%	109	0.81%	14	0.13%	52	0.48%	0	0.00%	3	0.33%	47	0.19%	164	0.65%
4～4.9	(1256～1569)	5	0.04%	34	0.25%	1	0.01%	9	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.02%	43	0.17%
5m以上	(1570以上)	1	0.01%	11	0.08%	0	0.00%	7	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.00%	18	0.07%
無回答		3	0.02%	5	0.04%	4	0.04%	12	0.11%	1	0.11%	4	0.44%	8	0.03%	21	0.08%
小 計		7,991	59.05%	5,541	40.95%	6,080	55.62%	4,851	44.38%	484	52.95%	430	47.05%	14,555	57.36%	10,822	42.64%
合 計	(件)	13,532				10,931				914				25,377			

新規データの合計

胸高直径 区分		新規データ (保護制度の有無 ※不明を除く)															
		単木				樹林				並木				合計			
		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り		保護無し		保護有り	
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
~0.9 (0 ~313)	781	14.66%	507	9.52%	365	7.24%	693	13.74%	31	13.90%	20	8.97%	1,177	11.11%	1,220	11.51%	
1~1.9 (314~627)	2,313	43.41%	1,396	26.20%	1,234	24.46%	2,353	46.65%	118	52.91%	45	20.18%	3,665	34.59%	3,794	35.81%	
2~2.9 (628~941)	108	2.03%	156	2.93%	43	0.85%	317	6.28%	2	0.90%	6	2.69%	153	1.44%	479	4.52%	
3~3.9 (942~1255)	16	0.30%	25	0.47%	1	0.02%	26	0.52%	1	0.45%	0	0.00%	18	0.17%	51	0.48%	
4~4.9 (1256~1569)	2	0.04%	8	0.15%	1	0.02%	3	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.03%	11	0.10%	
5m以上 (1570以上)	5	0.09%	5	0.09%	0	0.00%	2	0.04%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.05%	7	0.07%	
無回答	2	0.04%	4	0.08%	3	0.06%	3	0.06%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.05%	7	0.07%	
小 計	3,227	60.57%	2,101	39.43%	1,647	32.65%	3,397	67.35%	152	68.16%	71	31.84%	5,026	47.44%	5,569	52.56%	
合 計 (件)	5,328				5,044				223				10,595				

(2) 巨木に関する解説板等の有無

巨木に関する解説板等の有無についての集計結果（新規データ）を表3－2－30に示す。集計結果を見ると、「無し」が8,344件（72%）、「有り」が2,195件（19%）であった。前は、「無し」が70%だったのでほぼ同じだが、「有り」は25%だったので、かなり少なくなったことになる。

「有り」の内訳をみると、樹名板が1,160件（10%）と最も多く、次いで、解説板841件（7.3%）、その他240件（2.1%）、石標96件（0.8%）の順であった。前は、解説板が12%で樹名板の11%よりも多かったが、順位が入れ替わった。

表3－2－30 巨木に関する解説板等の有無

区分	新規データ		前回データ
	件	%	%
無し	8,344	72.1%	70.6%
有り 小計	2,195	19.0%	22.5%
樹名板	1,160	10.0%	10.7%
解説板	841	7.3%	11.7%
石標	96	0.8%	1.5%
その他	240	2.1%	1.6%
無回答	1,033	8.9%	7.0%
合 計	11,572	100.0%	100.0%

* 「有り」の内訳は重複回答

2.5 その他の項目

(1) 特記事項

巨木の保護に関する特記事項の集計結果（更新データ・新規データ）を表3-2-31に示す。集計結果をみると、「特記事項無し」が24,889件（67%）、「有り」が9,867件（27%）であった。「有り」の内訳は、更新データでは30%だが、新規データでは18%と少ない。なお前回は「有り」が23%、「無し」が70%であった。

「特記事項有り」の内訳をみると、定期的な下刈り・清掃が7,019件（19%）と最も多く、次いで枯損部の削除・枝下ろしが3,115件（8.4%）、保護柵設置が1,737件（4.7%）などの順であった。この順位は、前回も、今回の更新データ・新規データとも変わらない。なお、定期的な下刈り・清掃は、更新データでは22%と高いが、新規データでは13%と少ない。

保護に関する特記事項の有無に関して、樹種別にみると（付表-11）、前回同様に保護に関する特記事項が少ない（「無し」が80%以上）ものはアコウ・ツガ・ブナで、今回はトチノキ・ホルトノキが加わった。

表3-2-31 巨木の保護に関する特記事項

区分	更新データ		新規データ		合計		前回データ
	件	%	件	%	件	%	%
無し	17,257	67.2%	7,632	66.0%	24,889	66.8%	69.6%
有り 小計	7,816	30.4%	2,051	17.7%	9,867	26.5%	23.0%
保護柵設置	1,475	5.7%	262	2.3%	1,737	4.7%	4.0%
避雷針設置	49	0.2%	10	0.1%	59	0.2%	0.3%
支柱設置	347	1.4%	90	0.8%	437	1.2%	1.0%
薬剤散布・施肥	598	2.3%	146	1.3%	744	2.0%	1.9%
定期的な下刈り・清掃	5,518	21.5%	1,501	13.0%	7,019	18.8%	16.2%
枯損部削除・枝下ろし	2,502	9.7%	613	5.3%	3,115	8.4%	7.4%
買収運動	14	0.1%	3	0.0%	17	0.0%	0.0%
その他	416	1.6%	192	1.7%	608	1.6%	1.7%
無回答	618	2.4%	1,889	16.3%	2,507	6.7%	7.4%
合計	25,691	100.0%	11,572	100.0%	37,263	100.0%	100.0%

* 「有り」の内訳は重複回答

2.6 枯死・伐採等

前回調査のデータについて、巨木の現況を把握するために追跡調査票の回答を該当市町村及び全国巨樹・巨木林の会会員に依頼したところ、下記の通り「枯死、伐採、消失等」の報告があった。なお、全国巨樹・巨木林の会会員向けの追跡調査票（一般）には、前回調査された巨樹・巨木林について、衰弱枯死及び開発等の理由で伐採されたものを確認した場合に「樹種・枯死年度・枯死原因」の報告を求めた。しかし、市町村向けの追跡調査票には、枯死・伐採等について特に「枯死年度・枯死原因」の記載を求めなかったため、以下の通り得られたデータは限られている。

(1) 枯死

枯死は、立ち枯れの他、雷による焼失、台風による倒木、マツクイムシ等の病虫害で枯れたもの（自然災害で枯れ危険なので切ったという場合も含む）等をいい、伐採した原因が人間の都合によらないものを含む。健全度の「6.枯死」は、未更新データに 6 件、更新データに 892 件が報告された。また調査の有無の「8(全国巨樹・巨木林の会会員から枯死報告)」29 件も枯死に含まれ、計 927 件である。

*「8(全国巨樹・巨木林の会会員から枯死報告)」は、同じ木について、別々の人から「枯れていない」「枯死」との相反する報告がなされた場合は、健全度が「6.枯死」以外でも「枯死」として扱った。

表 3－2－32（次ページ）は、県別・樹種別の枯死した巨木の内訳を示す。

県別内訳では、全都道府県に及び、最も多いのが熊本県のスギ 16 件を含む 57 件、次いで新潟県のマツ 22 件及びスギ 17 件を含む 53 件、大分県のスギ 20 件を含む 48 件、千葉県のスギ 11 件を含む 35 件、宮崎県のスギとタブノキ各 7 件の 34 件と続く。枯死の原因について記載が多かった 2 県を見ると、熊本県では 37 件（そのうちスギ 15 件）、大分県では 32 件（そのうちスギ 18 件）が台風によるものであった。新潟県は記載の件数が少ないが、そのうち 7 件が台風によるものであった。

表 3－2－33 は、枯死の原因について記載のあった 297 件の原因別件数の内訳である。台風及び強風によるもの 198 件、病虫害によるもの 55 件、落雷によるもの 10 件等である。

表 3－2－33 枯死した巨木の原因

原因	件
台風・強風	198
病虫害	55
落雷	10
雪害	8
火事	8
老衰・腐れ	7
危険のため伐採	7
災害	3
地滑り	1
合計	297

図 3－2－3 は、県別の分布を、図 3－2－4 は枯死の中からその原因が台風及び強風のもの 198 件の分布である。なお、図 3－2－3～7 の分布は、今回追跡調査の回答があった市町村に限られたものであり、全国分布を示すものではない。

表3—2—32 県別・樹種別枯死した巨木

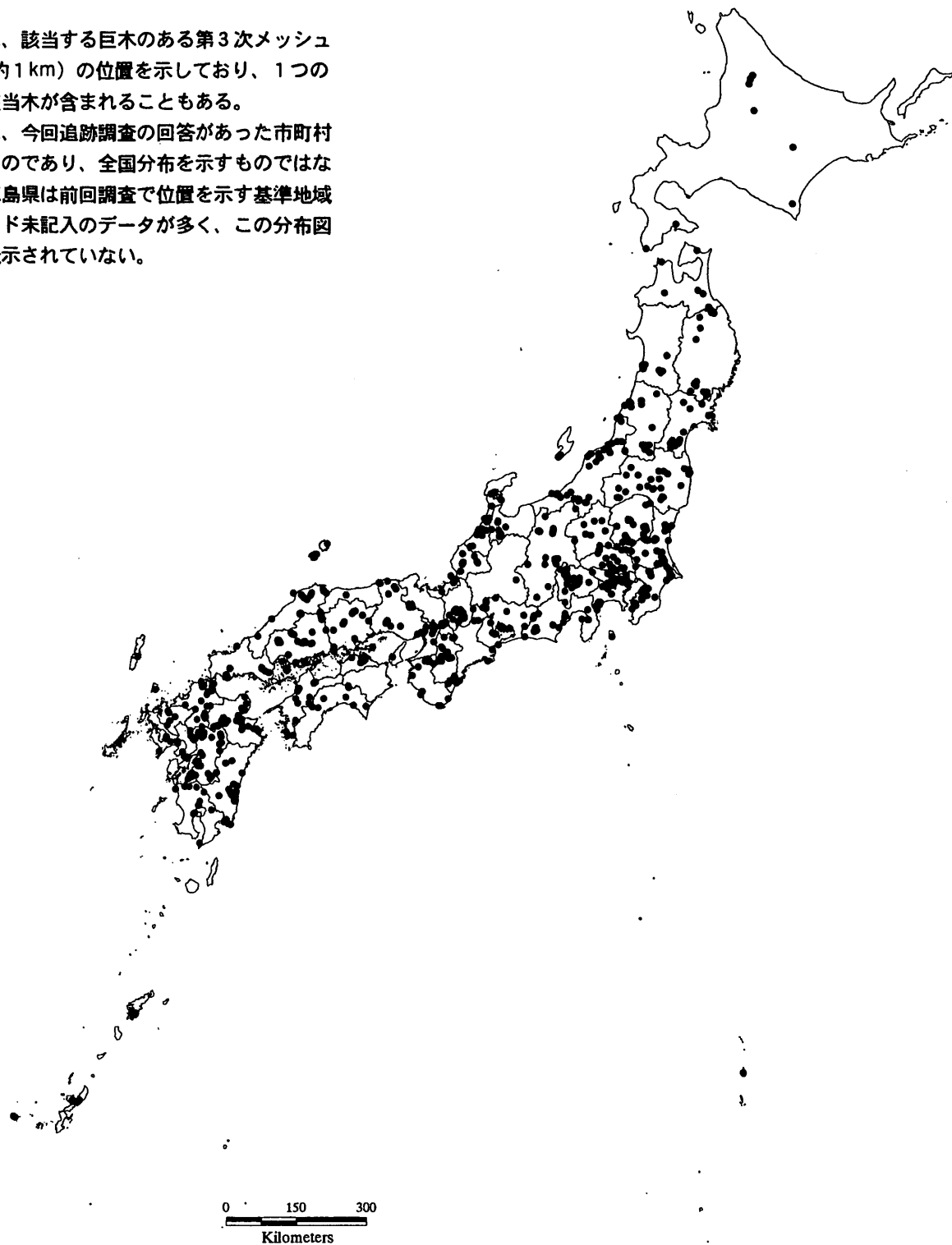
樹種		(単位:本)																									
都道府県	アコウ	イチイ	イチヨウ	エノキ	カシ	カツラ	カヤ	クスノキ	ケヤキ	サクラ	サワラ	シイ	スギ	タブノキ	ツガ	トチノキ	ニレ	ヒノキ	ブナ	ホルトノキ	マツ	ミズナラ	ムクノキ	モミ	その他	不明	合計
北海道										1							1					4			2		8
青森県									2				3								1				1		7
岩手県			1	1					2	3			1								6				3		17
宮城県				2									4								9				1		16
秋田県			2						1				12								4						19
山形県													2							9					4		23
福島県			1	2						1			5								15				1	3	28
茨城県			2	1					7	3		5	1	2					1				1	1	1	1	25
栃木県				1					4	1			7					2			1				3		19
群馬県			1						1	3			1								2						8
埼玉県				1	1		2		12			1											3	1	3		24
千葉県			5	3					8			11	3	3									1		1		35
東京都	1		1	1		1		1	6	2											2				5		20
神奈川県					1				2	2		1	1	2						1	2		1		1		14
新潟県			1	1					5		1		17				1			2		22			3		53
富山県			1		1				3				10				1						1		2		19
石川県			3						8			2	7	3							6				2		31
福井県				2	1				2			1	4								1				2		13
山梨県					2				6				1												3	5	29
長野県				1					5	1			1			1	1				4			2	5		21
岐阜県																					1					1	2
静岡県			2	1					2	1		2	4					1			5		1				19
愛知県				1					1				1	1						1	6		5		3		19
三重県								1	1			2	4								3				4		15
滋賀県				1	2			1	5				12								1			1	3		26
京都府				3								1													1		5
大阪府				5				1	1														1				8
兵庫県			2		1			2	2				7								7		4	1	1		27
奈良県				2			1		1			1	9	1		1					2		2				20
和歌山県				1	2			2	1			4	1	2	2										1		16
鳥取県												1									4						5
島根県					2				2			1		1							19			1	1		27
岡山県				2								1	1								2		1	1	3		11
広島県			1	1	1				1	1			4								11		2	3	4		29
山口県			1		2							1	1	2											2	1	10
徳島県													2												1		3
香川県				1				1													3			1	1		7
愛媛県	1			2						1								2		3	1			1	1		12
高知県										1			1									4					9
福岡県		1	1		2			2				2	5								5		6		5		29
佐賀県			2	2					1														3		1		9
長崎県				1										5						2			2		6		16
熊本県	3		3	3	8			2	5			1	16	2				4		1	2		1		6		57
大分県			3	2	2				3		1		20	4				1		1			7		4		48
宮崎県	1		2	1	2			4				1	7	7			1			2	1		1		4		34
鹿児島県				1	2			2					3					1		1	2		1		8		21
沖縄県																					9				5		14
合計	6	1	35	46	32	1	3	19	100	21	2	39	178	35	3	4	2	12	12	17	177	5	45	23	108	1	927

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもの

図3-2-3 枯死した巨木分布図

○図中の点は、該当する巨木のある第3次メッシュ
(約1km×約1km)の位置を示しており、1つの
点に複数の該当木が含まれることもある。

○この分布は、今回追跡調査の回答があった市町村
に限られたものであり、全国分布を示すものではな
い。なお、徳島県は前回調査で位置を示す基準地域
メッシュコード未記入のデータが多く、この分布図
では1本も表示されていない。

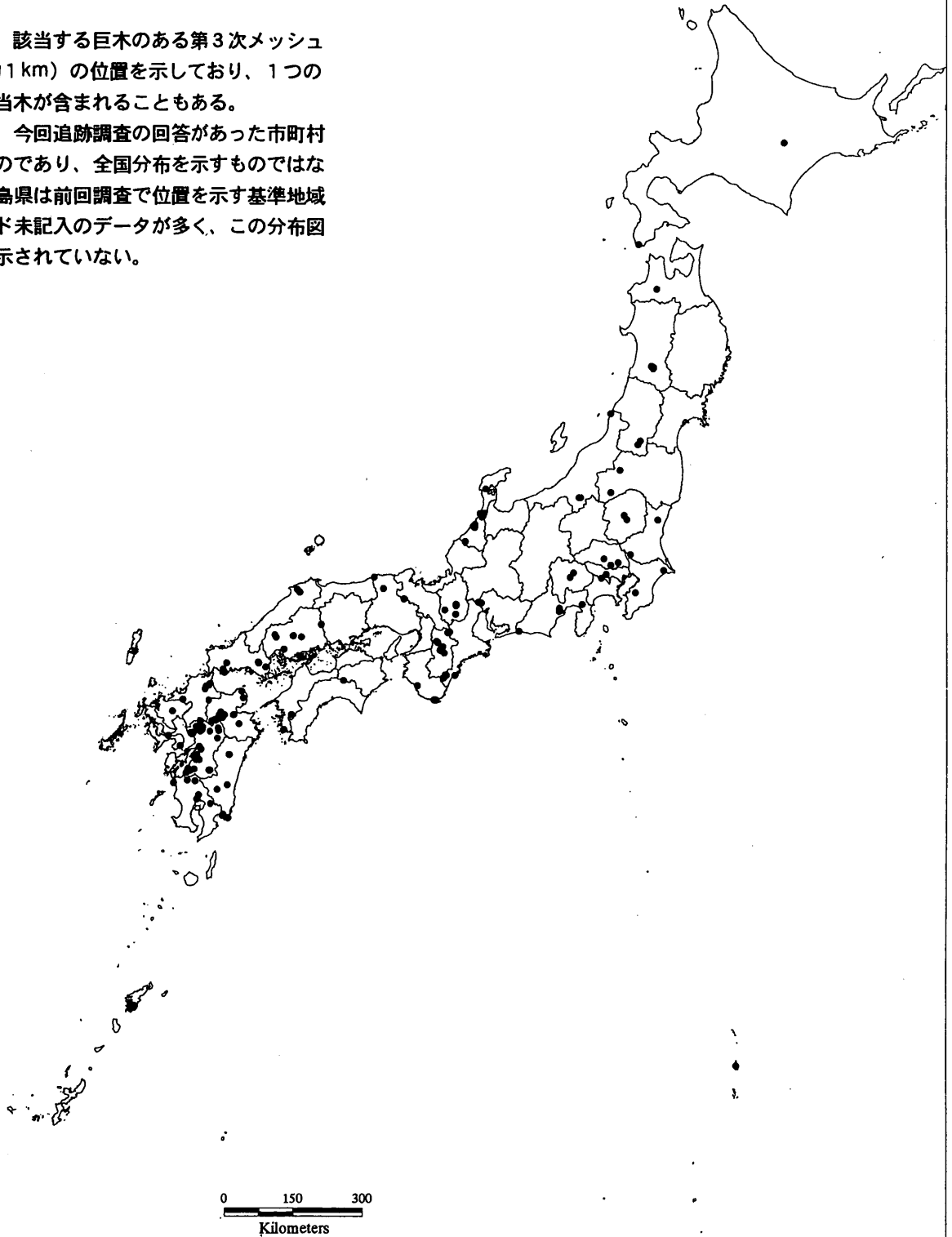


(第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査)

図3—2—4 台風・強風で枯死した巨木分布図

○図中の点は、該当する巨木のある第3次メッシュ
(約1km×約1km)の位置を示しており、1つの
点に複数の該当木が含まれることもある。

○この分布は、今回追跡調査の回答があった市町村
に限られたものであり、全国分布を示すものではな
い。なお、徳島県は前回調査で位置を示す基準地域
メッシュコード未記入のデータが多く、この分布図
では1本も表示されていない。



(第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査)

樹種別内訳は、最も多いスギが 34 都県で 178 件、マツも 33 県で 177 件と、共に全国の大半に及んでいる。次いで、ケヤキが 29 都府県で 100 件、以下エノキ 46 件、ムクノキ 45 件、シイ 39 件、イチョウ及びタブノキで 35 件と続く。上位の 3 種で、全体の半数近くを占めた。

スギでは、94 件のうち台風によるもの 75 件、大風と記載のあったもの 3 件、落雷によるもの 6 件等であった。マツでは、53 件のうちマツクイムシが原因で枯死あるいは伐採したもの 40 件、病虫害と記載のあったもの 7 件、台風によるもの 4 件等であった。ケヤキでは、25 件のうち台風によるもの 20 件、地滑り等の災害と記載のあったもの 2 件等であった。なお、エノキで 6 件、ムクノキで 12 件、シイで 5 件、イチョウで 10 件が台風によるものであった。

枯死した年を記載したものは件数が少ないので、明確には言えないが、スギ（42 件）とケヤキ（22 件）では 1991 年の台風 19 号のよるものが 23 件、5 件と際立っていた（付表—12）。

限られたデータではあるが、マツはマツクイムシによるものが 75%、スギやケヤキでは台風・大風によるものが共に 80%と極めて高い割合を示した。巨樹・巨木林は樹高が高いことから、風の影響を受けやすいことが推測される。

枯死した巨樹・巨木林について、保護指定制度の有無をみたところ 385 件（42%）が有り、509 件（55%）が無し、14 件が不明、19 件が無回答であった。

(2) 伐採等

伐採等は、前回調査された巨樹・巨木林のうちすでに伐られてしまった巨木等で、調査の有無の「5(伐採)」で、更新データに540件が報告された。

「5(伐採)」は、人為的な伐採(自然災害等の原因ではなく、建て替え・開発等によるもの)のことだが、調査票の記入方法において「枯死と伐採」について特に説明をしていなかったもので、巨木を伐採した場合に、その原因によって「自然災害等に起因する伐採」と「建て替えなど人の都合で伐採」とが混同されているものと考えられる。ここでは調査票の該当の欄に「伐採」と記載してあったものを集計した。

つまり、ここで伐採と消失(次項)を分けてはいるが、その中には当然前記の「枯死」も含まれていると考えるべきで、前項の「枯死」は調査者が明らかに枯死と認めたもので、この項の「伐採」は原因にかかわらず伐採したものという違いである。

表3-2-34(次ページ)は、「5(伐採)」の540件の県別・樹種別の内訳を示す。

県別内訳は、最も多いのが新潟県でケヤキ15件及びスギ14件を含む39件、次いで埼玉県のケヤキ24件を含む32件、静岡県のスギ14件を含む30件である。愛媛県・宮崎県・沖縄県は該当が0件であった。図3-2-5は、県別の分布を示す。

樹種別内訳は、最も多いケヤキが27都府県で180件、スギが30府県で107件と共に全国の大半で見られ、この2種で全体の半数を超す。次いでマツが16県で35件と続く。ケヤキは、東北から東海の東日本に多い傾向がみられた。該当の無い樹種は、アコウ・イチイ・サワラ・ツガであった。

伐採した巨樹・巨木林について、保護指定制度の有無をみたところ101件(19%)が有り、426件(79%)が無し、9件が不明、4件が無回答であった。保護指定制度の有無が伐採に対してなんらかの歯止めになっていることがうかがわれる。

伐採の原因ついて記載のあった48件についてその内訳をみると、表3-2-35の通りである。再開発・区画整理に関するもの12件、道路拡幅等に伴うもの10件、ダム建設・河川改修に伴うもの8件等である。

表3-2-35 伐採された巨木の原因

原因	件
再開発	12
道路建設	10
ダム・河川改修	8
建物	6
危険のため	5
日照等の苦情	2
土地売却	2
校庭整備	1
火災	1
用材	1
合計	48

表3—2—34 県別・樹種別伐採された巨木

(単位:本)

都道府県	樹種	アコウ	イチイ	イチヨウ	エノキ	カシ	カツラ	カヤ	クスノキ	ケヤキ	サクラ	サワラ	シイ	スギ	タブノキ	ツガ	トチノキ	ニレ	ヒノキ	ブナ	ホルトノキ	マツ	ミズナラ	ムクノキ	モミ	その他	不明	合計
北海道																		1					2			1		4
青森県			3							4				10												1	2	20
岩手県							1			7				2								4				2	2	18
宮城県			2					1		3				3					1			6				1		17
秋田県			1							19				2												1	2	25
山形県			1							7				4						1		2				1	3	19
福島県			1							1	1			2								1						6
茨城県			1	3	1			1	1	17			3													1		28
栃木県			3	1					1	9	2			1					1							1		19
群馬県				1	1			1		11				5								1		2	3	2		27
埼玉県									4	24				2										1	1			32
千葉県			1	2					2	4			5	2	4									1		1		22
東京都				1					1	21			1													4		28
神奈川県										3					2											1		6
新潟県			1	2			1			15				14									5			1		39
富山県										1				5												1		7
石川県			2	1						5			4	4	2		1					3				1		23
福井県										4				1								1			1			7
山梨県										1																		1
長野県							3	2		4				3								2			2			16
岐阜県					1									3								1		1				6
静岡県			1						2	6			3	14	1							1				2		30
愛知県				1						1				2								2						6
三重県									1																		1	2
滋賀県			1	1						4																		6
京都府										2				3											2			7
大阪府			1																									1
兵庫県			2							1				1														4
奈良県								1						5										1				7
和歌山県									4																	1		5
鳥取県			1							3			2	2	5									1				14
島根県			3	1										4	2							1			1			12
岡山県								1						1					1			1						4
広島県			1					1		2				3								3				2		12
山口県																								2				2
徳島県			2	1					6	1				2	2						1	1		3		2		21
香川県																										2		2
愛媛県																												
高知県														3														3
福岡県			1						3				2								1					3		10
佐賀県									2					1										1		2		6
長崎県									3						1													4
熊本県				1																								1
大分県				1										1	1						1			2		1		7
宮崎県																												
鹿児島県					1									2							1							4
沖縄県																												
合計			29	17	4	5	8	30	180	3		20	107	20			1	1	3	1	4	35	2	15	15	39	1	540

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に属したものの

図3-2-5 伐採された巨木分布図

○図中の点は、該当する巨木のある第3次メッシュ（約1km×約1km）の位置を示しており、1つの点に複数の該当木が含まれることもある。

○この分布は、今回追跡調査の回答があった市町村に限られたものであり、全国分布を示すものではない。なお、徳島県は前回調査で位置を示す基準地域メッシュコード未記入のデータが多く、この分布図では1本も表示されていない。



(第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査)

(3) 消失等

消失等は、すでに存在しない巨木等で、調査の有無の「4（消失）」で、更新データに 199 件が報告された。

「4（消失）」は、対象となる巨樹・巨木林が現実にはその場所には存在しない、現存しない、他の市町村に移植してしまったもの、切ってしまったらしい等などで、また調査票で該当の欄を赤線等で消したもの、該当無し、削除、抹消、除外等の書き込みのあったものをいう。なお、他市町村内にあると判明し調査対象としなかったもの、他市町村へ移植したもの、重複して記載されていたことが判明したもの 4 件の計 6 件も含まれる。

表 3-2-36 は、重複等の 6 件を除いた 193 件の県別・樹種別の内訳を示す

県別内訳は、27 都道府県に及び、最も多いのが千葉県のシイ 13 件を含む 30 件、次いで宮崎県の 28 件、石川県の 23 件と続く。図 3-2-6 は、193 件の県別の分布を示す。

樹種別内訳は、最も多いシイが 33 件、スギが 28 件、次いで、クスノキ 24 件、ケヤキ 21 件、イチョウ 18 件である。該当の無い樹種は、イチイ・カヤ・サワラ・ニレ・ホルトノキ、ミズナラであった。

193 本について、保護指定制度の有無をみたところ 77 件（40%）が有り、110 件（57%）が無し、3 件が不明、3 件が無回答であった。

表 3—2—36 県別・樹種別消失した巨木

(単位:本)

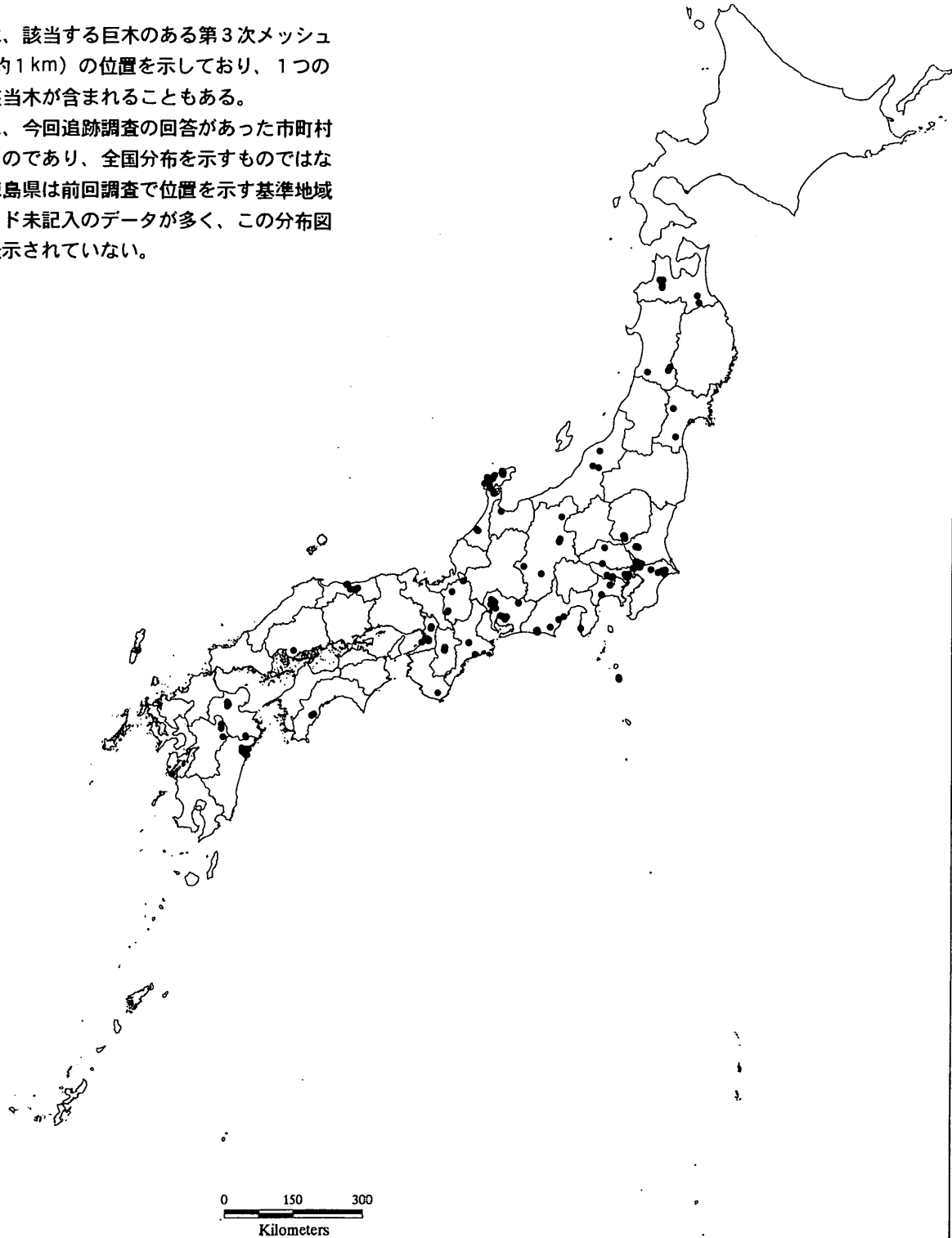
都道府県	樹種	アコウ	イチイ	イチヨウ	エノキ	カシ	カツラ	カヤ	クスノキ	ケヤキ	サクラ	サワラ	シイ	スギ	タブノキ	ツガ	トチノキ	ニレ	ヒノキ	ブナ	ホルトノキ	マツ	ミズナラ	ムクノキ	モミ	その他	不明	合計
北海道																												
青森県			2											1												2		5
岩手県																												
宮城県																				1		1						2
秋田県										2																1		3
山形県																												
福島県																												
茨城県										3			1															4
栃木県										4																1		5
群馬県																												
埼玉県			1							1																		2
千葉県			1						3	2	1		13	7	2											2		30
東京都			2							3												1				4		10
神奈川県											1																	1
新潟県										1				2														3
富山県			1																									1
石川県			1				1			4			6	3	1							3				1	3	23
福井県																												
山梨県																												
長野県											3			1			2										1	7
岐阜県																												
静岡県									3				4									2						9
愛知県			3						1				2									4		3		2		15
三重県										1			1									1						3
滋賀県			1										2		1													4
京都府																												
大阪府			3		1				5				1												1			11
兵庫県																												
奈良県														1													1	2
和歌山県													1	1														2
鳥取県			1		1				1				1				4											8
島根県																												
岡山県																												
広島県					1																							1
山口県																												
徳島県																												
香川県																												
愛媛県																												
高知県														3														3
福岡県																												
佐賀県																												
長崎県																												
熊本県			1											2														3
大分県																						2		2	1	2		7
宮崎県			1			1				11			2	7	1	1			1					1		2		28
鹿児島県		1																										1
沖縄県																												
合計		1	18	3	1	1			24	21	5		33	28	5	1	6		1	1		14		7	2	21		193

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもの

図3-2-6 消失した巨木分布図

○図中の点は、該当する巨木のある第3次メッシュ
(約1km×約1km)の位置を示しており、1つの
点に複数の該当木が含まれることもある。

○この分布は、今回追跡調査の回答があった市町村
に限られたものであり、全国分布を示すものでは
ない。なお、徳島県は前回調査で位置を示す基準地域
メッシュコード未記入のデータが多く、この分布図
では1本も表示されていない。



(第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査)

(4) 前回調査以降になくなった巨樹・巨木林

前回調査以降になくなった巨木は、前項の枯死 927 件及び伐採 540 件、消失等（データ重複等の 6 件を除く）193 件の計 1,660 件である。その樹種別内訳は、最も多いはスギ 313 件、次いでケヤキ 301 件、マツ 226 件で、この 3 種で半数を超える。以下、シイ 92 件、イチョウ 82 件、クスノキ 73 件、ムクノキ 67 件、エノキ 66 件、タブノキ 60 件と続く（表 3-2-37）。

表 3-2-38 は県別の集計表、図 3-2-7 は県別の分布を示す。

付表-12 は、枯死・伐採・消失のおきた年について記載のあった 272 件についての内訳である。

1,660 件は、回答のあった追跡調査票 28,576 本の 5.8%に当たる。

表 3-2-37 樹種別枯死・伐採・消失等の巨木本数

(単位：本)

区分 樹種*	枯死	伐採等	消失	合計
アコウ	6		1	7
イチイ	1			1
イチョウ	35	29	18	82
エノキ	46	17	3	66
カシ	32	4	1	37
カツラ	1	5	1	7
カヤ	3	8		11
クスノキ	19	30	24	73
ケヤキ	100	180	21	301
サクラ	21	3	5	29
サワラ	2			2
シイ	39	20	33	92
スギ	178	107	28	313
タブノキ	35	20	5	60
ツガ	3		1	4
トチノキ	4	1	6	11
ニレ	2	1		3
ヒノキ	12	3	1	16
ブナ	12	1	1	14
ホルトノキ	17	4		21
マツ	177	35	14	226
ミズナラ	5	2		7
ムクノキ	45	15	7	67
モミ	23	15	2	40
その他	108	39	21	168
不明	1	1		2
合計	927	540	193	1,660

* 樹種は我が国の代表的な 24 種及びその他に集約したもの

表3—2—38 県別枯死・伐採・消失等の巨木本数

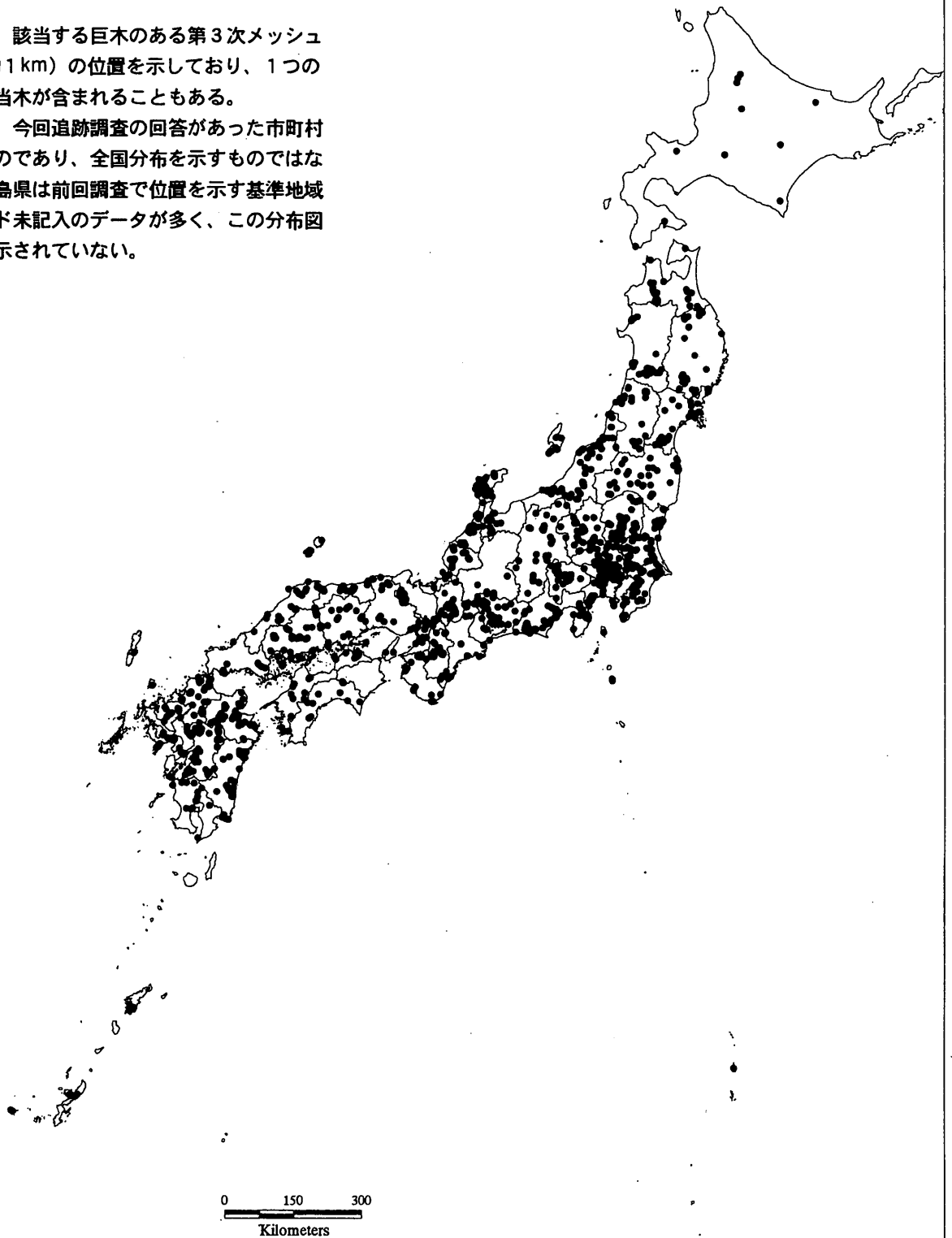
(単位：本)

都道府県	区分	枯死	伐採	消失	合計
北海道		8	4		12
青森県		7	20	5	32
岩手県		17	18		35
宮城県		16	17	2	35
秋田県		19	25	3	47
山形県		23	19		42
福島県		28	6		34
茨城県		25	28	4	57
栃木県		19	19	5	43
群馬県		8	27		35
埼玉県		24	32	2	58
千葉県		35	22	30	87
東京都		20	28	10	58
神奈川県		14	6	1	20
新潟県		53	39	3	95
富山県		19	7	1	27
石川県		31	23	23	77
福井県		13	7		20
山梨県		29	1		30
長野県		21	16	7	44
岐阜県		2	6		8
静岡県		19	30	9	58
愛知県		19	6	15	40
三重県		15	2	3	20
滋賀県		26	6	4	36
京都府		5	7		12
大阪府		8	1	11	20
兵庫県		27	4		31
奈良県		20	7	2	29
和歌山県		16	5	2	23
鳥取県		5	14	8	27
島根県		27	12		39
岡山県		11	4		15
広島県		29	12	1	42
山口県		10	2		12
徳島県		3	21		24
香川県		7	2		9
愛媛県		12			12
高知県		9	3	3	15
福岡県		29	10		39
佐賀県		9	6		15
長崎県		16	4		20
熊本県		57	1	3	59
大分県		48	7	7	62
宮崎県		34		28	62
鹿児島県		21	4	1	26
沖縄県		14			14
合計		927	540	193	1,660

図3-2-7 枯死・伐採・消失した巨木分布図

○図中の点は、該当する巨木のある第3次メッシュ
(約1km×約1km)の位置を示しており、1つの
点に複数の該当木が含まれることもある。

○この分布は、今回追跡調査の回答があった市町村
に限られたものであり、全国分布を示すものではな
い。なお、徳島県は前回調査で位置を示す基準地域
メッシュコード未記入のデータが多く、この分布図
では1本も表示されていない。



(第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査)

3. 項目間集計結果

ここでは今回調査された巨木の健全度と人との関係を主として検討した。

巨木の健全度と周囲の状況とのクロス集計結果（新規データ）を表3-3-1に示した。健全度が「良」の件数が合計件数に占める割合をみると、樹林が81%で、山林あるいは社叢林でもほぼ同じ割合（80～81%）であった。全体的には75～82%（無回答を除く）の範囲に有り、周囲の状況によって巨木の健全度が大きく影響を受ける傾向は明瞭とはいえない。この傾向は、前回とほぼ同じである。しかし、単木と樹林・並木の「良」の割合を比較すると、「耕地」では単木が12ポイント、「水面」では樹林・並木が23ポイントの差と、「良」の件数が占める割合が高い。前者は、人目につきやすいので管理もしやすいこと、後者は周囲が水辺であることが巨木にとって好ましい環境であることがうかがわれる。

巨木の健全度と保護制度の有無とのクロス集計結果（更新データ・新規データ）を表3-3-2に示した。健全度が「良」の件数が合計件数に占める割合をみると、自然環境保全地域の場合に82%と最も高い値を示し、次いで保安林・学習参考保護林等79%の順であった。天然記念物等の指定の場合に健全度が良の割合は68%で、この値は他の制度に比べると最も低い。なお、新規データでは自然環境保全地域が94%が健全度が良で、際立って高い。

前回は、健全度が「良」の件数が合計件数に占める割合は、自然公園、都市公園83%であったが78%、74%と下がった。保護指定無しの場合も前回は83%、今回は78%で、全体的に前回に比べて健全度が「良」の割合が低くなった。

巨木の健全度と信仰対象等の有無とのクロス集計結果（更新データ・新規データ）を表3-3-3に示した。健全度が「良」の件数が合計件数に占める割合をみると、信仰等の対象がない場合78%、ある場合に74%であった。前回より、どちらも3～5ポイント少ない。禁忌（タブー）有りとなっている場合の健全度が「良」の割合だけは、前回よりも3ポイント多い。

巨木の健全度と保護等に関する特記事項とのクロス集計結果（更新データ・新規データ）を表3-3-4に示した。健全度が「良」の件数が合計件数に占める割合をみると、保護等に関する特記事項がない場合が78%で、特記事項がある場合が74%であった。

保護に関する特記事項ごとにみると、該当件数が少ないものの買取運動で82%と高く、次いで避雷針設置で80%、定期的な下刈り・清掃で76%と高い。支柱の設置は健全度が良の割合が50%で、健全度が悪くなってから支柱の設置等の対策がとられていることがうかがわれる。前回と比べると、全体的に健全度の「良」の割合が低くなっている。

表 3-3-1 巨木の健全度と周囲の状況との関係

健全度 周囲の状況	新規データ 健全度（※無回答を除く）													前回データ
	単木				樹林・並木				合計		合計		良/ 合計	良/ 合計
	良	不良	小計	良/ 合計	良	不良	小計	良/ 合計	良	不良				
	件	件	件		件	件	件		件	件	件			
樹林 小計	1,995	516	2,511	0.79	3,705	839	4,544	0.82	5,700	1,355	7,055	54.3%	0.81	0.82
樹林	187	50	237	0.79	362	76	438	0.83	549	126	675	5.2%	0.81	0.81
樹林（山林等）	468	128	596	0.79	2,036	490	2,526	0.81	2,504	618	3,122	24.0%	0.80	0.82
樹林（社叢等）	1,340	338	1,678	0.80	1,307	273	1,580	0.83	2,647	611	3,258	25.1%	0.81	0.82
公園	192	54	246	0.78	112	42	154	0.73	304	96	400	3.1%	0.76	0.79
耕地	467	125	592	0.79	175	85	260	0.67	642	210	852	6.6%	0.75	0.79
建物群	845	200	1,045	0.81	271	68	339	0.80	1,116	268	1,384	10.6%	0.81	0.80
道路	810	235	1,045	0.78	361	136	497	0.73	1,171	371	1,542	11.9%	0.76	0.77
水面	55	22	77	0.71	48	3	51	0.94	103	25	128	1.0%	0.80	0.76
その他	842	182	1,024	0.82	83	16	99	0.84	925	198	1,123	8.6%	0.82	0.82
無回答	219	42	261	0.84	216	36	252	0.86	435	78	513	3.9%	0.85	—
合計	5,425	1,376	6,801	0.80	4,971	1,225	6,196	0.80	10,396	2,601	12,997	100.0%	0.80	0.82

*前回調査では、「無回答」は集計していない

表 3-3-2 巨木の健全度と保護制度指定の有無との関係

更新・新緑データの合計

健全度	健全度（※無回答を除く）															前回データ				
	単木						樹林・並木						合計						良/合計	良/合計
	良		不良		良		不良		良		不良		合計							
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%						
保護制度指定	8,491	59.7%	2,591	56.5%	6,558	49.3%	1,695	44.9%	15,049	54.7%	4,286	51.3%	19,335	53.9%	0.78	0.83				
保護制度 有り 小計	5,549	39.0%	1,951	42.5%	6,487	48.8%	2,031	53.8%	12,036	43.7%	3,982	47.6%	16,018	44.6%	0.75	0.80				
天然記念物等	1,759	12.4%	927	20.2%	1,833	13.8%	737	19.5%	3,592	13.0%	1,664	19.9%	5,256	14.6%	0.68	0.75				
自然公園	599	4.2%	195	4.3%	2,617	19.7%	687	18.2%	3,216	11.7%	882	10.5%	4,098	11.4%	0.78	0.83				
自然環境保全地域	56	0.4%	17	0.4%	381	2.9%	76	2.0%	437	1.6%	93	1.1%	530	1.5%	0.82	0.75				
保安林・学習参考保護等	152	1.1%	48	1.0%	554	4.2%	135	3.6%	706	2.6%	183	2.2%	889	2.5%	0.79	0.82				
都市公園	184	1.3%	36	0.8%	285	2.1%	125	3.3%	469	1.7%	161	1.9%	630	1.8%	0.74	0.83				
風致地区等	951	6.7%	217	4.7%	542	4.1%	215	5.7%	1,493	5.4%	432	5.2%	1,925	5.4%	0.78	0.81				
その他制度	2,310	16.2%	651	14.2%	1,220	9.2%	373	9.9%	3,530	12.8%	1,024	12.2%	4,554	12.7%	0.78	0.86				
不明	82	0.6%	33	0.7%	123	0.9%	23	0.6%	205	0.7%	56	0.7%	261	0.7%	0.79	0.62				
無回答	183	1.3%	44	1.0%	261	2.0%	49	1.3%	444	1.6%	93	1.1%	537	1.5%	0.83	—				
合計	14,223	100.0%	4,586	100.0%	13,306	100.0%	3,775	100.0%	27,529	100.0%	8,361	100.0%	35,890	100.0%	0.77	0.82				

*前回調査では、「無回答」は集計していない

更新データ

保護制度指定	健全度		健全度（※無回答を除く）														良/合計
			単木				樹林・並木				合計				合計		
			良		不良		良		不良		良		不良				
			件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%			
保護制度 無し	5,982	60.2%	1,971	56.4%	5,077	56.1%	1,418	51.2%	11,059	58.2%	3,389	54.1%	14,448	57.2%	0.77		
保護制度 有り 小計	3,946	39.7%	1,513	43.3%	3,875	42.8%	1,338	48.3%	7,821	41.2%	2,851	45.5%	10,672	42.2%	0.73		
天然記念物等	1,386	13.9%	737	21.1%	1,576	17.4%	672	24.2%	2,962	15.6%	1,409	22.5%	4,371	17.3%	0.68		
自然公園	416	4.2%	157	4.5%	800	8.8%	229	8.3%	1,216	6.4%	386	6.2%	1,602	6.3%	0.76		
自然環境保全地域	41	0.4%	14	0.4%	221	2.4%	67	2.4%	262	1.4%	81	1.3%	343	1.4%	0.76		
保安林・学習参考保護等	116	1.2%	40	1.1%	449	5.0%	114	4.1%	565	3.0%	154	2.5%	719	2.8%	0.79		
都市公園	141	1.4%	29	0.8%	224	2.5%	60	2.2%	365	1.9%	89	1.4%	454	1.8%	0.80		
風致地区等	503	5.1%	144	4.1%	458	5.1%	189	6.8%	961	5.1%	333	5.3%	1,294	5.1%	0.74		
その他制度	1,735	17.5%	509	14.6%	994	11.0%	298	10.8%	2,729	14.4%	807	12.9%	3,536	14.0%	0.77		
不明	40	0.4%	21	0.6%	82	0.9%	12	0.4%	122	0.6%	33	0.5%	155	0.6%	0.79		
無回答	13	0.1%	10	0.3%	105	1.2%	16	0.6%	118	0.6%	26	0.4%	144	0.6%	0.82		
合計	9,941	100.0%	3,494	100.0%	9,057	100.0%	2,772	100.0%	18,998	100.0%	6,266	100.0%	25,264	100.0%	0.75		

新緑データ

保護制度指定	健全度	健全度（※無回答を除く）														良/合計
		単木				樹林・並木				合計						
		良		不良		良		不良		良		不良		合計		
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	
保護制度 無し		2,509	58.6%	620	56.8%	1,481	34.9%	277	27.6%	3,990	46.8%	897	42.8%	4,887	46.0%	0.82
保護制度 有り 小計		1,603	37.4%	438	40.1%	2,612	61.5%	693	69.1%	4,215	49.4%	1,131	54.0%	5,346	50.3%	0.79
天然記念物等		373	8.7%	190	17.4%	257	6.0%	65	6.5%	630	7.4%	255	12.2%	885	8.3%	0.71
自然公園		183	4.3%	38	3.5%	1,817	42.8%	458	45.7%	2,000	23.4%	496	23.7%	2,496	23.5%	0.80
自然環境保全地域		15	0.4%	3	0.3%	160	3.8%	9	0.9%	175	2.1%	12	0.6%	187	1.8%	0.94
保安林・学習参考保護等		36	0.8%	8	0.7%	105	2.5%	21	2.1%	141	1.7%	29	1.4%	170	1.6%	0.83
都市公園		43	1.0%	7	0.6%	61	1.4%	65	6.5%	104	1.2%	72	3.4%	176	1.7%	0.59
風致地区等		448	10.5%	73	6.7%	84	2.0%	26	2.6%	532	6.2%	99	4.7%	631	5.9%	0.84
その他制度		575	13.4%	142	13.0%	226	5.3%	75	7.5%	801	9.4%	217	10.4%	1,018	9.6%	0.79
不明		42	1.0%	12	1.1%	41	1.0%	11	1.1%	83	1.0%	23	1.1%	106	1.0%	0.78
無回答		170	4.0%	34	3.1%	156	3.7%	33	3.3%	326	3.8%	67	3.2%	393	3.7%	0.83
合計		4,282	100.0%	1,092	100.0%	4,249	100.0%	1,003	100.0%	8,531	100.0%	2,095	100.0%	10,626	100.0%	0.80

表3-3-3 巨木の健全度と信仰対象等の有無との関係

更新・新規データの合計

健全度 信仰対象		健全度 ※無回答を除く														前回データ	
		単木				樹林・並木				合計				良/合計		良/合計	
		良		不良		良		不良		良		不良					合計
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	10,699	73.8%	3,172	67.5%	7,902	57.3%	2,180	55.4%	18,601	65.7%	5,352	62.0%	23,953	64.8%	0.78	0.83	
信仰有り	2,354	16.2%	983	20.9%	3,372	24.4%	1,049	26.7%	5,726	20.2%	2,032	23.5%	7,758	21.0%	0.74	0.78	
タブー有り	178	1.2%	59	1.3%	125	0.9%	41	1.0%	303	1.1%	100	1.2%	403	1.1%	0.75	0.72	
祭事有り	179	1.2%	78	1.7%	353	2.6%	123	3.1%	532	1.9%	201	2.3%	733	2.0%	0.73	0.78	
不明	675	4.7%	291	6.2%	550	4.0%	130	3.3%	1,225	4.3%	421	4.9%	1,646	4.5%	0.74	0.77	
無回答*	421	2.9%	118	2.5%	1,497	10.8%	410	10.4%	1,918	6.8%	528	6.1%	2,446	6.6%	0.78	—	
合 計	14,506	100.0%	4,701	100.0%	13,799	100.0%	3,933	100.0%	28,305	100.0%	8,634	100.0%	36,939	100.0%	0.77	0.81	

*前回調査では、「無回答」は集計していない

更新データ

健全度 信仰対象		健全度 ※無回答を除く														
		単木				樹林・並木				合計				合計		良/ 合計
		良		不良		良		不良		良		不良				
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	
無し	7,588	74.5%	2,460	68.5%	5,228	55.3%	1,537	53.0%	12,816	65.3%	3,997	61.6%	16,813	64.3%	0.76	
信仰有り	1,688	16.6%	752	20.9%	2,353	24.9%	763	26.3%	4,041	20.6%	1,515	23.3%	5,556	21.3%	0.73	
タブー有り	151	1.5%	53	1.5%	106	1.1%	34	1.2%	257	1.3%	87	1.3%	344	1.3%	0.75	
祭事有り	141	1.4%	63	1.8%	276	2.9%	101	3.5%	417	2.1%	164	2.5%	581	2.2%	0.72	
不明	433	4.3%	227	6.3%	454	4.8%	119	4.1%	887	4.5%	346	5.3%	1,233	4.7%	0.72	
無回答	178	1.7%	37	1.0%	1,040	11.0%	347	12.0%	1,218	6.2%	384	5.9%	1,602	6.1%	0.76	
合 計	10,179	100.0%	3,592	100.0%	9,457	100.0%	2,901	100.0%	19,636	100.0%	6,493	100.0%	26,129	100.0%	0.75	

新規データ

健全度 信仰対象		健全度 ※無回答を除く														
		単木				樹林・並木				合計				合計		良/ 合計
		良		不良		良		不良		良		不良				
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%			
無し	3,111	71.9%	712	64.2%	2,674	61.6%	643	62.3%	5,785	66.7%	1,355	63.3%	7,140	66.0%	0.81	
信仰有り	666	15.4%	231	20.8%	1,019	23.5%	286	27.7%	1,685	19.4%	517	24.1%	2,202	20.4%	0.77	
タブー有り	27	0.6%	6	0.5%	19	0.4%	7	0.7%	46	0.5%	13	0.6%	59	0.5%	0.78	
祭事有り	38	0.9%	15	1.4%	77	1.8%	22	2.1%	115	1.3%	37	1.7%	152	1.4%	0.76	
不明	242	5.6%	64	5.8%	96	2.2%	11	1.1%	338	3.9%	75	3.5%	413	3.8%	0.82	
無回答	243	5.6%	81	7.3%	457	10.5%	63	6.1%	700	8.1%	144	6.7%	844	7.8%	0.83	
合 計	4,327	100.0%	1,109	100.0%	4,342	100.0%	1,032	100.0%	8,669	100.0%	2,141	100.0%	10,810	100.0%	0.80	

表 3-3-4 巨木の健全度と特記事項との関係

更新・新規データの合計

特記事項	健全度	健全度（※無回答を除く）														前回データ	
		単木				樹林・並木				合計				合計		良/合計	良/合計
		良		不良		良		不良		良		不良		合計			
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%		
無し	10,219	71.6%	3,028	65.7%	8,894	66.7%	2,514	66.3%	19,113	69.3%	5,542	66.0%	24,655	68.5%	0.78	0.83	
有り 小計	3,595	25.2%	1,424	30.9%	3,657	27.4%	1,177	31.0%	7,252	26.3%	2,601	31.0%	9,853	27.4%	0.74	0.77	
保護柵設置	596	4.2%	348	7.6%	519	3.9%	250	6.6%	1,115	4.0%	598	7.1%	1,713	4.8%	0.65	0.72	
遊置針設置	19	0.1%	6	0.1%	29	0.2%	6	0.2%	48	0.2%	12	0.1%	60	0.2%	0.80	0.81	
支柱設置	123	0.9%	163	3.5%	99	0.7%	56	1.5%	222	0.8%	219	2.6%	441	1.2%	0.50	0.61	
薬剤散布・施肥	302	2.1%	187	4.1%	201	1.5%	48	1.3%	503	1.8%	235	2.8%	738	2.1%	0.68	0.75	
定期的な下刈り・清掃	2,448	17.2%	808	17.5%	2,895	21.7%	859	22.6%	5,343	19.4%	1,667	19.8%	7,010	19.5%	0.76	0.81	
枯損部削除・枝下ろし	1,050	7.4%	517	11.2%	1,000	7.5%	533	14.1%	2,050	7.4%	1,050	12.5%	3,100	8.6%	0.66	0.73	
収収運動	9	0.1%	2	0.0%	5	0.0%	1	0.0%	14	0.1%	3	0.0%	17	0.0%	0.82	0.83	
その他	229	1.6%	130	2.8%	192	1.4%	65	1.7%	421	1.5%	195	2.3%	616	1.7%	0.68	0.68	
無回答	454	3.2%	154	3.3%	777	5.8%	102	2.7%	1,231	4.5%	256	3.0%	1,487	4.1%	0.83	—	
合計	14,268	100.0%	4,606	100.0%	13,328	100.0%	3,793	100.0%	27,596	100.0%	8,399	100.0%	35,995	100.0%	0.77	0.81	

*前回調査では、「無回答」は集計していない

更新データ

特記事項	健全度	健全度（※無回答を除く）																良/合計
		単木				樹林・並木				合計				合計				
		良		不良		良		不良		良		不良						
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%			
無し		7,157	72.0%	2,371	67.9%	5,788	63.9%	1,797	64.8%	12,945	68.1%	4,168	66.5%	17,113	67.7%	0.76		
有り 小計		2,665	26.8%	1,088	31.1%	3,066	33.9%	957	34.5%	5,731	30.2%	2,045	32.6%	7,776	30.8%	0.74		
保護柵設置		474	4.8%	268	7.7%	480	5.3%	232	8.4%	954	5.0%	500	8.0%	1,454	5.8%	0.66		
遊置針設置		16	0.2%	6	0.2%	23	0.3%	4	0.1%	39	0.2%	10	0.2%	49	0.2%	0.80		
支柱設置		91	0.9%	117	3.3%	88	1.0%	51	1.8%	179	0.9%	168	2.7%	347	1.4%	0.52		
薬剤散布・施肥		232	2.3%	147	4.2%	174	1.9%	43	1.6%	408	2.1%	190	3.0%	598	2.4%	0.68		
定期的な下刈り・清掃		1,784	17.9%	627	17.9%	2,411	26.6%	672	24.2%	4,195	22.1%	1,299	20.7%	5,494	21.7%	0.76		
枯損部削除・枝下ろし		771	7.8%	395	11.3%	875	9.7%	439	15.8%	1,646	8.7%	834	13.3%	2,480	9.8%	0.66		
収収運動		7	0.1%	1	0.0%	5	0.1%	1	0.0%	12	0.1%	2	0.0%	14	0.1%	0.86		
その他		153	1.5%	83	2.4%	126	1.4%	54	1.9%	279	1.5%	137	2.2%	416	1.6%	0.67		
無回答		119	1.2%	35	1.0%	203	2.2%	18	0.6%	322	1.7%	53	0.8%	375	1.5%	0.86		
合計		9,941	100.0%	3,494	100.0%	9,057	100.0%	2,772	100.0%	18,998	100.0%	6,266	100.0%	25,264	100.0%	0.75		

新規データ

特記事項		健全度		健全度（※無回答を除く）														良/ 合計	
				単木				樹林・並木				合計				合計			
				良		不良		良		不良		良		不良		合計			
				件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%		
無し	3,062	70.8%	657	59.1%	3,108	72.7%	717	70.2%	6,168	71.7%	1,374	64.4%	7,542	70.3%	0.82				
有り 小計	930	21.5%	336	30.2%	591	13.8%	220	21.5%	1,521	17.7%	556	26.1%	2,077	19.4%	0.73				
保護柵設置	122	2.8%	80	7.2%	39	0.9%	18	1.8%	161	1.9%	98	4.6%	259	2.4%	0.62				
遊置針設置	3	0.1%	0	0.0%	6	0.1%	2	0.2%	9	0.1%	2	0.1%	11	0.1%	0.82				
支柱設置	32	0.7%	46	4.1%	11	0.3%	5	0.5%	43	0.5%	51	2.4%	94	0.9%	0.46				
薬剤散布・施肥	70	1.6%	40	3.6%	27	0.6%	5	0.5%	97	1.1%	45	2.1%	142	1.3%	0.68				
定期的な下刈り・清掃	664	15.3%	181	16.3%	484	11.3%	187	18.3%	1,148	13.4%	368	17.3%	1,516	14.1%	0.76				
枯損部削除・枝下ろし	279	6.4%	122	11.0%	125	2.9%	94	9.2%	404	4.7%	216	10.1%	620	5.8%	0.65				
収収運動	2	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.0%	1	0.0%	3	0.0%	0.67				
その他	76	1.8%	47	4.2%	66	1.5%	11	1.1%	142	1.7%	58	2.7%	200	1.9%	0.71				
無回答	335	7.7%	119	10.7%	574	13.4%	84	8.2%	909	10.6%	203	9.5%	1,112	10.4%	0.82				
合計	4,327	100.0%	1,112	100.0%	4,271	100.0%	1,021	100.0%	8,598	100.0%	2,133	100.0%	10,731	100.0%	0.80				

4.解析結果

4.1 巨樹・巨木林の分布特性

幹周の特に大きい巨木の分布特性をみると以下のものであった。

まず、樹種にかかわらず幹周（株立ちのものは主幹の幹周）が12m以上の巨木を抽出した（表3-4-1）。なお、前回は沖縄県から報告されたガジュマルは特異な形状の幹であるため表に掲げていなかったが、今回は掲げた。

12m以上の巨木117本の都道府県別内訳にみると、39都府県に分布し、その中で鹿児島県が13本と最も多く、次いで山形県、静岡県、福岡県が各7本、青森県が6本、岐阜県、沖縄県が各5本と続く。

樹種別内訳をみると、出現する樹種は10種で、クスノキが48本、スギ24本、イチョウ18本でこの3種で全体の3/4を占め、以下カツラ11本、ガジュマル及びケヤキが5本、アコウ・スダジイが2本、イチガシ・トチノキが1本である。この中で今回の調査で新たに確認された巨木は、16本である。

参考までに表3-4-2に、株立ちの巨木について、樹種にかかわらず幹周20m以上のものを抽出した。19本のうち、今回の調査で新たに確認された巨木は、4本である。

なお、以下の表3-4-1～4では、天然記念物指定のものを除き、所有者が個人・法人・不明の場合にはその所在地の表示を限定した。

表3-4-1 全国最大級クラスの巨木（幹周12m以上/117本） [その1]

都道府県	所在地*	樹種名	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度	新規 確認
			(cm)	(cm)		(A:国指定、B:都道府県指定、C:市町村指定)	
青森県	青森市大字宮田字山下	イナ	1,470		宮田のイチョウ2	天然記念物等	
	西津軽郡深浦町北金ヶ沢字塩見形356北金ヶ沢塩見形	イナ	2,200		北金ヶ沢のイチョウ	天然記念物等B	
	西津軽郡深浦町大字岩坂字湯野	イナ	1,200		石動(イナ)の夫婦イチョウ	天然記念物等C	○
	上北郡七戸町字銀南木16番地3	イナ	1,290		子安イチョウ	天然記念物等B	
	上北郡百石町字下谷地9	イナ	1,410		根岸のイチョウ	天然記念物等B	
	上北郡十和田湖町銀杏木16-2	イナ	1,450		法量のイチョウ	天然記念物等A	
岩手県	久慈市門前1-111長泉寺	イナ	1,470		長泉寺の大公孫樹(おおいちょう)	天然記念物等A	
秋田県	山本郡二ツ井町	イナ	1,250		五輪台のイチョウ	無	○
	仙北郡太田町川口山国有林179林班	スギ	1,240		オブ山の大杉	自然公園Cその他制度	○
山形県	東根市大字東根元東根本丸9206-10東根小学校校庭	ケヤ	1,560		東根の大ケヤキ	天然記念物等	
	最上市金山神室山	カツラ	1,250		金山川の大カツラ神室瀬のカツラ 巨木群	自然公園B保安林・学術参考保護林等その他制度	○
	最上郡最上町	カツラ	2,000		権現山の大カツラ		○
	最上郡真室川町高坂ダム入口近く	カツラ	1,630			無	○
	最上郡真室川町女甕山東側山麓	カツラ	1,340		女甕山の大カツラ	自然公園C	○
	最上郡真室川町及位女甕山東斜面	カツラ	1,215			自然公園C	○
	飽海郡平田町大字小林字村中63	スギ	1,300		小林不動杉	天然記念物等C	
福島県	安達郡岩代町杉沢字平97	スギ	1,280		杉沢の大スギ	天然記念物等Aその他制度BC	
	南会津郡下郷町中山	ケヤ	1,200		八幡ケヤキ	その他制度BC	
	耶麻郡猪苗代町本町 天子神社	ケヤ	1,540		天子のケヤキ	その他制度BC	
群馬県	新田郡尾島町堀口223浄蔵寺	イナ	1,400		浄蔵寺の大イチョウ	天然記念物等C	○
埼玉県	入間郡越生町大字上谷630付近	クスノ	1,500		大クスノキ	天然記念物等B自然公園C	
千葉県	市川市八幡4丁目八幡神社	イナ	1,200		千本銀杏	天然記念物等A	
	富津市東大和田興源寺	クスノ	1,250		環の大クス	天然記念物等B	
	安房郡天津小湊町清澄	スギ	1,505		千年杉(清澄の大スギ)	天然記念物等	
東京都	御蔵島村南郷	スギジ	1,379		御蔵島の大スギ 南郷巨樹の森	自然公園A	○
	御蔵島村ボロ沢	スギジ	1,220		ボロ沢巨樹の森	自然公園A	○
神奈川県	厚木市下荻野1114日吉神社	イナ	1,432			その他制度CC	
	足柄上郡山北町	スギ	1,200			天然記念物等A自然公園B	
	足柄下郡湯河原町宮下355-2五所神社	クスノ	1,560		明神の楠	その他制度CA	
新潟県	糸魚川市白山社	スギ	1,330		杉之当の大スギ	天然記念物等B	
	五泉市	イナ	1,200		乳銀杏	天然記念物等B	
	東蒲原郡三川村岩谷	スギ	1,931		将軍杉	天然記念物等	
	南魚沼郡塩沢町大字君沢851薬照寺	カツラ	1,350		薬照寺の大カツラ	天然記念物等B	

表3-4-1 全国最大級クラスの巨木（幹周12m以上/117本）【その2】

都道府県	所在地*	樹種名	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度	新規 確認
			(cm)	(cm)		(A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)	
富山県	魚津市	スギ	1,560		洞杉	無	○
	氷見市朝日本町	イチョ	1,200		上日寺の大イチョウ	天然記念物等A	
石川県	石川郡白峰村太田大道谷	トナリ	1,300		太田の大栃	天然記念物等A	
福井県	大野市下打波13号19番白山神社	カツラ	1,390		白山神社のカツラ	天然記念物等B	
山梨県	中巨摩郡若草町	ケヤキ	1,472		三恵の大けやき	天然記念物等A	
長野県	上伊那郡箕輪町大字中箕輪	ケヤキ	1,245		芝宮のケヤキ	天然記念物等B	
	下伊那郡根羽村月瀬	スギ	1,379		月瀬の大杉	天然記念物等A	
岐阜県	郡上郡白鳥町石徹白	スギ	1,400		石徹白大杉	天然記念物等自然公園A	
	郡上郡白鳥町石徹白	スギ	1,205		浄安杉	天然記念物等B	
	恵那郡加子母村小郷	スギ	1,204		加子母大杉	天然記念物等A	
	恵那郡上矢作町大船山 大船神社	スギ	1,360		弁慶杉	天然記念物等B保安林・学術参考保護林等 その他制度BA	
	大野郡丹生川村 下保千光寺	スギ	1,220		五本杉	天然記念物等A	
静岡県	静岡市郷島浅間神社	クスノキ	1,300			無	
	浜松市八幡町	クスノキ	1,300		雲立ちの楠	天然記念物等C風致地区	
	熱海市来の宮神社	クスノキ	2,390		来の宮の大楠	天然記念物等A	
	伊東市馬場町1丁目16葛見神社	クスノキ	1,500		葛見神社の大樟	天然記念物等A	
	賀茂郡東伊豆町奈良本国有林	スギ	1,200		シラヌタ大杉	保安林・学術参考保護林等 その他制度	○
	賀茂郡河津町来ノ宮神社	クスノキ	1,500		来ノ宮神社の大楠	天然記念物等A	
	田方郡函南町平井1116 天地神社	クスノキ	1,350			天然記念物等B	
愛知県	蒲郡市清田町下新屋	クスノキ	1,430		清田の大クス	天然記念物等A	
三重県	飯南郡飯高町赤楠水屋神社	クスノキ	1,663		水屋の大クス	天然記念物等C自然公園C	
	南牟婁郡御浜町引作神社	クスノキ	1,570		引作の大クス	天然記念物等B	○
大阪府	門真市三ツ島1374三ツ島神社	クスノキ	1,340		薫蓋樟のクス	天然記念物等A保安林・学術参考保護林等 その他制度	
兵庫県	篠山市藤坂	カツラ	1,200			天然記念物等C	
和歌山県	養父郡関宮町大久保宇ムネ畑1505番地の3	スギ	1,260		ホードー杉	天然記念物等C	
	伊都郡かつらぎ町町立笠田小学校北側笠田東、妙楽寺	クスノキ	1,400		十五社(ジウカ)の楠	天然記念物等B	
鳥取県	西牟婁郡串本町有田上有田神社	クスノキ	1,220			天然記念物等	
	八頭郡河原町落河内	カツラ	1,290		落河内のカツラ	天然記念物等B	
島根県	鹿足郡日原町堤田	クスノキ	1,250		大元神社趾(畑)の楠	天然記念物等BC	
岡山県	勝田郡勝央町河原519	イチョ	1,200		河原の大イチョウ	天然記念物等Cその他制度	
	勝田郡奈義町高円	イチョ	1,348		菩提寺の大イチョウ	天然記念物等A	
広島県	三原市糸崎神社	クスノキ	1,300			天然記念物等C	
徳島県	板野郡藍住町春日神社	クスノキ	1,205			天然記念物等B	
	板野郡上板町乳保神社	イチョ	1,723	1,342		天然記念物等A	

表3-4-1 全国最大級クラスの巨木（幹周12m以上/117本） [その3]

都道府県	所在地*	樹種名	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度	新規 確認
			(cm)	(cm)		(A:国指定、B:都道府県指定、C:市町村指定)	
徳島県	麻植郡山川町川田市	クスノキ	1,235			無	
	三好郡三加茂町加茂	クスノキ	1,300		加茂の大クス	天然記念物等A	
香川県	善通寺市伽藍	クスノキ	1,236			天然記念物等B	
	三豊郡詫間町志々島楠ノ倉	クスノキ	1,400		志々島の大楠	天然記念物等B	
愛媛県	伊予三島市上猿田	カラ	1,500			天然記念物等B保安林・学術参考保護林等	
高知県	須崎市大谷須賀神社	クスノキ	1,800		大谷のクスノキ	天然記念物等A自然公園C	
	長岡郡大豊町八坂神社	スギ	2,560	1,500	日本一の大杉	天然記念物等A自然公園C	
	土佐郡大川村小北川	カラ	1,380			無	
福岡県	甘木市八日町安長寺	クスノキ	1,200		大樟	天然記念物等B	
	太宰府市大宰 大宰府天満宮境内	クスノキ	1,250		天神の森	天然記念物等A自然公園C	
	糟屋郡宇美町宇美 宇美八幡宮	クスノキ	2,000		蚊田の森	天然記念物等AB	
	糟屋郡宇美町宇美 宇美八幡宮	クスノキ	1,570		蚊田の森	天然記念物等AB	
	朝倉郡朝倉町恵蘇宿	クスノキ	1,800		隠家の森	天然記念物等A	
	朝倉郡三輪町栗田	クスノキ	1,200			天然記念物等C	
	築上郡築城町下本庄 大楠神社	クスノキ	2,100		大樟	天然記念物等A	
佐賀県	武雄市若木町大字川古 7 8 4 5-2 川古の大楠公園	クスノキ	2,100		川古の大楠	天然記念物等Aその他制度BAその他制度CA	
	武雄市武雄町大字武雄 5 3 3 4-2 武雄神社	クスノキ	2,000		武雄の大楠	天然記念物等Cその他制度BAその他制度CA	
	武雄市武雄町大字武雄 5 5 6 3-2 塚崎	クスノキ	1,360		塚崎の大楠	天然記念物等Cその他制度BA	
長崎県	長崎市西小島 1-1 大徳寺	クスノキ	1,345		大徳寺の大クス	天然記念物等B	
	南高来郡有明町大三東甲	クスノキ	1,300		松崎の大楠	天然記念物等B	
	南松浦郡奈良尾町奈良尾郷	アコ	1,200		あこう大樹	天然記念物等A	
	郡上対馬町琴 6 7 6-1	イチヨウ	1,330		対馬琴のイチヨウ	天然記念物等B	
熊本県	熊本市北迫町	クスノキ	1,330		寂心さん	天然記念物等B都市公園C風致地区	
	八代市八王神社	クスノキ	1,270			風致地区	
	宇土郡三角町上本庄	クスノキ	1,490		郡浦の天神クス	天然記念物等B	
	阿蘇郡南小国町満願寺	スギ	1,240		金毘羅スギ	天然記念物等A	
大分県	大分市大字八幡作原八幡宮	クスノキ	2,100	1,850		天然記念物等A	
	中津市 葛神社	クスノキ	1,200			その他制度BAその他制度BA	
	大野郡清川村	イチガシ	1,200			天然記念物等Cその他制度BC	
	玖珠郡玖珠町平井	イチヨウ	1,200			自然公園Bその他制度BA	
宮崎県	宮崎郡清武町大字船引 7 0 7 4-3	クスノキ	1,320		清武の大楠	天然記念物等A	
	東臼杵郡椎葉村十根川 十根川神社	スギ	1,330		八村杉	天然記念物等A	
鹿児島県	鹿児島市城山町 2 2	クスノキ	1,300		城山のクス林	天然記念物等A	
	出水市上鯖瀬 1 5 8 1-1 0 渡瀬口	クスノキ	1,215		大井手の楠	天然記念物等C	

表3-4-1 全国最大級クラスの巨木（幹周12m以上/117本）【その4】

都道府県	所在地*	樹種名	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度	新規 確認
			(cm)	(cm)		(A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)	
鹿児島県	川辺郡川辺町飯倉神社	クスノキ	1,600		川辺の大クス	天然記念物等AB	
	始良郡蒲生町八幡神社	クスノキ	2,422		蒲生の大楠	天然記念物等A	
	曾於郡志布志町山宮神社	クスノキ	1,710		志布志の大楠	天然記念物等A	
	肝属郡高山町塚崎	クスノキ	1,400		塚崎のクス	天然記念物等A	
	肝属郡大根占町城元旗山神社	クスノキ	1,600		旗山ノ樟	天然記念物等C	○
	熊毛郡上屋久町高塚山	スギ	1,610		縄文杉	自然公園A	
	熊毛郡上屋久町高塚山	スギ	1,256		夫婦杉	自然公園A保安林・学術参考保護林等	
	熊毛郡上屋久町高塚山	スギ	1,225		翁杉	自然公園A	
	熊毛郡屋久町	スギ	1,350		紀元杉	自然公園A	
	熊毛郡屋久町屋久杉ランド	スギ	1,260		仏陀杉	天然記念物等A 自然公園A保安林・学術参考保護林等 その他制度AA	
	大島郡徳之島町	ガジュマル	1,760			無	○
沖縄県	石垣市真女乙御嶽	オハナコ	1,200			無	
	名護市字名護	ガジュマル	1,362		ひんぶんがじゅまる	天然記念物等B	
	島尻郡東風平町	ガジュマル	2,350			無	
	島尻郡東風平町	ガジュマル	1,990			無	
	島尻郡東風平町	ガジュマル	1,800			無	

*天然記念物指定のものを除き、所有者が個人・法人・不明の場合にはその所在地の表示を限定した

**主幹とは株立ちの中で最大の幹の幹周を示す

表3-4-2 全国最大級クラスの株立ちの巨木（幹周20m以上/19本）

都道府県	所在地*	樹種名	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度	新規 確認
			(cm)	(cm)		(A：国指定、B：都道府県指定、C：市町村指定)	
岩手県	大船渡市	カワ	2,010	400		無	
	釜石市栗林町19-41-2	カワ	2,860	599	明神カワ	天然記念物等C	
	稗貫郡大迫町内川目稲荷神社	カワ	3,000	250	千本桂	天然記念物等C	○
	稗貫郡大迫町山祇神社	カワ	2,050	335	山祇桂	無	
	二戸郡一戸町一戸字小井田	カワ	2,130	235	小井田の千本桂	天然記念物等C	
山形県	最上郡真室川町男鼈山南西山麓	カワ	2,020	500	地藏鞍の大カツラ	天然記念物等 自然公園C	○
石川県	金沢市広坂2丁目県庁前	スダジイ	2,581	515	堂形のシイ	天然記念物等A風致地区	
長野県	上伊那郡箕輪町中箕輪3735番地	カワ	2,158	310		天然記念物等C	
京都府	宇治市東笹取中畑9岩間寺境内	カワ	2,106	1,156	岩間寺のかつら	その他制度	○
奈良県	宇陀郡菟田野町桜実神社	スギ	2,000	800		天然記念物等A	
	宇陀郡榛原町大字高井	スギ	2,500	500	高井の千本杉	天然記念物等B	
島根県	大原郡大東町日原神社	カワ	2,090	1,100		天然記念物等B	
香川県	小豆郡土庄町宝生院	ミヤマビヤクシ	2,130	730	宝生院のシンバク	天然記念物等A	
高知県	長岡郡大豊町八坂神社	スギ	2,560	1,500	日本一の大杉	天然記念物等A自然公園C	
福岡県	春日市春日1丁目110春日神社	クスノキ	2,818	610		天然記念物等B	○
大分県	大分市大字八幡作原八幡宮	クスノキ	2,100	1,850		天然記念物等A	
鹿児島県	熊毛郡屋久町栗生神社	ガジュマル	2,831	900		無	
	熊毛郡屋久町	ガジュマル	2,000		中間ガジュマル	天然記念物等C	
沖縄県	国頭郡今帰仁村	ガジュマル	2,340	320	真金森のガジュマル	無	

*天然記念物指定のものを除き、所有者が個人・法人・不明の場合にはその所在地の表示を限定した

**主幹とは株立ちの中で最大の幹の幹周を示す

さらに、各都道府県別に最大級クラスの巨木を 145 本抽出した（表 3－4－3）。

その結果、前回同様九州各県の巨木の幹周は他の県に比べて大きい傾向がみられた。また、樹種は比較的限られており、中でもクスノキ、スギ、イチョウ、カツラの出現する割合が高かった。前回と比べると、イチョウよりも多かったケヤキは減少した。

クスノキは、東海以南の各県において大半を占めている。また、スギは北海道・岩手県から中国、宮崎県にかけての多くの県に出現していた。同様に、イチョウも広範囲に出現するものの東日本が中心であった。カツラはスギと同じように広範囲に出現し、ケヤキは主に東日本に多く出現していた。この傾向は、前回とあまり変わらない。

この他、特徴的なものとして、北海道のイチイ、沖縄のガジュマルがあげられる。これらの樹種は、それぞれ両県の自然環境の特性を表わしていると考えられる。なお東京都では、スダジイが占めたが、これは伊豆諸島におけるものである。

この中で今回の調査で新たに確認された巨木は、14 本である。

表3-4-3 都道府県別最大級クラスの巨木〔その1〕

都道府県	樹種名	所在地*	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度	新規 確認
			(cm)	(cm)		(A:国指定、B:都道府県指定、C:市町村指定)	
北海道	イイ	士別市西士別町	750		祖神の松	その他制度	
	カラ	歌志内市	910		世継の桂	その他制度	○
	スギ	松前郡福島町	700			その他制度BA	
青森県	イチヨ	青森市大字宮田字山下	1,470		宮田のイチヨウー2	天然記念物等	
	イチヨ	西津軽郡深浦町北金ヶ沢字塩見形356北金ヶ沢塩見形	2,200		北金ヶ沢のイチヨウ	天然記念物等B	
	イチヨ	上北郡十和田湖町	1,450		法量のイチヨウ	天然記念物等A	
岩手県	イチヨ	久慈市門前1-111長泉寺	1,470		長泉寺の大公孫樹（おおいちょう）	天然記念物等A	
	スギ	稗貫郡大迫町内川目久出内白山神社	1,150		白山杉	天然記念物等C	
	スギ	気仙郡三陸町越喜来字杉下	1,160			天然記念物等C	
宮城県	イチヨ	柴田郡柴田町入間田字雨乞	1,150		雨乞のイチヨウ	天然記念物等Aその他制度CA	
	イチヨ	伊具郡丸森町字四反田17	1,160		大銀杏	天然記念物等B	
	シイタ	亘理郡亘理町	1,015			天然記念物等A	
秋田県	イチヨ	山本郡二ツ井町	1,250		五輪台のイチヨウ	無	○
	スギ	仙北郡太田町	1,240		オブ山の大杉	自然公園Cその他制度	○
	スギ	平鹿郡山内村篠字植田表56	1,180		篠の大杉	天然記念物等B	
山形県	ケヤ	東根市大字東根元東根本丸9206-10東根小学校校庭	1,560		東根の大ケヤキ	天然記念物等	
	カラ	最上郡最上町	2,000		権現山の大カツラ	無	○
	カラ	最上郡真室川町高坂ダム入口近く	1,630			無	○
福島県	スギ	安達郡岩代町杉沢字平97	1,280		杉沢の大スギ	天然記念物等Aその他制度BC	
	ケヤ	南会津郡下郷町	1,200		八幡ケヤキ	その他制度BC	
	ケヤ	耶麻郡猪苗代町	1,540		天子のケヤキ	その他制度BC	
茨城県	スギ	高萩市	991		安良川の龍杉	天然記念物等A	
	ケヤ	東茨城郡小川町下馬場	1,160			天然記念物等C自然環境保全地域B	
	イチヨ	久慈郡大子町上金沢	1,126			天然記念物等C	
栃木県	スギ	上都賀郡栗野町日光神社	1,005		豊年杉	天然記念物等C	○
	ケヤ	下都賀郡壬生町大字上稲葉2001円宗寺	900		円宗寺のケヤキ	天然記念物等B	
	スギ	那須郡塩原町八幡神社	1,065		逆杉	天然記念物等A自然公園Aその他制度CC	
群馬県	スギ	碓氷郡松井田町大字坂本字道全	1,000		五郎の大杉	天然記念物等C	
	ケヤ	吾妻郡吾妻町南町	1,000		榎ノ木	天然記念物等A	
	イチヨ	新田郡尾島町浄蔵寺	1,400		浄蔵寺の大イチヨウ	天然記念物等C	
埼玉県	イチヨ	飯能市高山	1,000		高山不動大イチヨウ	天然記念物等B自然公園C	
	クスノ	入間郡越生町大字上谷630付近	1,500		大クスノキ	天然記念物等B自然公園C	
	スギ	比企郡都幾川村大字西平1198萩日吉神社境内	935		児持杉（ヱヲスギ）女杉（メスギ）	天然記念物等C天然記念物等B自然公園C	
千葉県	イチヨ	市川市八幡4丁目八幡神社	1,200		千本銀杏	天然記念物等A	
	クスノ	富津市東大和田興源寺	1,250		環の大クス	天然記念物等B	
	スギ	安房郡天津小湊町清澄	1,505		千年杉（清澄の大スギ）	天然記念物等	
東京都	スギジイ	利島村	1,188		集水施設周辺の巨樹群	自然公園A	○
	スギジイ	御蔵島村南郷	1,379		御蔵島の大ジイ南郷巨樹の森	自然公園A	○
	スギジイ	御蔵島村ボロ沢	1,220		ボロ沢巨樹の森	自然公園A	○
神奈川県	イチヨ	厚木市下荻野1114日吉神社	1,432			その他制度CC	

表3-4-3 都道府県別最大級クラスの巨木〔その2〕

都道府県	樹種名	所在地*	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度	新規 確認
			(cm)	(cm)		(A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)	
新潟県	スギ	足柄上郡山北町	1,200			天然記念物等A自然公園B	
	クスノキ	足柄下郡湯河原町宮下355-2五所神社	1,560		明神の楠	その他制度CA	
	スギ	糸魚川市白山社	1,330			天然記念物等B	
	スギ	東蒲原郡三川村	1,931		将軍杉	天然記念物等A	
	カツラ	南魚沼郡塩沢町大字君沢851薬照寺	1,350		薬照寺の大カツラ	天然記念物等B	
富山県	スギ	魚津市	1,560		洞杉	無	○
	スギ	魚津市大沢字前田632	1,180		大沢の地蔵杉	天然記念物等B	
	イチヨウ	氷見市朝日本町	1,200		上日寺の大イチョウ	天然記念物等A	
石川県	スギ	金沢市板ヶ谷町八幡神社	1,165			天然記念物等C	
	イチヨウ	七尾市百海町伊影山神社	1,135			天然記念物等B	
	トナリ	石川郡白峰村太田大道谷	1,300		太田のトナリ	天然記念物等A	
福井県	カツラ	大野市下打波13号19番白山神社	1,390		白山神社のカツラ	天然記念物等B	
	ケヤキ	大野市友兼5号2番専福寺	1,120		専福寺の大ケヤキ	天然記念物等A	
	カツラ	南条郡今庄町岩谷	1,000			無	
	トナリ	南条郡今庄町岩谷	1,000			無	
山梨県	スギ	南巨摩郡早川町下湯島山王神社	1,110		湯島の大杉	天然記念物等C	
	ケヤキ	中巨摩郡若草町	1,472		三恵のだけやき	天然記念物等A	
	ケヤキ	北巨摩郡須玉町根古屋	1,190		田木畑木	天然記念物等A	
長野県	ケヤキ	上田市古安曾	1,173			無	
	ケヤキ	上伊那郡箕輪町大字中箕輪12284	1,245		芝宮のケヤキ	天然記念物等B	
	スギ	下伊那郡根羽村月瀬	1,379		月瀬の大杉	天然記念物等A	
岐阜県	スギ	郡上郡白鳥町石徹白	1,400		石徹白大杉	天然記念物等自然公園A	
	スギ	恵那郡上矢作町大船山	1,360		弁慶杉	天然記念物等B保安林・学術参考保護林等 その他制度BA	
	スギ	大野郡丹生川村下保千光寺	1,220		五本杉	天然記念物等A	
静岡県	クスノキ	熱海市来の宮神社	2,390		来の宮の大楠	天然記念物等A	
	クスノキ	伊東市馬場町1丁目16葛見神社	1,500		葛見神社の大樟	天然記念物等A	
	クスノキ	賀茂郡河津町来ノ宮神社	1,500		来ノ宮神社の大楠	天然記念物等A	
愛知県	クスノキ	蒲郡市清田町下新屋	1,430		清田の大クス	天然記念物等A	
	クスノキ	新城市日吉字宮ノ腰28	1,090			天然記念物等C	
	スギ	東加茂郡旭町杉本字鳥井前19神明神社	1,175		杉本の貞観杉	天然記念物等A	
三重県	クスノキ	飯南郡飯高町水屋神社	1,663		水屋の大クス	天然記念物等C自然公園C	
	クスノキ	南牟婁郡御浜町引作神社	1,570		引作の大クス	天然記念物等B	
	クスノキ	尾鷲市飛鳥神社	1,150			天然記念物等B	
滋賀県	カツラ	大津市内畑町岩間山正法寺	1,100			無	○
	カツラ	犬上郡多賀町向之倉	1,160			天然記念物等B	
	ケヤキ	犬上郡多賀町尼子	975			天然記念物等B	
京都府	トナリ	綾部市五泉町君尾山	1,040		オオトナリ	保安林・学術参考保護林等	
	スギ	相楽郡和束町八坂神社	1,000		ぎおんスギ	天然記念物等B	
	カツラ	北桑田郡美山町芦生	995			都市公園	
大阪府	クスノキ	寝屋川市上神田2丁目2-11神田天満宮	1,050		神田天満宮千年くす	その他制度C	

表3-4-3 都道府県別最大級クラスの巨木〔その3〕

都道府県	樹種名	所在地*	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度	新規 確認
			(cm)	(cm)		(A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)	
	クスノキ	門真市三ツ島1374三ツ島神社	1,340		薫蓋樟のクス	天然記念物等Aその他制度C	
	ケヤキ	豊能郡能勢町野間稲地	1,195		野間の大けやき(蟻無のケヤキ)	天然記念物等A	
兵庫県	カラ	篠山市藤坂	1,200			天然記念物等C	
	スギ	多可郡加美町鳥羽青玉神社地内	1,080		夫婦(材)杉	天然記念物等B	
	スギ	養父郡関宮町大久保宇ムネ畑1505番地の3	1,260		ホードー杉	天然記念物等C	
	クスノキ	奈良市春日野町春日大社	1,120		若宮大楠	風致地区・緑地保全地区	
奈良県	ケヤキ	桜井市天神社	1,100			無	
	スギ	吉野郡十津川村玉置神社	1,000			天然記念物等B自然環境保全地域B	
	クスノキ	那賀郡粉河町大神宮	1,142			無	
和歌山県	クスノキ	伊都郡かつらぎ町立笠田小学校北側笠田東 妙楽寺	1,400		十五社(ジュウゴ)の楠	天然記念物等B	
	クスノキ	西牟婁郡串本町有田上有田神社	1,220			天然記念物等	
	カラ	八頭郡河原町落河内	1,290		落河内のカツラ	天然記念物等B	
鳥取県	スダジイ	東伯郡東伯町宮場	1,140		伯耆の大椎	天然記念物等A	
	カラ	日野郡江府町洲河崎後山	1,170			天然記念物等C	
	スダジイ	八束郡八雲村志多備神社	1,140			天然記念物等C	
島根県	カラ	大原郡大東町日原神社	2,090	1,100		天然記念物等B	
	クスノキ	鹿足郡日原町堤田	1,250		大元神社趾(畑)の楠	天然記念物等BC	
	スギ	隠岐郡西郷町下西	1,100		八百杉	天然記念物等A自然公園A	
	スギ	隠岐郡西郷町有木	1,100		マドスギ	天然記念物等A自然公園A	
	カラ	岡山県真庭郡川上村	1,000		笠木のカツラ	天然記念物等Cその他制度	○
岡山県	イチヨウ	勝田郡勝央町	1,200		河原の大イチョウ	天然記念物等Cその他制度	
	イチヨウ	勝田郡奈義町高円	1,348		菩提寺の大イチョウ	天然記念物等A	
	クスノキ	三原市糸崎神社	1,300			天然記念物等C	
広島県	スギ	賀茂郡戸河内町梶ノ木	990			天然記念物等B	
	イチヨウ	比婆郡高野町新市字上市173	960		乳下り大銀杏樹	天然記念物等B	
	クスノキ	山口市	990			風致地区・緑地保全地区	○
山口県	スギ	徳山市須々万本郷飛龍八幡宮	1,050		大玉杉	天然記念物等A	
	クスノキ	豊浦郡豊浦町下小野舎	1,020		クスの森	天然記念物等A	
	イチヨウ	板野郡上板町乳保神社	1,723	1,342		天然記念物等A	
徳島県	クスノキ	麻植郡山川町川田市	1,235			無	
	クスノキ	三好郡三加茂町加茂	1,300			天然記念物等A	
	クスノキ	善通寺市伽藍	1,236			天然記念物等B	
香川県	クスノキ	善通寺市伽藍	1,000			天然記念物等B	
	クスノキ	三豊郡詫間町志々島楠ノ倉	1,400		志々島の大楠	天然記念物等B	
愛媛県	カラ	伊予三島市上猿田	1,500			天然記念物等B保安林・学術参考保護林等	
	クスノキ	周桑郡丹原町北田野	1,140		土居の大グス	天然記念物等C	
	カラ	喜多郡長浜町大字豊茂	1,170			自然公園A	
高知県	クスノキ	須崎市大谷須賀神社	1,800		大谷のクスノキ	天然記念物等A自然公園C	
	カラ	土佐郡大川村	1,380			無	
	スギ	長岡郡大豊町八坂神社	2,560	1,500	日本一の大杉	天然記念物等A自然公園C	

表3-4-3 都道府県別最大級クラスの巨木〔その4〕

都道府県	樹種名	所在地*	幹周	主幹**	独特の呼称	保護制度 (A:国指定、B:都道府県指定、C:市町村指定)	新規 確認
			(cm)	(cm)			
福岡県	クスノキ	粕屋郡宇美町宇美1-1-1宇美八幡宮	2,000		蚊田の森	天然記念物等AB	
	クスノキ	朝倉郡朝倉町恵蘇宿	1,800		隠家の森	天然記念物等A	
	クスノキ	築上郡築城町下本庄	2,100			天然記念物等A	
佐賀県	クスノキ	武雄市若木町大字川古7845-2川古の大楠公園	2,100		川古の大楠	天然記念物等Aその他制度BAその他制度CA	
	クスノキ	武雄市武雄町大字武雄5334-2武雄神社	2,000		武雄の大楠	天然記念物等Cその他制度BAその他制度CA	
	クスノキ	武雄市武雄町大字武雄5563-2塚崎	1,360		塚崎の大楠	天然記念物等Cその他制度BA	
長崎県	クスノキ	長崎市西小島1-1大徳寺	1,345		大徳寺の大クス	天然記念物等B	
	クスノキ	南高来郡有明町大三東甲2114-1森本寛樹宅	1,300		松崎の大楠	天然記念物等B	
	イチヨウ	上県郡上対馬町大字琴676-1	1,330		対馬琴のイチヨウ	天然記念物等B	
熊本県	クスノキ	熊本市北迫町	1,330		寂心さん	天然記念物等B都市公園C	
	クスノキ	八代市八王神社	1,270			風致地区・緑地保全地区	
	クスノキ	宇土郡三角町上本庄	1,490		郡浦の天神クス	天然記念物等B	
大分県	クスノキ	大分市大字八幡杵原八幡宮	2,100	1,850		天然記念物等A	
	クスノキ	中津市	1,200			その他制度BAその他制度BA	
	イチイ	大野郡清川村	1,200			天然記念物等Cその他制度BC	
	イチヨウ	玖珠郡玖珠町	1,200			自然公園Bその他制度BA	
宮崎県	クスノキ	宮崎県清武町大字船引7074-3	1,320		清武の大楠	天然記念物等A	
	イチヨウ	東諸県郡高岡町去川	1,120		去川のイチヨウ	天然記念物等A	
	スギ	東臼杵郡椎葉村十根川	1,330		八村杉	天然記念物等A	
鹿児島県	クスノキ	姶良郡蒲生町八幡神社	2,422		蒲生の大楠	天然記念物等A	
	クスノキ	曽於郡志布志町山宮神社	1,710		志布志の大楠	天然記念物等A	
	ガジュマル	大島郡徳之島町	1,760			無	○
沖縄県	ガジュマル	島尻郡東風平町	2,350			無	
	ガジュマル	島尻郡東風平町	1,990			無	
	ガジュマル	島尻郡東風平町	1,800			無	

*天然記念物指定のものを除き、所有者が個人・法人・不明の場合にはその所在地の表示を限定した

**主幹とは株立ちの中で最大の幹の幹周を示す

次にわが国の代表的な樹種 24 種について、樹種別に幹周（株立ちのものは主幹の幹周）最大級の巨木を 258 本を抽出した（表 3－4－4）。その結果、半数以上が 1 つの県で占められている樹種は、イチイ（長野県）、カツラ（山形県）、サワラ（長野県）、シイ（東京都）、ツガ（鹿児島県）、及びガジュマル（沖縄県）であった。

また、これらの樹種において最大級の巨木が分布する県は、長野県が 19 本、次いで鹿児島県が 18 本であり、以下、山形県、福島県、東京都が 12 本、青森県及び沖縄が 9 本であった。

なお、参考にカツラの株立ちについて 10 本を抽出したところ、そのうち 6 本が岩手県に分布していた。

258 本の中で今回の調査で新たに確認された巨木は、39 本であった。またカツラの株立ちでは 10 本のうち 3 本が新たに確認された。

前回調査では比較的人目につきやすい杜叢等の巨木が多く抽出されたが、今回調査の結果（新規データ）では、山林等大面積の樹林の巨木が数多く確認され、山間部にも調査が及んだ結果と考えられる。

しかし、山林部の調査はまだ緒に就いたばかりであり、今後も巨木を単木としてではなく、周辺環境も含めて保全するといった取り組みの観点からも巨木林の調査をさらに進める必要がある。

図 3－4－1 に、樹種別にみた幹周別の本数を示す。上記の各最大級の巨木の位置がわかる。いずれも 20 cm 区分のグラフで、12 m 以上はまとめて示した。

表 3—4—4 樹種別全国最大級クラス [その1]

樹種*	都道府県	所在地**	幹周	主幹***	独特の呼称	保護指定制度	新規 確認	備考
			(cm)	(cm)		(A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)		
アコウ	高知県	土佐清水市	980			天然記念物等A 自然公園A	730	
	長崎県	福江市檉之浦	1,120			天然記念物等B	730	
	長崎県	北松浦郡小値賀町	1,020			無	730	
	長崎県	北松浦郡小値賀町	950			無	730	
	長崎県	南松浦郡奈良尾町奈良尾郷3 3 4・2 田中	1,200		あこう大樹	天然記念物等A	730	
	宮城県	宮崎市	950			その他制度CC	730	
	鹿児島県	指宿市信楽寺	1,100			無	730	
	鹿児島県	鹿児島郡三島村竹島	950			無	730	
	鹿児島県	鹿児島郡十島村里村の神社	965			無	730	
	鹿児島県	肝属郡根占町浦	1,000			天然記念物等C	730	
	鹿児島県	熊毛郡屋久町平内	1,003			無	730	
	沖縄県	石垣市真女乙御殿	1,200			無	730	730
イチイ	北海道	芦別市	620		黄金水松	その他制度BA	イチイ	
	北海道	士別市西士別町	750		祖神の松	その他制度	イチイ	
	山梨県	南巨摩郡早川町	590		七面山の大イチイ	天然記念物等B	イチイ	
	長野県	長野市国見	700		国見のイチイ	天然記念物等C	イチイ	
	長野県	佐久市白山神社	610		いぼ神様、むし歯神様	天然記念物等C	イチイ	
	長野県	上水内郡戸隠村	645			無	イチイ	
	長野県	上水内郡戸隠村	640			無	イチイ	
	長野県	上水内郡鬼無里村	650			天然記念物等B	イチイ	
	岐阜県	大野郡荘川村惣則	795			天然記念物等B	イチイ	
	岐阜県	大野郡宮村ツメタ谷	690		ツメタのイチイ	天然記念物等C 保安林・学術参考保護林等	イチイ	
イチヨウ	青森県	青森市大字宮田字山下	1,470		宮田のイチヨウ2	天然記念物等	イチヨウ	
	青森県	西津軽郡深浦町北金ヶ沢字塩見形3 5 6 北金ヶ沢塩見形	2,200		北金ヶ沢のイチヨウ	天然記念物等B	イチヨウ	
	青森県	上北郡百石町	1,410		根岸のイチヨウ	天然記念物等B	イチヨウ	
	青森県	上北郡十和田湖町	1,450		法量のイチヨウ	天然記念物等A	イチヨウ	
	岩手県	久慈市門前1・1 1 1 1 長泉寺	1,470		長泉寺の大公孫樹（おいちょう）	天然記念物等A	イチヨウ	
	群馬県	新田郡尾島町浄蔵寺	1,400		浄蔵寺の大イチヨウ	天然記念物等C	イチヨウ	
	神奈川県	厚木市下荻野1 1 1 4 日吉神社	1,432			その他制度CC	イチヨウ	
	岡山県	勝田郡奈義町高円	1,348		菩提寺の大イチヨウ	天然記念物等A	イチヨウ	
	徳島県	板野郡上板町乳保神社	1,723	1,342		天然記念物等A	イチヨウ	
	長崎県	郡上対馬町大字琴6 7 6-1	1,330		対馬琴のイチヨウ	天然記念物等B	イチヨウ	
エノキ	福島県	郡山市湘南	640		浜路のエソエノキ	無	○	エノキ
	茨城県	結城市小田林	680			無		エノキ
	茨城県	東茨城郡御前山村中居	650			天然記念物等B		エノキ
	鳥取県	東伯郡泊村岡地	720			天然記念物等C		エノキ
	鳥取県	西伯郡会見町	750			無		エノキ
	徳島県	美馬郡一宇村赤羽根大師	870		赤羽根大師の大エノキ	天然記念物等B	○	エノキ
	徳島県	美馬郡一宇村	676		アジャリさん	無	○	エノキ
	徳島県	三好郡池田町	776		山の神さんの榎	無	○	エノキ
	高知県	高岡郡東津野村芳生野字寺峯甲2 8 5 9 芳生野寺下	650			無		エノキ

表3-4-4 樹種別全国最大級クラス〔その2〕

樹種*	都道府県	所在地**	幹周	主幹***	独特の呼称	保護指定制度	新規 確認	備考
			(cm)	(cm)		(A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)		
エノキ	熊本県	八代郡坂本村陣之内	700			無		エノキ
カシ	京都府	北桑田郡京北町字田貫白山神社	790			無		ツカバネカシ
	鳥取県	簸川郡佐田町大字東村(受地地区)狭槌神社	785			無		アハカシ
	広島県	尾道市山波長神社	800			天然記念物等B		ウハカシ
	広島県	廿日市市原	770			保安林・学術参考保護林等 自然公園A		アハカシ
	熊本県	五名郡三加和町猿懸	853		上十町のイチイガシ	天然記念物等B		イチイガシ
	熊本県	上益城郡御船町長生	820			天然記念物等C		イチイガシ
	熊本県	球磨郡山江村	800		淡島さんのイチイガシ	天然記念物等C		イチイガシ
	大分県	大野郡清川村	1,200			天然記念物等Cその他制度BC		イチイガシ
	大分県	宇佐郡安心院町熊野神社	840			天然記念物等C		イチイガシ
	大分県	宇佐郡安心院町山蔵	815			天然記念物等Bその他制度CA		イチイガシ
カツラ ※単幹	山形県	最上郡金山町	1,250		金山川の大カツラ神室瀬のカツラ巨木群	自然公園B保安林・学術参考保護林等	○	カツラ
	山形県	最上郡最上町	2,000		権現山の大カツラ		○	カツラ
	山形県	最上郡真室川町高坂ダム入口近く	1,630			無	○	カツラ
	山形県	最上郡真室川町女蕨山東側山麓	1,340		女蕨山の大カツラ	自然公園C	○	カツラ
	山形県	最上郡真室川町女蕨山東斜面	1,215			自然公園C	○	カツラ
	新潟県	南魚沼郡塩沢町大字君沢851兼照寺	1,350		兼照寺の大カツラ	天然記念物等B		カツラ
	福井県	大野市下打波13号19番白山神社	1,390		白山神社のカツラ	天然記念物等B		カツラ
	鳥取県	八頭郡河原町落河内	1,290		落河内のカツラ	天然記念物等B		カツラ
	愛媛県	伊予三島市上猿田	1,500			天然記念物等B保安林・学術参考保護林等		カツラ
	高知県	土佐郡大川村	1,380			無		カツラ
カヤ	岩手県	東磐井郡大東町猿沢	780		猿沢のホウキガヤ	天然記念物等B		カヤ
	宮城県	栗原郡志波姫町沼崎曾根43双林寺	730			無		カヤ
	福島県	伊達郡桑折町万正寺	870		万正寺の大カヤ	天然記念物等 その他制度BC		カヤ
	福島県	田村郡船引町大字上移字町207	740		長法寺のかやの木	天然記念物等C		カヤ
	福島県	双葉郡楢葉町塩具	770		塩具の大カヤ	天然記念物等Cその他制度BC		カヤ
	栃木県	足利市	820			天然記念物等C		カヤ
	群馬県	勢多郡富土見村横室金沢賢	810		横室の大カヤ	天然記念物等A		カヤ
	埼玉県	与野市鈴谷4丁目	760		大カヤ	天然記念物等A		カヤ
	愛知県	名古屋市長古屋城	810			天然記念物等A		カヤ
	兵庫県	養父郡養父町	735		建屋のヒドリマキガヤ	天然記念物等A		カヤ
クスノキ	静岡県	熱海市来の宮神社	2,390			天然記念物等A		クスノキ
	高知県	須崎市大谷須賀神社	1,800		大谷のクスノキ	天然記念物等A自然公園C		クスノキ
	福岡県	粕屋郡宇美町字美1-1-1宇美八幡宮	2,000		蚊田の森	天然記念物等AB		クスノキ
	福岡県	朝倉郡朝倉町恵蘇宿	1,800		隠家の森	天然記念物等A		クスノキ
	福岡県	筑上郡築城町下本庄	2,100			天然記念物等A		クスノキ
	佐賀県	武雄市若木町大字川古7845-2川古の大楠公園	2,100		川古の大楠	天然記念物等Aその他制度BAその他制度CA		クスノキ
	佐賀県	武雄市武雄町大字武雄5334-2武雄神社	2,000		武雄の大楠	天然記念物等Cその他制度BAその他制度CA		クスノキ
	大分県	大分市大字八幡杵原八幡宮	2,100	1,850		天然記念物等A		クスノキ
	鹿児島県	姶良郡蒲生町八幡神社	2,422		蒲生の大楠	天然記念物等A		クスノキ
	鹿児島県	曽於郡志布志町山宮神社	1,710			天然記念物等A		クスノキ

74

樹種*	都道府県	所在地**	幹周	主幹***	独特の呼称	保護指定制度	新規 確認	備考
			(cm)	(cm)		(A：国指定、B：都道府県指定、C：市町村指定)		
ケヤキ	山形県	東根市大字東根元東根本丸9206・10東根小学校校庭	1,560		東根の大ケヤキ	天然記念物等		ケヤキ
	福島県	会津若松市神指町大字高瀬字五百地	1,180		高瀬の大ケヤキ	天然記念物等Aその他制度BC		ケヤキ
	福島県	南会津郡下郷町	1,200			その他制度BC		ケヤキ
	福島県	耶麻郡猪苗代町	1,540		天子のケヤキ	その他制度BC		ケヤキ
	茨城県	東茨城郡小川町下馬場	1,160			天然記念物等C自然環境保全地域B		ケヤキ
	山梨県	中巨摩郡若草町	1,472		三重の大けやき	天然記念物等A		ケヤキ
	山梨県	北巨摩郡須玉町根古屋	1,190			天然記念物等A		ケヤキ
	長野県	上田市古安曾	1,173			無		ケヤキ
	長野県	上伊那郡箕輪町大字中箕輪12284	1,245		芝宮のケヤキ	天然記念物等B		ケヤキ
	大阪府	豊能郡能勢町野間稲地	1,195		野間の大けやき（蟻無のケヤキ）	天然記念物等A		ケヤキ
サクラ	山形県	鶴岡市馬場町	870			都市公園Cその他制度BA		イトヒガシノキ、ミナモトノキ
	山形県	長井市	1,091		草岡のサクラ	天然記念物等C		イトヒガシノキ、ミナモトノキ
	山形県	長井市	900		久保桜	天然記念物等A		イトヒガシノキ、ミナモトノキ
	福島県	福島県伊達郡川俣町	1,386	858	常泉寺のダダノキ	その他制度BC		イトヒガシノキ、ミナモトノキ
	福島県	耶麻郡西会津町野沢字原町	860		化け桜	その他制度BC		サトザクラ
	福島県	河沼郡柳津町大字細入字清水尻	900		細越の種蒔桜	その他制度BC		イトヒガシノキ、ミナモトノキ
	山梨県	北巨摩郡武川村山高2778番地	1,060		山高の神代桜	天然記念物等A		イトヒガシノキ、ミナモトノキ
	岐阜県	本巣郡根尾村	920		淡墨の桜	天然記念物等A		ヒガシノキ
	佐賀県	伊万里市	1,140		明星桜		○	ウツギ
	鹿児島県	大口市奥十曾	1,099			保安林・学術参考保護林等		イトヒガシノキ、ミナモトノキ
サワラ	岩手県	遠野市上附馬牛19・81早池峰神社	690			無		ウツギ
	福島県	いわき市川前町上桶売字沢尻5・ロ	1,000		沢尻の大ヒノキ（サワラ）	天然記念物等A		ウツギ
	茨城県	久慈郡金砂郷村上宮河内西金砂神社	681		西金砂のサワラ	天然記念物等B		ウツギ
	長野県	伊那市吹上	800			天然記念物等B		ウツギ
	長野県	駒ヶ根市	600			無		ウツギ
	長野県	上伊那郡辰野町平出2362御陵塚（中村姓祝殿）	660		御陵塚のウツギ	天然記念物等C		ウツギ
	長野県	下伊那郡上村馬老沢	740			無		ウツギ
	長野県	木曽郡三岳村6188	720		若宮のさくら	天然記念物等C		ウツギ
	岐阜県	大野郡朝日村甲	960		七本サワラ	天然記念物等B		ウツギ
	愛知県	東加茂郡足助町大字有洞字向洞28薬師堂	650			天然記念物等C自然公園B		ウツギ
シイ	宮城県	亘理郡亘理町	1,015			天然記念物等A		シイタケ
	東京都	利島村	1,188		集水施設周辺の巨樹群	自然公園A	○	ダマシイ
	東京都	三宅島村	1,060		坪田林道の巨樹群	自然公園A	○	ダマシイ
	東京都	三宅島村	1,040		坪田林道の巨樹群	自然公園A	○	ダマシイ
	東京都	御蔵島村南郷	1,379		御蔵島の大ジイ 南郷巨樹の森	自然公園A	○	ダマシイ
	東京都	御蔵島村ボロ沢	1,220		ボロ沢巨樹の森	自然公園A	○	ダマシイ
	東京都	御蔵島村南郷	1,370	1,164	掘井戸のシイ南郷巨樹の森	自然公園A	○	ダマシイ
	東京都	御蔵島村ウスナンゴ	1,120		うすなんご巨樹の森	自然公園A	○	ダマシイ
	鳥取県	東伯郡東伯町宮場	1,140		伯耆の大椎	天然記念物等A		ダマシイ
	鳥取県	八東郡八雲村志多備神社	1,140			天然記念物等C		ダマシイ
スギ	千葉県	安房郡天津小湊町清澄	1,505		千年杉（清澄の大スギ）	天然記念物等		スギ

表3-4-4 樹種別全国最大級クラス〔その4〕

樹種*	都道府県	所在地**	幹周	主幹***	独特の呼称	保護指定制度	新規 確認	備考
			(cm)	(cm)		(A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)		
スギ	新潟県	糸魚川市白山社	1,330		杉之当の大スギ	天然記念物等B		※
	新潟県	東蒲原郡三川村	1,931		将軍杉	天然記念物等A		※
	富山県	魚津市	1,560		洞杉	無	○	※
	長野県	下伊那郡根羽村月瀬	1,379		月瀬の大杉	天然記念物等A		※
	岐阜県	郡上郡白鳥町石徹白	1,400			天然記念物等自然公園A		※
	岐阜県	恵那郡上矢作町大船山	1,360		井慶杉	天然記念物等B保安林・学術参考保護林等その他制度BA		※
	高知県	長岡郡大豊町八坂神社	2,560	1,500	日本一の大杉	天然記念物等A自然公園C		※
	宮崎県	東臼杵郡椎葉村十根川	1,330		八村杉	天然記念物等A		※
	鹿児島県	熊毛郡上屋久町高塚山	1,610		縄文杉	自然公園A		※
	鹿児島県	熊毛郡屋久町	1,350		紀元杉	自然公園A		※
タブノキ	茨城県	鹿島郡波崎町舍利	824		波崎の大タブ	天然記念物等B		タブノキイグス
	千葉県	香取郡山田町山ノ台	857		府馬の大クス	天然記念物等A		タブノキイグス
	東京都	西多摩郡奥多摩町古野附	807		古里附イヌグス	天然記念物等B		タブノキイグス
	神奈川県	愛甲郡清川村	900		シバノ木	その他制度B		タブノキイグス
	石川県	珠洲市宝立町柏原15部日枝神社	760			無		タブノキイグス
	石川県	羽咋郡富来町大福寺 高瓜神社	780			天然記念物等C		タブノキイグス
	京都府	中郡峰山町	810			無	○	タブノキ
	島根県	飯石郡三刀屋町高尾神社	785			無		タブノキイグス
	佐賀県	西松浦郡西有田町大木	850		狩場の櫛	天然記念物等Cその他制度BA		タブノキイグス
	鹿児島県	川辺郡大浦町	890			無		タブノキイグス
ツガ	富山県	東礪波郡平村天王山	600			無		ツガノキ
	山梨県	東山梨郡勝沼町	530			天然記念物等C		ツガノキ
	奈良県	吉野郡十津川村	600			無		ツガノキ
	熊本県	球磨郡水上村市房神社の参道	565			自然公園B		ツガノキ
	鹿児島県	熊毛郡屋久町屋久杉ランド	910			天然記念物等A自然公園A保安林・学術参考保護林等その他制度AA		ツガノキ
	鹿児島県	熊毛郡屋久町安房林道	690			自然公園A		ツガノキ
	鹿児島県	熊毛郡屋久町荒川	627			天然記念物等A自然公園A保安林・学術参考保護林等		ツガノキ
	鹿児島県	熊毛郡屋久町花山歩道	610			天然記念物等A自然公園A自然環境保全地域A		ツガノキ
	鹿児島県	熊毛郡屋久町淀川小屋東側	590			自然公園A		ツガノキ
	鹿児島県	熊毛郡屋久町淀川小屋東側	520			自然公園A		ツガノキ
トチノキ	富山県	下新川郡朝日町大平	900			保安林・学術参考保護林等		トチノキ
	石川県	石川郡吉野谷村雄谷上流部	950			自然公園A		トチノキ
	石川県	石川郡白峰村太田大道谷	1,300		太田の大榎	天然記念物等A		トチノキ
	福井県	大野市奥原	870		トチの巨木	天然記念物等C保安林・学術参考保護林等	○	トチノキ
	福井県	南条郡今庄町岩谷	1,000			無		トチノキ
	長野県	下伊那郡上村	1,050			無		トチノキ
	長野県	木曽郡木曽福島町	870		出尻のトチノキ	無		トチノキ
	長野県	木曽郡檜川村簗川	888			天然記念物等BC		トチノキ
	京都府	綾部市五泉町君尾山	1,040		オオトチ	保安林・学術参考保護林等		トチノキ
	兵庫県	美方郡美方町大谷1049小長迫	962		小長迫の大トチ	天然記念物等B		トチノキ
	兵庫県	美方郡美方町新屋字西備1553	920		榎の木群生地	天然記念物等C		トチノキ

表3-4-4 樹種別全国最大級クラス〔その5〕

樹種*	都道府県	所在地**	幹周	主幹***	独特の呼称	保護指定制度 (A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)	新規 確認	備考
			(cm)	(cm)				
ニレ	北海道	旭川市東旭川南1条6丁目旭川下兵村記念館	575		神迎える櫓	無		ℳニレ、ニレ
	北海道	桧山郡上ノ国町小森	620			無		ℳニレ、ニレ
	北海道	十勝郡浦幌町厚内	600			無		ℳニレ、ニレ
	岩手県	盛岡市手代森21-22法領神社	587		法領のタモ	天然記念物等C		ℳニレ、ニレ
	岩手県	水沢市佐倉河字一本木	925	655	コブニレ	天然記念物等C		コブニレ
	岩手県	岩手郡西根町	670			無		ℳニレ、ニレ
	宮城県	加美郡色麻町	590			無		ℳニレ、ニレ
	栃木県	日光市西ノ湖北西	610			自然公園A保安林・学術参考保護林等		ℳニレ、ニレ
	栃木県	日光市	575					ℳニレ、ニレ
	群馬県	甘楽郡妙義町	590			自然公園B		ℳニレ、ニレ
	神奈川県	海老名市本郷3881番地	750		有馬のハルニレ なんじゃもんじゃ	天然記念物等B		ℳニレ、ニレ
ヒノキ	福島県	岩瀬郡天栄村大字牧之内字童生	710		観音堂のヒノキ	その他制度BC		ヒノキ
	茨城県	那珂郡瓜連町静神社	700			無		ヒノキ
	石川県	石川郡尾口村大汝国有林1021林班い小班	878			自然公園A保安林・学術参考保護林等	○	ヒノキ
	山梨県	富士吉田市上吉田5558北口本宮富士浅間神社	765			天然記念物等C		ヒノキ
	岐阜県	岐阜市	660			天然記念物等B		ヒノキ
	岐阜県	恵那郡上矢作町上村恵那	754		笠木	保安林・学術参考保護林等		ヒノキ
	岡山県	上房郡賀陽町吉川	770			無		ヒノキ
	高知県	高知県高岡郡窪川町折合	990		折合の大ヒノキ	無		ヒノキ(単幹とみなす)
	宮崎県	東臼杵郡椎葉村大久保	800		大久保ヒノキ	天然記念物等B		ヒノキ
	宮崎県	西臼杵郡五ヶ瀬町	782		祖國大ヒノキ	無	○	ヒノキ
ブナ	青森県	南津軽郡浪岡町泉民の森25林班	830			保安林・学術参考保護林等その他制度B自然公園C		ブナ
	青森県	南津軽郡浪岡町泉民の森26林班(梵珠山)	800			保安林・学術参考保護林等その他制度B自然公園C		ブナ
	秋田県	仙北郡角館町	860		ブナ日本一和賀山塊	自然公園Cその他制度	○	ブナ
	秋田県	仙北郡角館町小影山	662			自然公園C	○	ブナ
	秋田県	仙北郡田沢湖町	810			自然公園C保安林・学術参考保護林等	○	ブナ
	山形県	最上郡真室川町男峯山西側斜面	560		男峯山の株立ブナ	自然公園C	○	ブナ
	山形県	最上郡戸沢村	635			自然公園C自然環境保全地域	○	ブナ
	東京都	西多摩郡奥多摩町名栗沢	600		名栗沢のクロブナ	自然公園A	○	イブナ
	東京都	西多摩郡奥多摩町	570		関東一のブナ	自然公園A	○	イブナ
	静岡県	田方郡函南町桑原西南原生林	640		西南原生林	自然環境保全地域B		ブナ
ホルトノキ	東京都	小笠原村母島	631		コブノキ	自然公園A保安林・学術参考保護林等		ｼﾏﾎﾙﾄﾉｷ
	静岡県	熱海市上野地	590			風致地区・緑地保全地区		ﾎﾙﾄﾉｷ, ﾓｶﾞｼ
	静岡県	熱海市玄蕃屋敷	570			天然記念物等C風致地区・緑地保全地区		ﾎﾙﾄﾉｷ, ﾓｶﾞｼ
	静岡県	伊東市宇佐美峰熊野神社	640		御神木	無		ﾎﾙﾄﾉｷ, ﾓｶﾞｼ
	静岡県	賀茂郡河津町峰字枝川531番地地先神社	600			無		ﾎﾙﾄﾉｷ, ﾓｶﾞｼ
	徳島県	阿南市長生町北内王子神社	582			天然記念物等B		ﾎﾙﾄﾉｷ
	香川県	大川郡引田町 萱田神社	560			その他制度		ﾎﾙﾄﾉｷ
	愛媛県	宇摩郡土居町村山神社	570			天然記念物等C		ﾎﾙﾄﾉｷ, ﾓｶﾞｼ
	佐賀県	三養基郡北茂安町	580					ﾎﾙﾄﾉｷ, ﾓｶﾞｼ
	宮崎県	都綾町竹野	630		竹野のホルトノキ	天然記念物等A		ﾎﾙﾄﾉｷ, ﾓｶﾞｼ

表 3-4-4 樹種別全国最大級クラス [その6]

樹種*	都道府県	所在地**	幹周	主幹***	独特の呼称	保護指定制度	新規 確認	備考
			(cm)	(cm)		(A: 国指定、B: 都道府県指定、C: 市町村指定)		
マツ	青森県	青森市浅虫浅虫馬場山302林班	660		馬場山のアカマツ	無	○	7hマツ
	青森県	弘前市弘前公園三の丸	647			都市公園C		7h加マツ・7hイノマツ
	岩手県	下閉伊郡岩泉町	600					6hマツ
	宮城県	本吉郡歌津町弘川	650		紅葉ヶ岳の傘松	天然記念物等C		7hマツ・マツ
	宮城県	本吉郡歌津町尾崎	630		尾崎の黒松	自然公園B保安林・学術参考保護林等		加マツ・マツ
	山形県	最上郡最上町東法田	770		山神様の大松	天然記念物等C		7hマツ・マツ
	新潟県	両津市夷7	600		村雨のマツ	天然記念物等B		加マツ・マツ
	新潟県	北蒲原郡黒川村下館	660		黒川村の傘松	天然記念物等B		7hマツ・マツ
	新潟県	佐渡郡煙野町丸山	610			無		加マツ・マツ
	鳥根県	藤川郡大社町	600		千年松			加マツ・マツ
	広島県	安芸郡倉橋町才ノ木桂浜	610		白砂青松	自然公園A		加マツ・マツ
	山口県	萩市	600			無		加マツ・マツ
	香川県	綾歌郡宇多津町円通寺	700			天然記念物等B		加マツ・マツ
	青森県	下北郡脇野沢村字田ノ頭館越山神社	939			無		ミヅナ
ミズナラ	秋田県	仙北郡角館町小影山北部	1,130			自然公園C	○	ミヅナ
	秋田県	仙北郡太田町	925			自然公園C	○	ミヅナ
	秋田県	仙北郡太田町	730			自然公園C	○	ミヅナ
	東京都	西多摩郡奥多摩町タワ尾根	751		金袋山のミズナラ	自然公園A	○	ミヅナ
	長野県	下伊那郡清内路村	940			天然記念物等B		ミヅナ
	長野県	下伊那郡清内路村	690			保安林・学術参考保護林等		ミヅナ
	長野県	下高井郡木島平村カヤノ平	770		山の神	無		ミヅナ
	岐阜県	大野郡宮村	710			無	○	ミヅナ
	鳥取県	西伯郡大山町樹水一ノ沢	730			自然公園A保安林・学術参考保護林等		ミヅナ
	三重県	安芸郡芸濃町椋本	950		椋本の大ムク	天然記念物等A		ムクノキ
ムクノキ	兵庫県	佐用郡三日月町	990		三明の大ムク	天然記念物等B		ムクノキ
	奈良県	五條市	850		二見の大ムク	天然記念物等A		ムクノキ
	奈良県	御所市	831			無		ムクノキ
	鳥取県	西伯郡岸本町岸本神社	830			無		ムクノキ
	鳥根県	邑智郡川本町大字木路原	830			無		ムクノキ
	岡山県	英田郡英田町滝宮字北川1537-2	805		横川のムクノキ	天然記念物等B		ムクノキ
	愛媛県	周桑郡丹原町観音堂	810			無	○	ムクノキ
	熊本県	熊本市和泉町七巻天神	900			風致地区・緑地保全地区	○	ムクノキ
	大分県	宇佐郡安心院町	840			無		ムクノキ
	福井県	福井県大飯郡大飯町依居神社	629			天然記念物等B		ミ
モミ	栃木県	那須郡塩原町大綱	650			自然公園A保安林・学術参考保護林等		カシ・ロミ・ダケミ
	群馬県	吾妻郡中之条町大字大道246磨石	761		磨石のモミ	天然記念物等C		ミ
	群馬県	吾妻郡中之条町大字下沢渡1370-1伊賀野	633		伊賀野のモミ	天然記念物等B		ミ
	兵庫県	篠山市大山宮追手神社	780			無		ミ
	徳島県	美馬郡一宇村白山神社	645		一字薩の大モミ	天然記念物等B	○	ミ
	高知県	幡多郡西土佐村	780		新王様のモミの木	無		ミ
	熊本県	葦北郡芦北町大字市野瀬字城650	630		阿蘇神社の神木	その他制度B		ミ

表3—4—4 樹種別全国最大級クラス〔その7〕

樹種*	都道府県	所在地**	幹周	主幹***	独特の呼称	保護指定制度	新規 確認	備考
			(cm)	(cm)		(A：国指定、B：都道府県指定、C：市町村指定)		
モミ	宮城県	東臼杵郡南郷村	690			自然環境保全地域B保安林・学術参考保護林等		ミ
	宮城県	東臼杵郡南郷村	660			自然環境保全地域B保安林・学術参考保護林等		ミ
その他	兵庫県	赤穂郡上郡町若槻637法雲寺	983		柏楓杉（ビャクシン）	天然記念物等B		イブキビャクシン
	鹿児島県	大島郡徳之島町	1,760			無	○	ガジュマル
	沖縄県	名護市字名護	1,362		ひんぶんがじゅまる	天然記念物等B		ガジュマル
	沖縄県	名護市字久志368-1久志観音堂	1,000		久志観音堂のガジュマル	無		ガジュマル
	沖縄県	島尻郡東風平町	2,350			無		ガジュマル
	沖縄県	島尻郡東風平町	1,990			無		ガジュマル
	沖縄県	島尻郡東風平町	1,800			無		ガジュマル
	沖縄県	島尻郡東風平町	1,100			無		ガジュマル
	沖縄県	島尻郡東風平町	1,100			無		ガジュマル
	沖縄県	宮古郡伊良部町	1,085		ヤスルガジュマル	無		ガジュマル
カツラ ※株立ちの 総幹周	岩手県	大船渡市	2,010	400		無		カツラ
	岩手県	遠野市小友町32-50	1,940	200	千本カツラ	天然記念物等C		カツラ
	岩手県	釜石市栗林町19-41-2	2,860	599	明神カツラ	天然記念物等C		カツラ
	岩手県	二戸郡一戸町一戸字小井田	2,130	235	小井田の千本桂	天然記念物等C		カツラ
	岩手県	禰賀郡大迫町稲荷神社	3,000	250	千本桂	天然記念物等C	○	カツラ
	岩手県	禰賀郡大迫町山祇神社	2,050	335	山祇桂	無		カツラ
	山形県	最上郡真室川町男峯山南西山麓	2,020	500	地蔵鞍の大カツラ	天然記念物等自然公園C	○	カツラ
	京都府	宇治市東笹取岩間寺境内	2,106	1,156	岩間寺のかつら	その他制度	○	カツラ
	兵庫県	朝来郡和田山町竹ノ内	1,920	200	こもろぎ 糸井の大カツラ	天然記念物等A		カツラ
	島根県	大原郡大東町日原神社	2,090	1,100		天然記念物等B		カツラ

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもので、樹種名は備考欄に記載
 **天然記念物指定のものを除き、所有者が個人・法人・不明の場合にはその所在地の表示を限定した
 ***主幹とは株立ちの中で最大の幹の幹周を示す

図3-4-1 樹種別幹周別の本数 [その1]

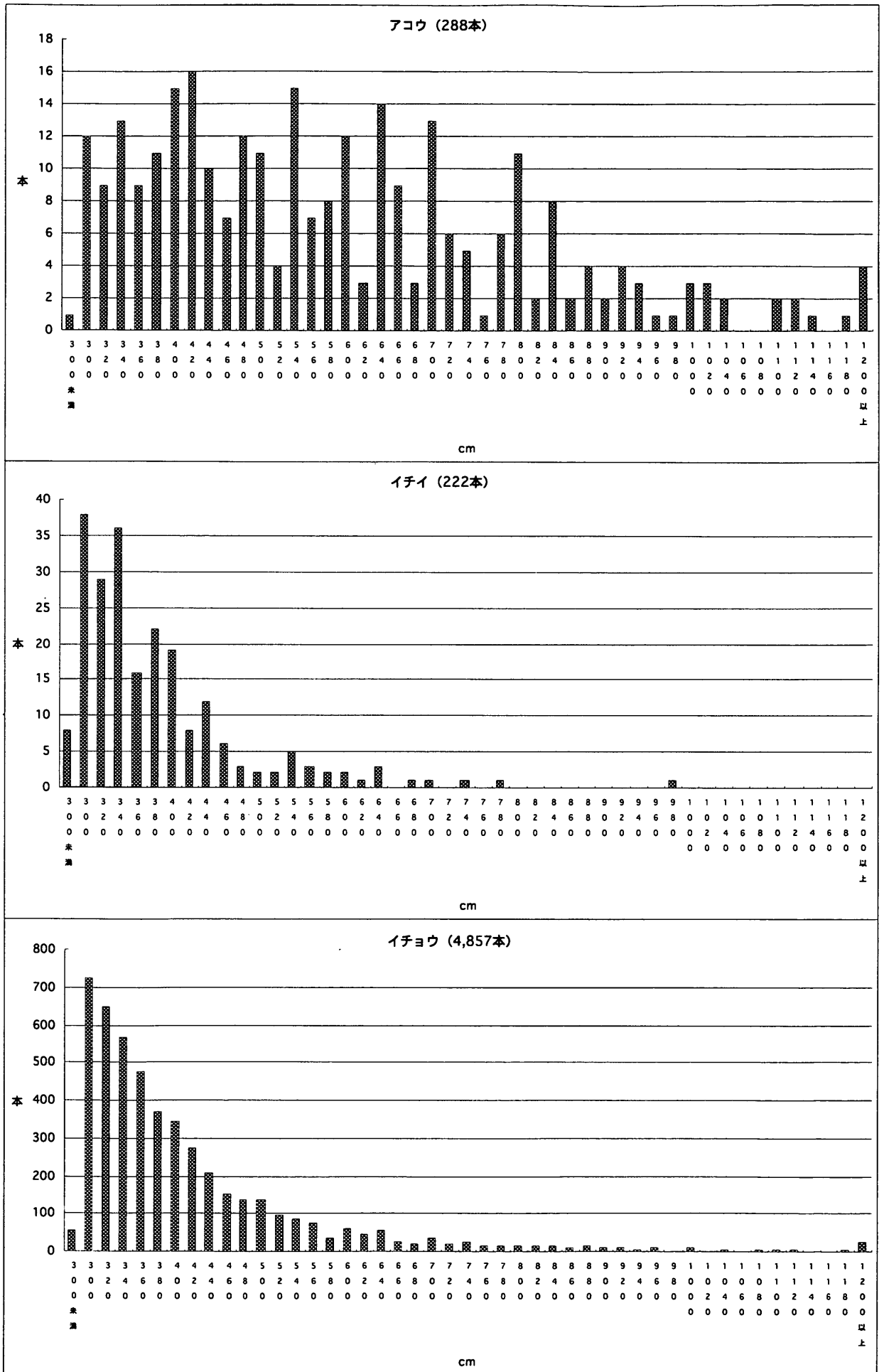
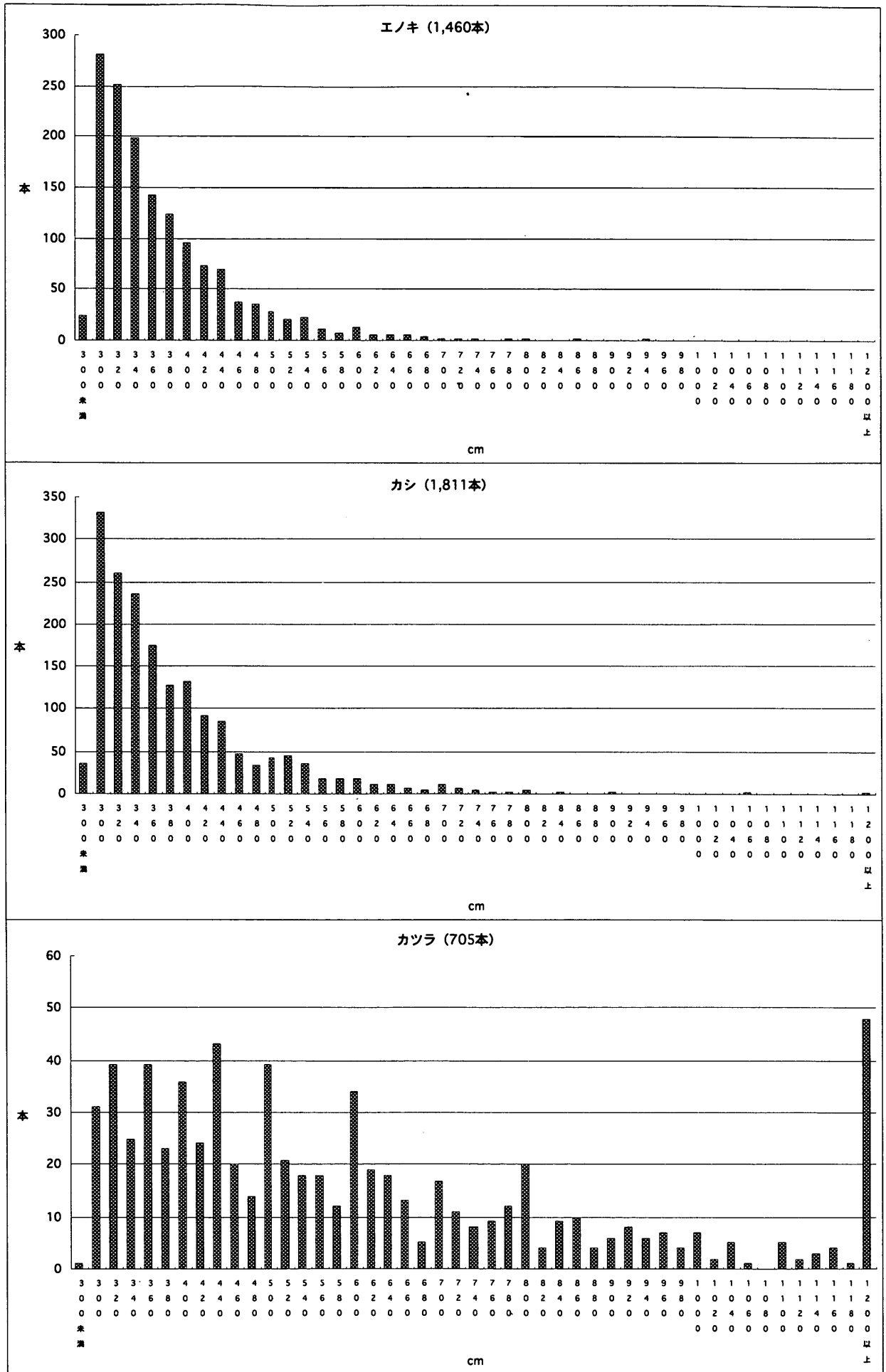


図3-4-1 樹種別幹周別の本数【その2】



カヤ (980本)

径 (cm)	本
3	10
4	140
5	108
6	100
7	88
8	85
9	105
10	65
11	55
12	40
13	30
14	28
15	25
16	22
17	20
18	12
19	10
20	15
21	5
22	10
23	5
24	5
25	5
26	5
27	5
28	5
29	5
30	5
31	5
32	5
33	5
34	5
35	5
36	5
37	5
38	5
39	5
40	5
41	5
42	5
43	5
44	5
45	5
46	5
47	5
48	5
49	5
50	5
51	5
52	5
53	5
54	5
55	5
56	5
57	5
58	5
59	5
60	5
61	5
62	5
63	5
64	5
65	5
66	5
67	5
68	5
69	5
70	5
71	5
72	5
73	5
74	5
75	5
76	5
77	5
78	5
79	5
80	5
81	5
82	5
83	5
84	5
85	5
86	5
87	5
88	5
89	5
90	5
91	5
92	5
93	5
94	5
95	5
96	5
97	5
98	5
99	5
100	5
101	5
102	5
103	5
104	5
105	5
106	5
107	5
108	5
109	5
110	5
111	5
112	5
113	5
114	5
115	5
116	5
117	5
118	5
119	5
120	5
121	5
122	5
123	5
124	5
125	5
126	5
127	5
128	5
129	5
130	5
131	5
132	5
133	5
134	5
135	5
136	5
137	5
138	5
139	5
140	5
141	5
142	5
143	5
144	5
145	5
146	5
147	5
148	5
149	5
150	5
151	5
152	5
153	5
154	5
155	5
156	5
157	5
158	5
159	5
160	5
161	5
162	5
163	5
164	5
165	5
166	5
167	5
168	5
169	5
170	5
171	5
172	5
173	5
174	5
175	5
176	5
177	5
178	5
179	5
180	5
181	5
182	5
183	5
184	5
185	5
186	5
187	5
188	5
189	5
190	5
191	5
192	5
193	5
194	5
195	5
196	5
197	5
198	5
199	5
200	5
201	5
202	5
203	5
204	5
205	5
206	5
207	5

図3-4-1 樹種別幹周別の本数〔その4〕

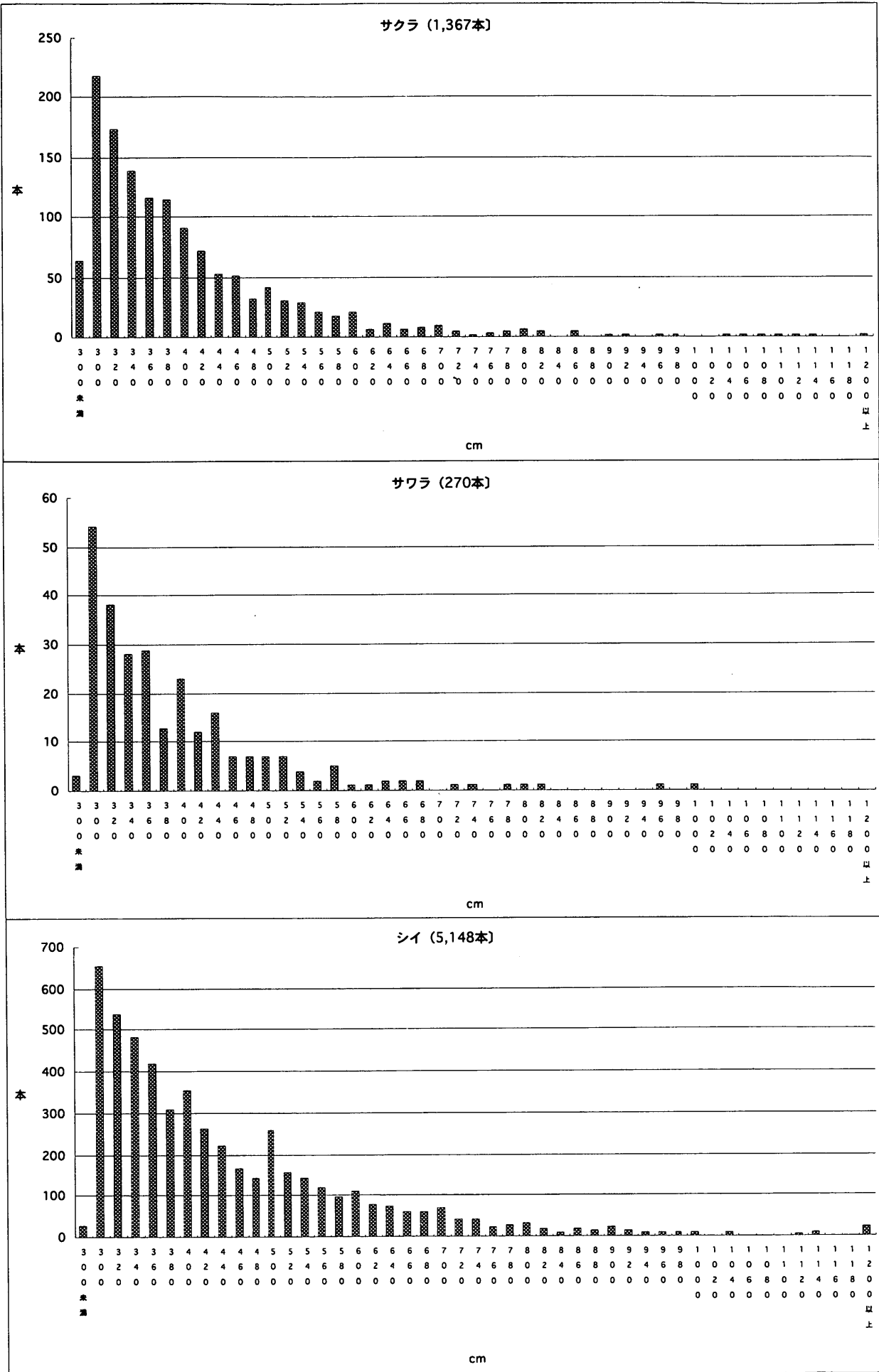


図3-4-1 樹種別幹周別の本数 [その5]

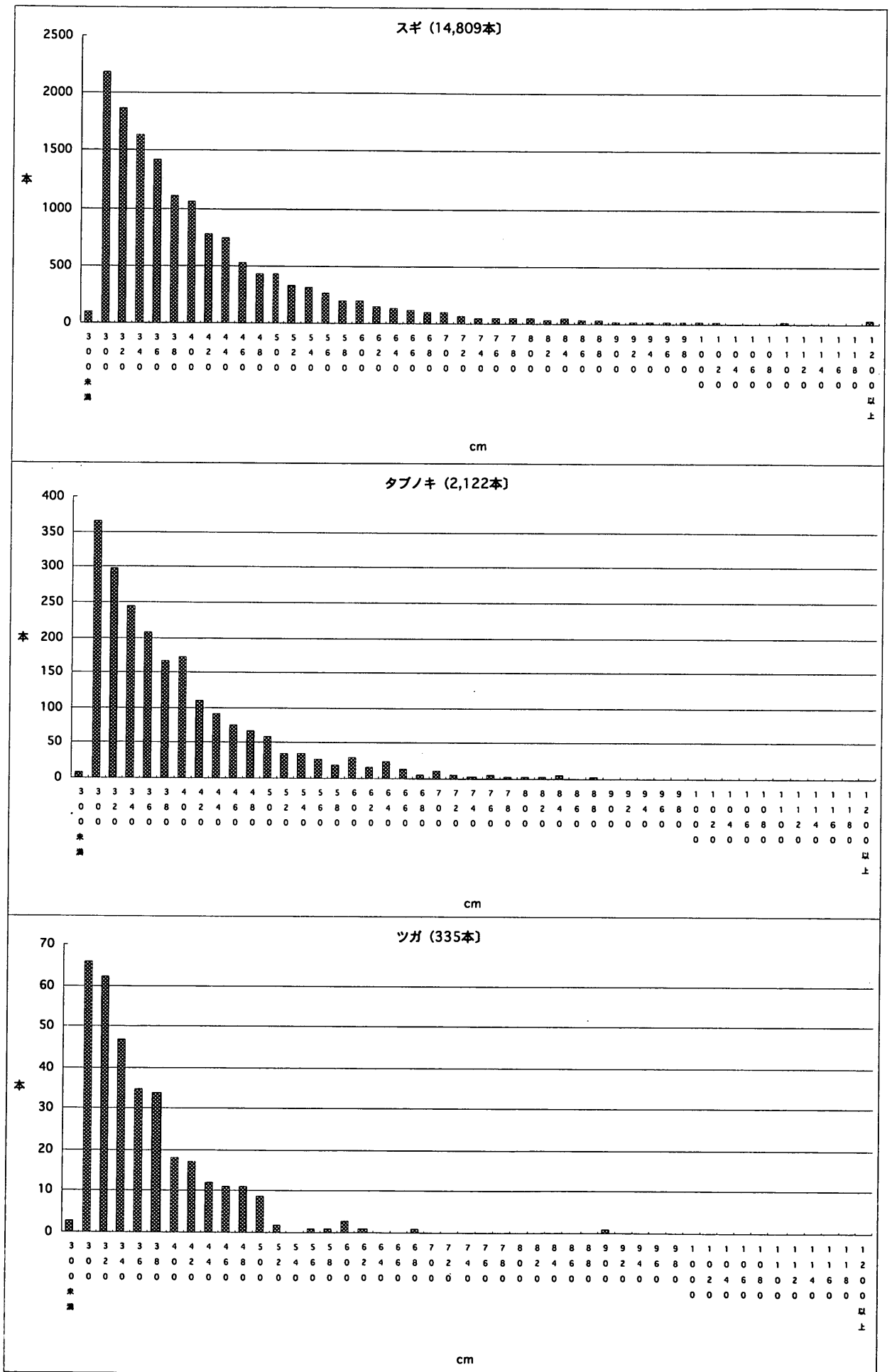


図3-4-1 樹種別幹周別の本数【その6】

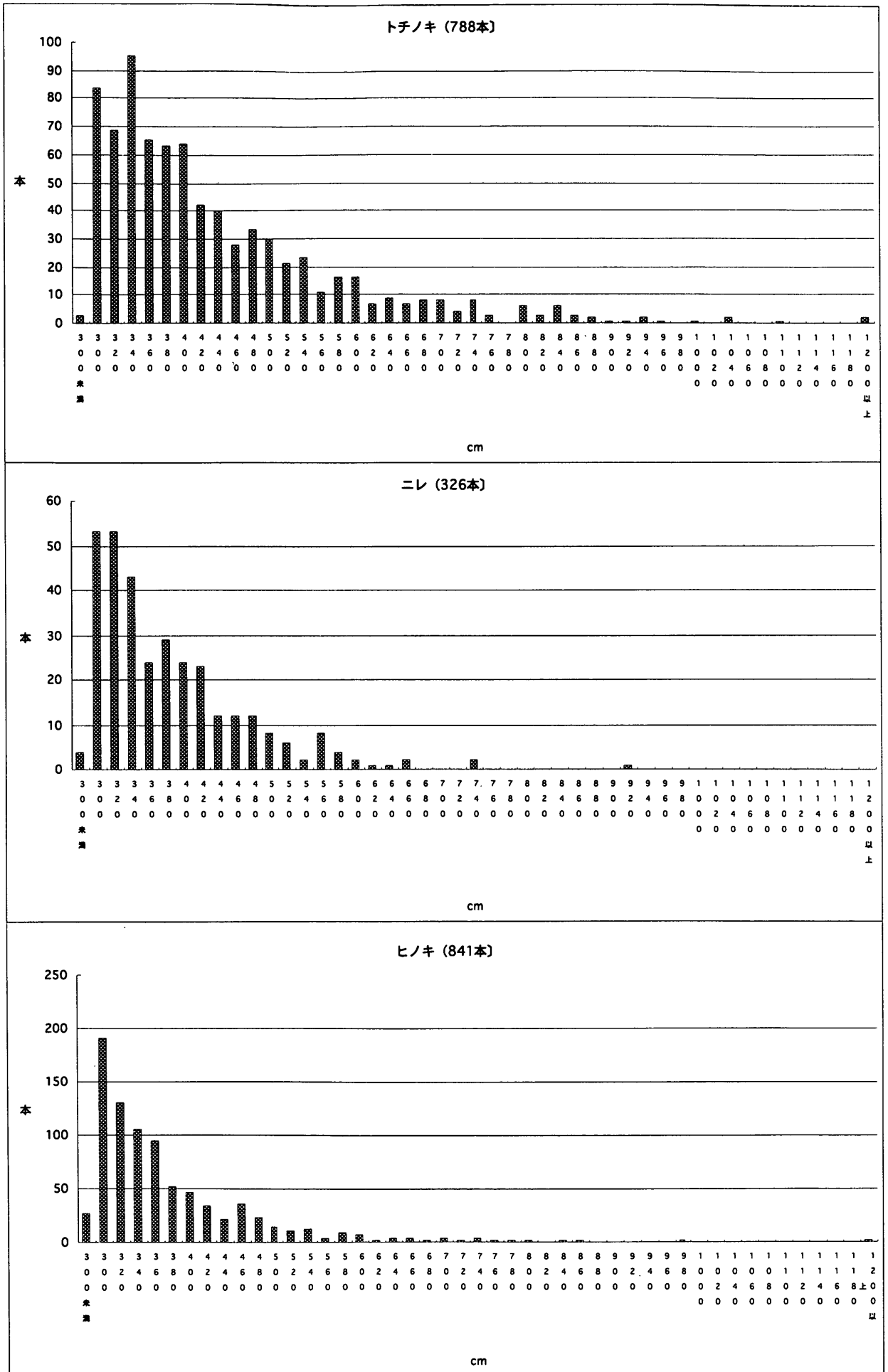


図3-4-1 樹種別幹周別の本数 [その7]

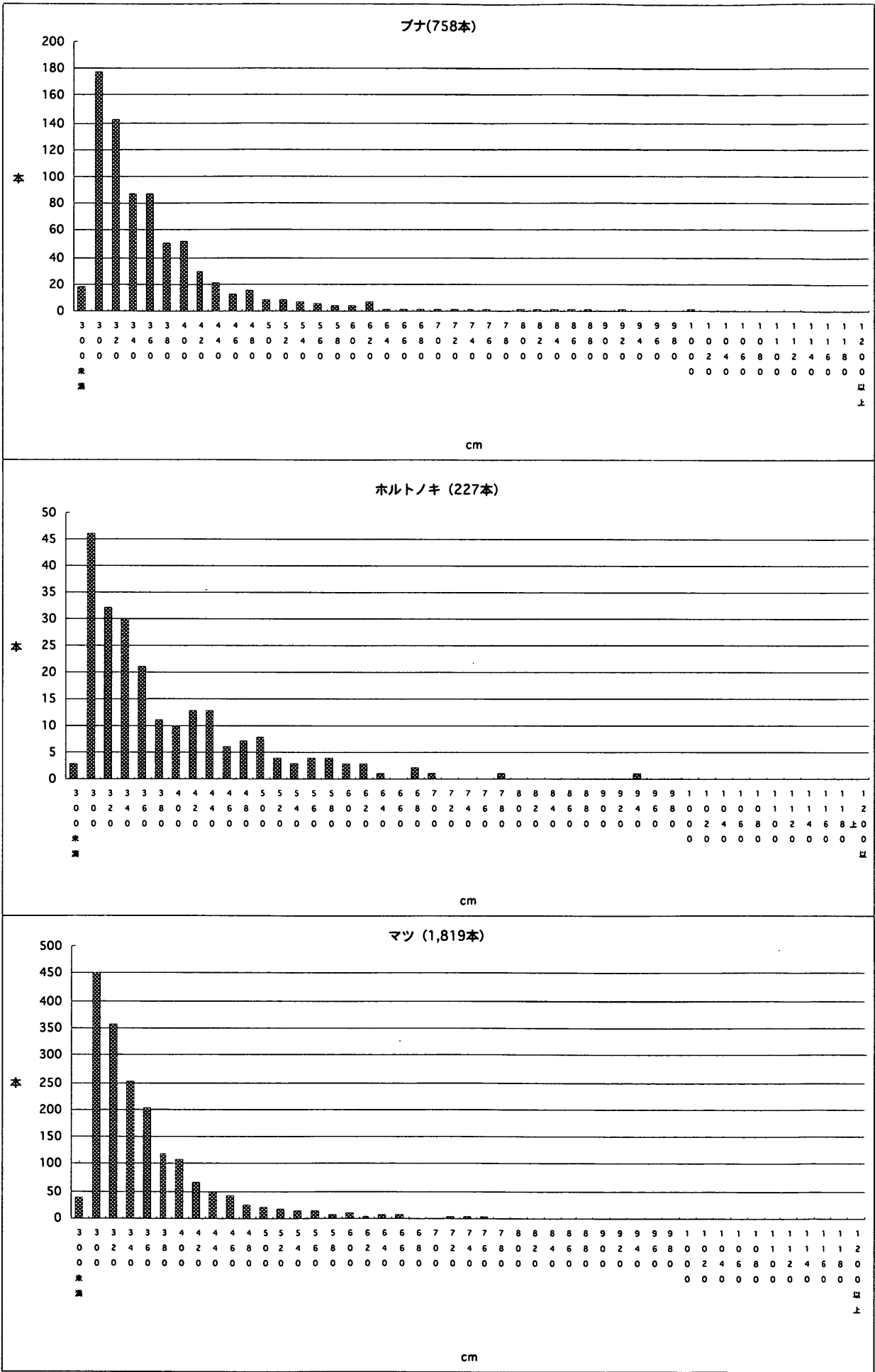


図3-4-1 樹種別幹周別の本数 [その8]

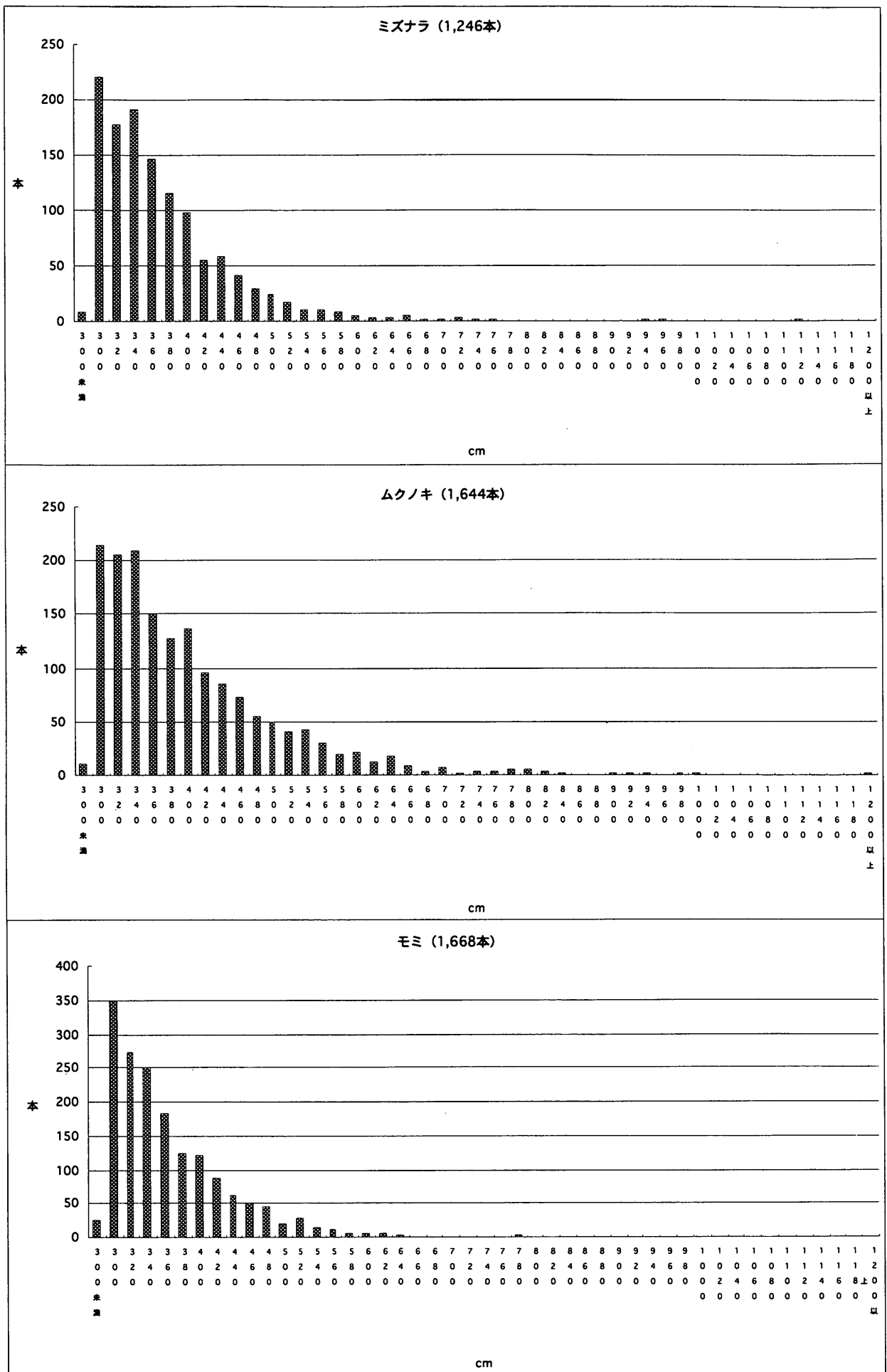
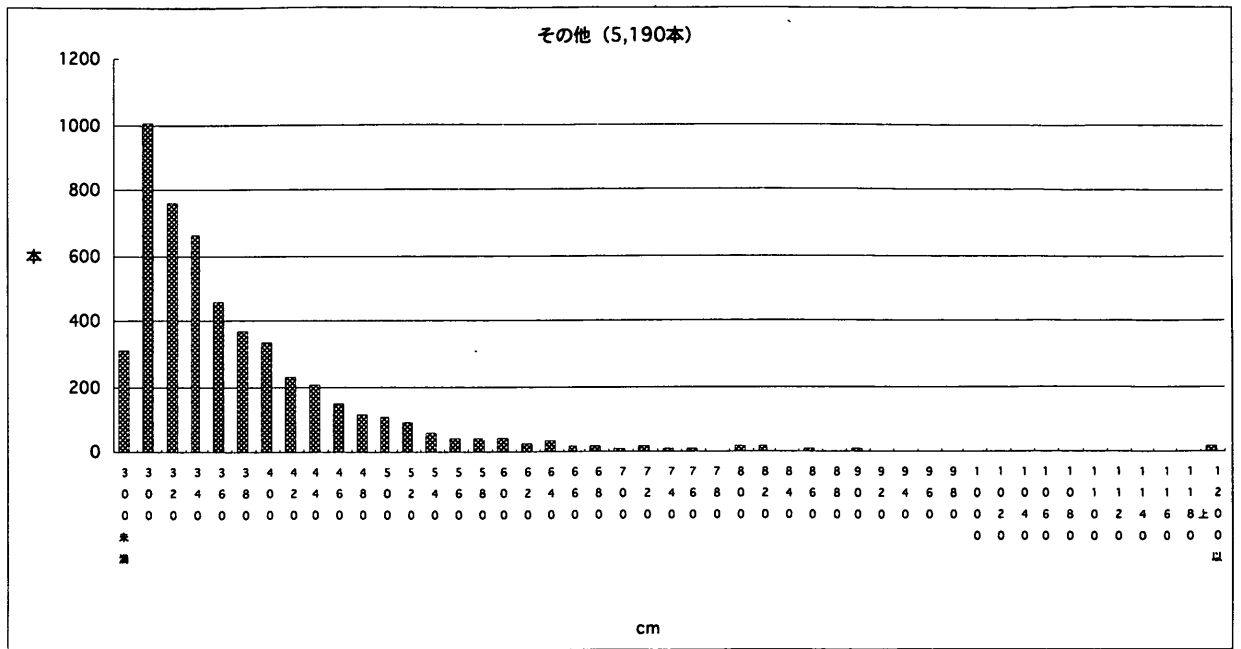


図3-4-1 樹種別幹周別の本数【その9】



4.2 大都市における巨木の賦存状況

大都市における巨木の賦存状況をみるため、政令指定都市毎の巨木の類型別件数、測定巨木総数を集計し、結果を表3－4－5に示した。

政令指定都市の中では、東京（23 区）が測定本数 1,205 本で最も多く、次いで福岡市（203 本）、京都市（162 本）、札幌市（123 本）の順であった。

これらの都市は、大面積の緑地や公園、巨木を有する社寺が多いことがその理由と考えられる。これらの巨木の多い都市の特徴として、歴史のある大面積の緑地を有していることや、市内に社寺が多いことなどがあげられる。なお今回、東京都世田谷区から多数の新規データを提出されたことから、まだ都市内の個人邸や社寺などに未確認の巨木が存在していることが予想される。

表3－4－5 政令指定都市

政令指定都市	単木	樹林	並木	合計	面積	人口	面積 (Km2)あ たり本数	人口1万 人あたり 本数
	本	本	本	本	km 2	万人		
札幌市	16	101	6	123	1,121.12	182.06	0.11	0.68
仙台市	55	17		72	788.09	100.63	0.09	0.72
千葉市	64	27	2	93	272.08	88.60	0.34	1.05
東京23区	707	492	6	1,205	621.45	812.18	1.94	1.48
横浜市	21			21	434.64	341.64	0.05	0.06
川崎市	23			23	144.35	124.83	0.16	0.18
名古屋市	64	1		65	326.45	217.23	0.20	0.30
京都市	32	111	19	162	610.22	145.92	0.27	1.11
大阪市	55	18		73	221.27	259.70	0.33	0.28
神戸市	25	31		56	549.94	149.36	0.10	0.37
広島市	25	27		52	741.63	113.05	0.07	0.46
北九州市	39	14		53	484.18	100.90	0.11	0.53
福岡市	199	4		203	338.29	133.92	0.60	1.52
合計 / 平均	1,325	843	33	2,201			0.34	0.67

※人口、面積は平成12年7月1日現在（出典：東京都及び各市役所統計資料）
（人口は推計人口）

4.3 巨樹・巨木林と人との関わり

巨木と人との関わりとしては、大きく分けて木材生産・観光などの直接的な利用を通じた関わり方と、信仰・故事などの精神的なつながりによる関わり方、及び保護管理等による関わり方とがある。

(1) 直接的・精神的な利用

巨木林の直接利用の集計結果（新規データ）表3-2-27によれば、「特に利用していない」が全体の76%を占め、大部分の巨木林が直接的な利用の対象になっていないことが明かとなった。また利用されている巨木林では、観光・レクリエーション・公園として利用されているものが「その他」も含めた利用全体の75%、一方木材生産などの伐採を目的とした利用が19%であり、伐採に関連する利用率は低いものの、巨木も伐採の対象となっていることがわかる。前回は、「特に利用していない」が65%、利用されている巨木林で、観光・レクリエーション・公園として利用されているものが「その他」も含めた利用全体の54%、一方木材生産などの伐採を目的とした利用が18%だった。巨木の利用が増えていること、特に、観光・レクリエーション・公園としての利用が大きく伸びたこと、それに比して林業の利用はあまり変わらないことがうかがわれる。

また、精神的なつながりについては、信仰・呼称・故事等がいずれについても「無し」が「有り」を大きく上回っており（表3-2-23・24・25）、この傾向は前回と変わらない。ただし、上記結果は調査対象とした全巨木についての結果であり、幹周6mを超えるような代表的な巨木の場合には、独特の呼称「有り」が「無し」を上回っており、人との関わりも深いものも多いと考えられる（付表-13）。

故事・伝承（新規データ）として具体的にその内容が記述されていたのは、295件であり、全体の約2.5%に過ぎないが、「有り」の約半数（58%）に達した。前回は、「有り」の45%に内容の記述があった。その記載内容を概略、分類すると表3-4-6のようになる。

歴史的な人物や事件との係わりに関するものが109件で最も多く、次いで、災難から逃れる等のご利益があったり願を掛けるものが99件、ご神木、ご神体等、神としてあがめたり、寺社の境内や山門等の神域にあるものが33件、境界木、一里塚等の目印や防風林・防砂林等、実際的な目的に利用しているのが17件となっている。前回と比べると、順位の1位は同じだが、2、3位が逆になった。

表 3—4—6 故事・伝承の分類（新規データ）

分類	詳細	前回データ
A. 神として崇める。傷つけたり切ったりすると、たたりがある。 [33件]	1. ご神体、ご神木、たたりがある (19) 2. 神社の参道、寺の境内など神域を表す (1) 3. 根元や傍らにほこらや仏像を設置 (9) 4. 蛇、天狗、鬼などが住む等の言い伝え (4)	(132) (41) (37) (49)
B. 災難から逃れる。ご利益がある。 願掛け、祈願。 [99件]	5. 守護神、災害からの守護 (28) 6. 子育て、子授かり、乳、夜泣き (15) 7. 相生、結婚、縁結び (9) 8. 病、けがの回復 (24) 9. 豊穡、生産 (23)	(62) (81) (13) (18) (7)
C. 歴史的な人物・建物・事件との係わり [109件]	10. 偉人お手植えの木 (6) 11. 歴史的な人物や事件との係わり、記念樹 (84) 12. シンボル、名残 (19)	(172) (522) (13)
D. 実際に利用 [17件]	13. 境界木、一里塚、標木等の目印など (11) 14. 防風林、防砂林、防火など (6)	(75) (28)
E. 墓標、供養 [7件]	15. 墓標、犠牲者の供養 (7)	(61)
F. 占い [3件]	16. 占い、季節の変化、予兆 (3)	(22)
G. 異相 [0件]	17. 変異、奇態、なにかの形に似ている (0)	(10)
H. その他 [20件]	18. その他（名前の由来等に関する記述） (20)	(120)
I. 関係なし [7件]	19. 関係なし (7)	(28)
全報告件数 295件		1,501件

* 重複回答有り

(2) 保護管理等

巨木と保護制度との関係（更新データ・新規データ、表 3—2—28）をみると、その 53%が保護制度の適用を受けておらず巨木の保護方策の拡充整備が今後の課題と言える。一方、保護制度の指定を受けた巨木は、単木で 41%、樹林で 52%、並木で 44%であり、樹林及び並木がなんらかの保護の指定を受けている割合が高い（表 3—2—29）。しかし、保護の指定及び特記事項（具体的保護行為）と巨木の健全度とのクロス集計結果をみると、保護の指定あるいは保護行為が必ずしも健全度を高めているとは言えず（表 3—3—2・4）、この傾向は前回と変わらない。ただし、伐採された巨木のうち保護指定を受けていなかったものが 8 割近くあり（p46 参照）、保護指定制度が何らかの形で歯止めとなっていることがうかがわれたが、さらに現行の保護策の内容について検討する必要がある。

5.総括

巨樹・巨木林調査結果を全国的な視点から集計・解析した。とりまとめた内容を整理すると、以下のとおりである。

(1) 巨木の本数

前回調査の巨木本数と今回の調査で実際に測定され幹周等のデータが報告された巨木の総数は、単木、樹林及び並木を併せて 64,479 本であった。この内、単木は 33,203 本、樹林は 29,248 本、さらに並木は 2,005 本であった。樹林及び並木の実測本数約 3,000 本、推定本数約 21,000 本については、前回調査の推定本数約 68,000 本との重複も含まれると推測され、この点を勘案するとわが国の巨木の本数は約 132,000～156,000 本程度と推測される。

(2) 巨木の樹種

最も数が多かった樹種は、スギであり (14,869 本)、次いでケヤキ (9,452 本)、クスノキ (5,926 本)、イチヨウ (4,855 本)、スダジイ (4,830 本) の順で、前回と順位は変わらなかった。

(3) 巨木の大きさ

胸高直径 1～2m の巨木は約 29,000 本であり、全体の 78%を占めた。次いで 1m 以下のものが約 6,000 本 (15%)、2～4.9m のものが約 2,500 本 (6.5) となっており、5m 以上のものは 32 本 (0.1%) であった。

(4) 巨木の所有者

巨木の所有者で最も多かったのは寺社で、全体の 57%を占めており、この割合は前回とほぼ同じであった。

(5) 巨木の周囲の状況

巨木の周囲の状況は、樹林が最も多く、樹林の内訳をみると、社叢等の小面積のものが 3,373 件 (29%)、山林等大面積の樹林に位置するものは 3,249 件 (28%) とほぼ同じであった。前回調査では比較的人目につきやすい社叢等の巨木が多く抽出され、今回は山間部にも広く調査が及んだ結果と考えられる。

(6) 巨木の健全度と周囲の状況等

巨木の健全度と周囲の状況との関係を見ると、巨木の健全度が大きく影響を受ける傾向は明瞭とはいえなかった。この傾向は、前回とほぼ同じである。また、健全度と保護制度指定の有無との関係については、自然環境保全地域に指定されている場合に健全度がやや高い傾向がうかがわれた。

(7) 鳥類あるいは獣類の生息状況

巨樹・巨木林における鳥類あるいは獣類の生息状況については、生息が有りと報告されたものは鳥類で全体の 8.5%、獣類で全体の 4.1%と少なかった。

(8) 巨木の欠損と健全度

巨木の欠損の程度は、単木では欠損有りと報告されたのは 43%で、46%は欠損が無いと報告された。一方、樹林・並木では、欠損有りが 51%、無しが 38%と、欠損無しに対して有りが高かった。また、健全度については、巨木の 74%が健全度良と判断されたものの、不良のものも 20%と少なかった。樹種別にみると、サクラが特に健全度不良の割合が 44%と高い値を示していた。次いで前回同様にイチイ、カシ、カツラ、サワラ、シイ、タブノキ、ニレ、ミズナラ、ムクノキ等でも健全度が不良の割合が 20%以上にのぼっており、さらに今回はエノキ、カヤ、ケヤキにおいても健全度が不良の割合が 20%程度となっていた。

(9) 巨木と人文的項目

信仰対象等となっている巨木は全体の約 22%を占めた。樹種別にみると、スギ、シイ、サワラ、ヒノキでは信仰の対象となっているものが3割近いことが特徴的であった。また、独特の呼称・名称の有る巨木は全体の 16%程度を占め、前回同様にイチイ、サクラ、マツでは 30~40%が呼称・名称があるものであった。巨木にまつわる故事・伝承があると報告されたものは全体の 5.6%程度で、大半の巨木については故事・伝承等はなかった。巨木の視認性については、多くの巨木(72%)は目立つものであった。巨木の直接利用がされているのは全体の 5.5%で、76%の巨木については直接利用はされていなかった。

(10) 巨木の枯死・伐採・消失等

「枯死、伐採、消失等」について 1,660 件の報告があった。枯死は、雷による焼失、台風による倒木、マツクイムシ等の病虫害で枯れたもの等で、927 件であった。原因の記載のあったものを樹種別にみると、マツはマツクイムシによるものが 75%、スギやケヤキでは台風・大風によるものが共に 80%と極めて高い割合を示した。伐採等は、人為的な原因による伐採のことで、540 件が報告された。伐採の原因について記載のあった内訳をみると、再開発・区画整理に係るもの、道路拡幅等に伴うもの、ダム建設・河川改修に伴うもの、社殿改築や隣地建築工事等に伴うもの、日照や落ち葉の苦情・危険のため等であった。伐採した巨樹・巨木林について、保護指定制度の有無をみたところ 101 件(19%)が有り、426 件(79%)が無しで、保護指定制度が伐採に対してなんらかの歯止めになっていることがうかがわれる。消失は、対象となる巨樹・巨木林が現実にはその場所には存在しない、現存しない、切ってしまったらしい等で、193 件が報告された。1,660 件は、回答のあった追跡調査票 28,576 本の 5.8%に当たる。

(11) 巨木の保護制度指定の状況

巨木の保護制度指定の状況は、指定無しのものが約 54%、有るものが約 45%となっており、前回は「有り」が 29%だったのに対し約 1.5 倍となった。これは、今回の調査の回答者が市町村であるため、保護制度について把握していたことが影響したものと考えられる。指定されている保護制度の内容としては、天然記念物等の指定が最も多かった。胸高直径別に保護制度指定の有無をみると、胸高直径が 2m 以上のものについては保護制度指定があるものの方が多く、これは前回と変わらない。一方、胸高直径が 2m 以下の樹木については、単木・樹林・並木とも保護制度の指定がない方が多かった。樹種別にみると、イチイ、カヤ、サクラは天然記念物に指定されているものが多かったが、ブナ、ミズナラでは自然公園内にある場合が多く、これは前回と変わらなかった。

(12) 全国最大級の巨木の分布特性

幹周(株立ちのものは主幹)が 12m以上の巨木 117 本の都道府県別内訳にみると、39 都府県に分布し、その中で鹿児島県が 13 本と最も多く、次いで山形県、静岡県、福岡県が各 7 本、青森県が 6 本、岐阜県、沖縄県が各 5 本と続く。樹種別内訳をみると、出現する樹種は 10 種で、クスノキが 48 本、スギ 24 本、イチヨウ 18 本でこの 3 種で全体の 3/4 を占め、以下カツラ 11 本、ガジュマル及びケヤキが 5 本、アコウ・スダジイが 2 本、イチイガシ・トチノキが 1 本であった。

各都道府県毎の最大級の巨木は、樹種が比較的限られており、中でもクスノキ、スギ、イチヨウ、カツラの出現する割合が高かった。前回と比べると、イチヨウよりも多かったケヤキは減少した。

わが国の代表的な樹種 24 種について、樹種別に最大級の巨木を整理した結果、その多くが分布する県は、長野県(19 本)、次いで鹿児島県(18 本)であった。以下、山形県、福島県、東京都

が 12 本、青森県及び沖縄が 9 本などであった。また、大都市（政令指定都市）で巨木の本数が多かったのは、東京（23 区）が測定本数 1,205 本で最も多く、次いで福岡市（203 本）、京都市（162 本）、札幌市（123 本）の順であった。

(13) 巨木と人との関わり

巨木と人との関わりについて、故事・伝承について報告（新規データ）のあった 295 件について整理した結果、歴史的な人物や事件のいわれを伝えるものが 109 件と最も多く、次いで災難から逃れる等のご利益があったり願を掛けるものが 99 件などであった。

(14) 巨木と保護指定制度との関係

巨木の 53%が保護指定制度の適用を受けておらず、巨木の保護方策の拡充整備が今後の課題と言える。伐採された巨木の 8 割近くが保護指定を受けていなかったことから、保護指定制度が何らかの形で歯止めとなっていることがうかがわれたが、さらに現行の保護策の内容について検討する必要がある。

以上の結果を踏まえ、我が国の巨樹・巨木林の保全の動きと今後の保全方策のあり方等について整理した。

昭和 63 年度（1988）に実施された前回調査（巨樹・巨木林調査）を機に、全国で巨樹・巨木林の保全を巡る様々な動きが生まれた。巨樹・巨木林を通して身近な自然を見直す機運が高まり、昭和 63 年に「第 1 回巨木を語ろう全国フォーラム」が兵庫県柏原町で開催され、以来郷土の自然環境の保全と自然に対する認識の高揚を目的として、各地の自治体によって毎年全国フォーラムが開催されてきている。

また、平成 5 年（1993）には、当時の環境庁自然保護局自然環境調査室の主導のもとで、巨樹・巨木林を愛する人々の輪を広げ、全国的なネットワーク作りを推進するために全国巨樹・巨木林の会（事務局 東京都台東区）が設立され、本調査においても多数の全国巨樹・巨木林の会会員の協力を得ることができた。

平成元年（1989）に巨樹の里宣言を行った東京都奥多摩町は、平成 6 年（1994）に全国初の巨樹・巨木林の情報・資料センターとなる巨樹ミュージアム・日原森林館を設立し、訪れた人に巨樹・巨木林の情報と保全などの意義を啓発し、毎年解説員の研修会等を行っている。平成 12 年（2000）には、林野庁も全国の国有林内の巨木を対象に胸高直径 1 m 以上（幹周 314cm 以上）または地域のシンボルとなる樹木の中から「森の巨人たち百選」を指定、保全のために募金等の活動を始めた。

一方、巨樹・巨木林を地域の宝としてまちづくりを進める市町村は全国にみられ、その一つ岩手県二戸市では平成 13 年（2001）に我が国で初めての全国こども巨木サミット 2001 が開催され、全国から参加した小中学生が巨木の保全活動を報告した。新聞や雑誌等での巨樹・巨木林についてのニュースや記事、巨木の探訪記や写真集等の発行も相次ぎ、年々巨樹・巨木林への関心は高まっている。

巨樹・巨木林の保全方策について、近年の各地での事例等を参考にハード・ソフトの保全方策を整理した（図 3-4-2、平成 12 年度地域活性化施策推進費「森の巨人と生きるまちづくり」推進調査 巨木保全方策検討委員会資料）。

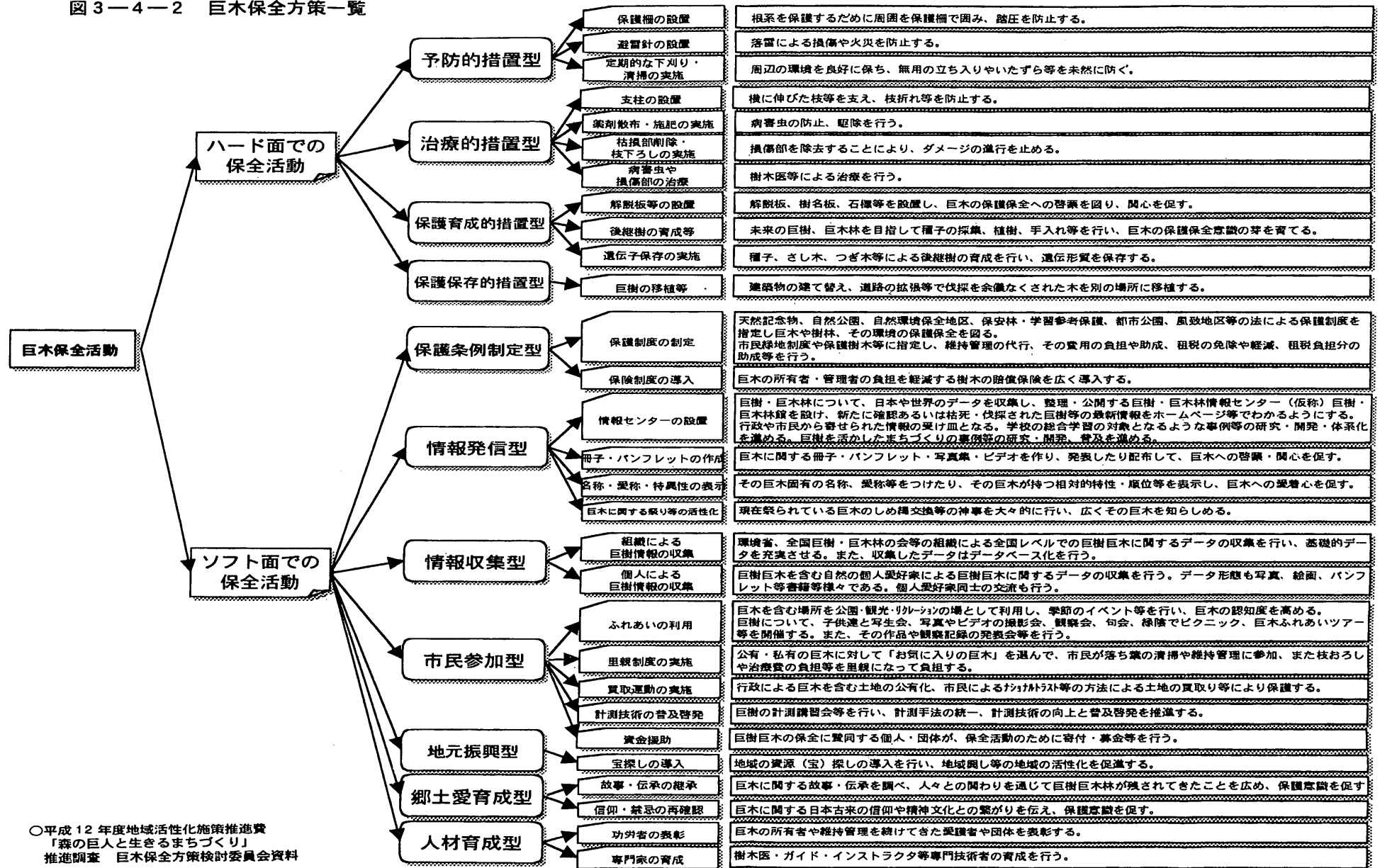
ハード面での保全活動は、①予防的措置型として保護柵や避雷針の設置・下刈りや清掃の実施、②治療的措置型として支柱の設置・薬剤散布や施肥・枯損部削除や枝下ろし・病虫害や損傷部の治療の実施、③保護育成的措置型として解説板等の設置・後継樹の育成等・遺伝子保存の実施、④保護保存的措置型として巨樹の移植等の実施を行うことである。

ソフト面での保全活動は、①保護条例制定型として天然記念物や市民緑地等の保護制度の適用・樹木の賠償保険制度の導入、②情報発信型として巨樹・巨木林に関する情報センターの設置・冊子等の作成・名称や愛称等の表示・祭り等の活性化、③情報収集型として環境省を始め民間団体等の組織や個人による巨樹情報収集、④市民参加型としてイベント等のふれあいの利用・里親制度・ナショナルトラスト等の買取運動・計測技術の普及啓発・保全活動のための資金援助（募金等）の実施、⑤地元振興型として地域の宝探しの実施、⑥郷土愛育成型として故事や伝承の継承・信仰や禁忌の再確認の実施、⑦人材育成型として功労者の表彰・専門家の育成を行うことである。

現在の巨樹・巨木林保全方策は、巨木を単体でとらえ、保全を進めている傾向がある。巨樹・巨木林は、人との関わり、地域文化との密接な関係性の中で残ってきたものであり、それらを切り離して巨樹・巨木林保全方策を考えることには限界がある。

これからの保全方策は、各地域の状況を勘案して、上記方策を組み合わせ、巨樹・巨木林と地域の人々との関りを深めつつ、その価値が理解されるように考えていく必要がある。

図 3—4—2 巨木保全方策一覧



最後に、今後の調査データの更新上の課題と調査データの活用のメリットを整理した。

○巨樹・巨木林のデータの更新

本調査の目的の1つは、巨樹・巨木林の現況について、その計測方法等の統一を図りながら最新のデータを収集し、調査結果をデータベース化することである。今後は巨樹・巨木林の新規確認、計測値の訂正及び枯死情報等についてオープンな形でデータの更新を行い、必要に応じて樹種や計測値の確認調査等を行いながら、データの精度を高めていくことが必要である。

図3-4-1に示した「巨木保全方策」の実施も、最新のデータに対応していることが前提となる。また、今後も各市町村からの最新情報の提供を呼びかけていくには、市町村へのフィードバックをどのように行うのか、またデータの受け入れ窓口などを明確にしておくことが必要である。

○データの活用のメリット

個人情報などに配慮した上で巨樹・巨木林の調査データを公表した場合に、以下のようなメリットがあるものと考えられる。

- ・地元の巨樹・巨木林の実態が明らかになり、地域におけるその巨木の位置付けが理解しやすい。
- ・巨木の希少性（学術的な価値、形状、樹種の分布の特異性等）が明らかになれば、保全や活用のための施策の実施に際して住民の協力などの理解が得やすい。
- ・地域の環境指標である巨木の有無、その健全度などの現状を広く知らせることは、地域の環境問題に目が向く糸口となる。
- ・巨木は、存在感があるため、病虫害の治療や予防など、巨木をとりまく周囲の環境改善は環境教育の題材として好適である。
- ・巨木の増減が、数字で示されるため、衰弱枯損や開発等の事情による伐採などの推移が分かりやすく、地域の環境を見直す上で有効な指標となる。
- ・調査データは、樹木医による健康診断などのカルテ作りを行う基本的な情報源（台帳）となる。

6. 参考文献

1. 環境庁, 第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査報告書-日本の巨樹・巨木林 (全国版), 1991, 大蔵省印刷局
 2. 環境庁, 第4回自然環境保全基礎調査-日本の巨樹・巨木林 (各ブロック別 8分冊), 1991, 大蔵省印刷局
 3. 高知県呉川郡吾北村, ごほく樹と水物語, 1992, 吾北村教育委員会
 4. 季刊巨樹・巨木林 (会報 No. 1～16), 1994～2000, 全国巨樹・巨木林の会
 5. 巨樹の会, 平成6年度和賀山塊巨樹・巨木林調査報告書, 1995, 巨樹の会
 6. 増田廣樹, 木霊 増田廣樹写真集, 1998, 光村印刷株式会社
 7. 渡辺典博, 巨樹・巨木, 1999, 山と溪谷社
 8. 平岡忠夫, 巨樹探検, 1999, 講談社
 9. 御蔵島, みくらの森は生きている, 1999, 御蔵島村
 10. 牧野和春, 日本巨樹論, 2000, 惜水社
 11. 社団法人山梨県林業研究会, 山梨の巨樹・名木100選, 2001, 山梨日日新聞社
- 註) 前回調査報告書記載の参考文献は割愛した。

付 表

付表一 巨木の樹高（新規データ）

樹高（m） 区分	実測									目測									実測・目測 不明	合計
	単木		樹林		並木		無回答		実測小計	単木		樹林		並木		無回答		目測小計		
	件	%	件	%	件	%	件	%		件	%	件	%	件	%	件	%		件	件
10m以下	75	5.2%	9	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	84	280	6.5%	84	2.1%	27	13.4%	2	25.0%	393	5	482
10-19	539	37.7%	184	26.1%	5	13.5%	0	0.0%	728	1,630	38.0%	1,097	26.9%	53	26.2%	4	50.0%	2,784	7	3,519
20-29	597	41.7%	320	45.5%	18	48.6%	2	100.0%	937	1,758	41.0%	1,984	48.7%	65	32.2%	0	0.0%	3,807	5	4,749
30-39	185	12.9%	149	21.2%	11	29.7%	0	0.0%	345	486	11.3%	735	18.0%	41	20.3%	0	0.0%	1,262	1	1,608
40-49	29	2.0%	39	5.5%	2	5.4%	0	0.0%	70	76	1.8%	132	3.2%	12	5.9%	2	25.0%	222	0	292
50m以上	2	0.1%	3	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	21	0.5%	29	0.7%	1	0.5%	0	0.0%	51	0	56
無回答	4	0.3%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	5	36	0.8%	17	0.4%	3	1.5%	0	0.0%	56	805	866
合 計	1,431	100.0%	704	100.0%	37	100.0%	2	100.0%	2,174	4,287	100.0%	4,078	100.0%	202	100.0%	8	100.0%	8,575	823	11,572

付表二 樹種と樹齢との関係（新規データ）

樹齢 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
推定	89	97.8%	27	79.4%	630	82.8%	255	85.0%	207	84.1%	120	55.3%	128	81.5%	888	85.0%	1,167	85.0%	331	82.3%	31	88.6%	592	39.7%	1,409	81.8%
（内訳）a 99年以下	1	1.1%		0.0%	9	1.2%	2	0.7%	1	0.4%		0.0%		0.0%	15	1.4%	18	1.3%	32	8.0%		0.0%	5	0.3%	4	0.2%
b 100 - 199年	7	7.7%		0.0%	93	12.2%	48	16.0%	13	5.3%	9	4.1%	10	6.4%	146	14.0%	197	14.3%	68	16.9%	1	2.9%	37	2.5%	118	6.8%
c 200 - 299年	1	1.1%	2	5.9%	141	18.5%	66	22.0%	63	25.6%	18	8.3%	27	17.2%	182	17.4%	270	19.7%	36	9.0%	9	25.7%	124	8.3%	337	19.6%
d 300年以上	18	19.8%	16	47.1%	151	19.8%	63	21.0%	59	24.0%	40	18.4%	56	35.7%	278	26.6%	243	17.7%	62	15.4%	6	17.1%	122	8.2%	520	30.2%
e 不明	62	68.1%	9	26.5%	233	30.6%	74	24.7%	68	27.6%	53	24.4%	35	22.3%	264	25.3%	434	31.6%	133	33.1%	15	42.9%	300	20.1%	427	24.8%
伝承		0.0%	6	17.6%	50	6.6%	7	2.3%	10	4.1%	7	3.2%	17	10.8%	29	2.8%	34	2.5%	37	9.2%	2	5.7%	13	0.9%	73	4.2%
無回答	2	2.2%	1	2.9%	81	10.6%	38	12.7%	29	11.8%	90	41.5%	12	7.6%	128	12.2%	172	12.5%	34	8.5%	2	5.7%	885	59.4%	241	14.0%
合 計	91	100.0%	34	100.0%	761	100.0%	300	100.0%	246	100.0%	217	100.0%	157	100.0%	1,045	100.0%	1,373	100.0%	402	100.0%	35	100.0%	1,490	100.0%	1,723	100.0%

樹齢 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
推定	195	66.1%	33	34.0%	109	69.0%	36	92.3%	123	86.0%	88	33.5%	31	70.5%	184	83.6%	120	19.8%	201	72.6%	222	77.9%	916	72.2%
（内訳）a 99年以下	3	1.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2	1.4%		0.0%	1	2.3%	2	0.9%		0.0%	1	0.4%	5	1.8%	54	4.3%
b 100 - 199年	27	9.2%	3	3.1%	18	11.4%	9	23.1%	10	7.0%	10	3.8%	5	11.4%	31	14.1%	6	1.0%	31	11.2%	26	9.1%	146	11.5%
c 200 - 299年	36	12.2%	14	14.4%	28	17.7%	8	20.5%	21	14.7%	16	6.1%	5	11.4%	28	12.7%	15	2.5%	38	13.7%	73	25.6%	149	11.8%
d 300年以上	62	21.0%	10	10.3%	32	20.3%	8	20.5%	45	31.5%	19	7.2%	3	6.8%	58	26.4%	38	6.3%	68	24.5%	43	15.1%	211	16.6%
e 不明	66	22.4%	6	6.2%	28	17.7%	10	25.6%	43	30.1%	42	16.0%	17	38.6%	61	27.7%	61	10.1%	62	22.4%	75	26.3%	345	27.2%
伝承	7	2.4%	1	1.0%	5	3.2%	1	2.6%	3	2.1%	2	0.8%		0.0%	18	8.2%		0.0%	17	6.1%	6	2.1%	70	5.5%
無回答	93	31.5%	63	64.9%	44	27.8%	2	5.1%	17	11.9%	173	65.8%	13	29.5%	18	8.2%	485	80.2%	59	21.3%	57	20.0%	282	22.2%
合 計	295	100.0%	97	100.0%	158	100.0%	39	100.0%	143	100.0%	263	100.0%	44	100.0%	220	100.0%	605	100.0%	277	100.0%	285	100.0%	1,268	100.0%

* 樹種は我が国の代表的な24種及びその他に属したもの

付表―3 樹種と所有者との関係（新規データ）

所有者 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
国	11	12.1%	2	5.9%	12	1.6%	26	8.7%	4	1.6%	74	34.1%	1	0.6%	17	1.6%	60	4.3%	14	3.4%		0.0%	9	0.5%	56	3.2%
都道府県	2	2.2%	3	8.8%	1	0.1%	6	2.0%	3	1.2%	56	25.8%	2	1.3%	16	1.5%	34	2.5%	15	3.7%		0.0%	4	0.2%	6	0.3%
市町村	10	11.0%	5	14.7%	48	6.3%	31	10.3%	9	3.6%	10	4.6%	2	1.3%	67	6.4%	83	6.0%	66	16.2%	1	2.9%	456	25.3%	32	1.9%
その他公有	10	11.0%	5	14.7%	42	5.5%	18	6.0%	8	3.2%	7	3.2%	1	0.6%	30	2.9%	71	5.1%	26	6.4%	3	8.6%	10	0.6%	81	4.7%
社寺	10	11.0%	3	8.8%	529	69.3%	83	27.7%	181	73.0%	37	17.1%	74	47.1%	689	65.9%	578	41.9%	118	29.0%	23	65.7%	391	21.7%	1,296	75.1%
個人	44	48.4%	14	41.2%	97	12.7%	95	31.7%	37	14.9%	28	12.9%	73	46.5%	185	15.8%	448	32.5%	124	30.5%	7	20.0%	785	43.5%	187	10.8%
法人等		0.0%	1	2.9%	13	1.7%	9	3.0%	3	1.2%	4	1.8%	2	1.3%	46	4.4%	51	3.7%	29	7.1%		0.0%	13	0.7%	29	1.7%
不明	3	3.3%	1	2.9%	19	2.5%	29	9.7%	2	0.8%	1	0.5%	2	1.3%	15	1.4%	49	3.6%	13	3.2%	1	2.9%	117	6.5%	36	2.1%
無回答	1	1.1%		0.0%	2	0.3%	3	1.0%	1	0.4%		0.0%		0.0%	1	0.1%	6	0.4%	2	0.5%		0.0%	20	1.1%	3	0.2%
合 計	91	100.0%	34	100.0%	763	100.0%	300	100.0%	248	100.0%	217	100.0%	157	100.0%	1,046	100.0%	1,380	100.0%	407	100.0%	35	100.0%	1,805	100.0%	1,726	100.0%

所有者 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
国	7	2.4%	2	2.1%	28	17.7%	3	7.5%	6	4.2%	89	33.8%	2	4.3%	24	10.9%	217	35.9%	19	6.9%	4	1.4%	113	8.9%
都道府県	1	0.3%	63	64.9%	15	9.5%	2	5.0%	1	0.7%	131	49.8%		0.0%	7	3.2%	322	53.2%	6	2.2%	31	10.9%	173	13.6%
市町村	21	7.1%		0.0%	4	2.5%	16	40.0%	5	3.5%	4	1.5%	14	29.8%	22	10.0%	33	5.5%	17	6.1%	13	4.6%	151	11.8%
その他公有	6	2.0%		0.0%	7	4.4%	1	2.5%	4	2.8%	11	4.2%	1	2.1%	21	9.5%	9	1.5%	21	7.6%	11	3.9%	71	5.6%
社寺	144	48.5%	15	15.5%	36	22.6%	11	27.5%	104	72.2%	12	4.6%	15	31.9%	64	29.0%	9	1.5%	147	53.1%	161	56.5%	363	28.5%
個人	93	31.3%	5	5.2%	35	22.2%	3	7.5%	21	14.6%	8	3.0%	13	27.7%	62	28.1%	10	1.7%	55	19.9%	56	19.6%	326	25.6%
法人等	2	0.7%	12	12.4%	24	15.2%	3	7.5%	1	0.7%	7	2.7%		0.0%	9	4.1%	2	0.3%	3	1.1%	4	1.4%	38	3.0%
不明	19	6.4%		0.0%	9	5.7%	1	2.5%	2	1.4%		0.0%	1	2.1%	10	4.5%	3	0.5%	9	3.2%	5	1.8%	32	2.5%
無回答	4	1.3%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	0.4%	1	2.1%	2	0.9%		0.0%		0.0%		0.0%	8	0.6%
合 計	297	100.0%	97	100.0%	158	100.0%	40	100.0%	144	100.0%	263	100.0%	47	100.0%	221	100.0%	605	100.0%	277	100.0%	285	100.0%	1,275	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもの

付表―4 樹種と鳥類の生息との関係（新規データ）

鳥類の生息 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	77	84.6%	24	70.6%	538	70.7%	211	70.3%	155	63.0%	68	31.3%	110	70.1%	708	67.8%	887	64.6%	248	61.7%	32	91.4%	568	38.1%	1,134	65.8%
有り	1	1.1%		0.0%	26	3.4%	6	2.0%	12	4.9%	25	11.5%	1	0.6%	42	4.0%	27	2.0%	16	4.0%		0.0%	611	41.0%	30	1.7%
その他	11	12.1%	6	17.6%	89	11.7%	28	9.3%	42	17.1%	14	6.5%	21	13.4%	192	18.4%	212	15.4%	67	16.7%		0.0%	134	9.0%	195	11.3%
無回答	2	2.2%	4	11.8%	108	14.2%	55	18.3%	37	15.0%	110	50.7%	25	15.9%	103	9.9%	247	18.0%	71	17.7%	3	8.6%	177	11.9%	364	21.1%
合 計	91	100.0%	34	100.0%	761	100.0%	300	100.0%	246	100.0%	217	100.0%	157	100.0%	1,045	100.0%	1,373	100.0%	402	100.0%	35	100.0%	1,490	100.0%	1,723	100.0%

鳥類の生息 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	165	55.9%	24	24.7%	77	48.7%	31	79.5%	104	72.7%	60	22.8%	23	52.3%	146	66.4%	72	11.9%	161	58.1%	159	55.8%	688	54.3%
有り	10	3.4%	4	4.1%	10	6.3%		0.0%	4	2.8%	6	2.3%	17	38.6%	3	1.4%	28	4.6%	15	5.4%	6	2.1%	87	6.9%
その他	38	12.9%	5	5.2%	29	18.4%	6	15.4%	21	14.7%	18	6.8%	2	4.5%	28	12.7%	16	2.6%	47	17.0%	33	11.6%	168	13.2%
無回答	82	27.8%	64	66.0%	42	26.6%	2	5.1%	14	9.8%	179	68.1%	2	4.5%	43	19.5%	489	80.8%	54	19.5%	87	30.5%	325	25.6%
合 計	295	100.0%	97	100.0%	158	100.0%	39	100.0%	143	100.0%	263	100.0%	44	100.0%	220	100.0%	605	100.0%	277	100.0%	285	100.0%	1,268	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもの

付表―5 樹種と獣類の生息との関係（新規データ）

獣類の生息 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	68	74.7%	23	67.6%	572	75.2%	220	73.3%	166	67.5%	65	30.0%	113	72.0%	788	75.4%	931	67.8%	251	62.4%	31	88.6%	1,005	67.4%	1,127	65.4%
有り		0.0%	3	8.8%	8	1.1%	4	1.3%	5	2.0%	43	19.8%		0.0%	4	0.4%	22	1.6%	9	2.2%		0.0%	151	10.1%	45	2.6%
不明	10	11.0%	4	11.8%	72	9.5%	22	7.3%	38	15.4%	13	6.0%	19	12.1%	155	14.8%	163	11.9%	65	16.2%		0.0%	98	6.6%	182	10.6%
無回答	13	14.3%	4	11.8%	109	14.3%	54	18.0%	37	15.0%	96	44.2%	25	15.9%	98	9.4%	257	18.7%	77	19.2%	4	11.4%	236	15.8%	369	21.4%
合 計	91	100.0%	34	100.0%	761	100.0%	300	100.0%	246	100.0%	217	100.0%	157	100.0%	1,045	100.0%	1,373	100.0%	402	100.0%	35	100.0%	1,490	100.0%	1,723	100.0%

獣類の生息 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	172	58.3%	24	24.7%	75	47.5%	34	87.2%	105	73.4%	59	22.4%	33	75.0%	147	66.8%	62	10.2%	173	62.5%	160	56.1%	713	56.2%
有り	6	2.0%	4	4.1%	12	7.6%	1	2.6%	5	3.5%	20	7.6%	7	15.9%	1	0.5%	39	6.4%	3	1.1%	3	1.1%	74	5.8%
不明	35	11.9%	5	5.2%	27	17.1%	2	5.1%	18	12.6%	18	6.8%	2	4.5%	28	12.7%	14	2.3%	46	16.6%	35	12.3%	162	12.8%
無回答	82	27.8%	64	66.0%	44	27.8%	2	5.1%	15	10.5%	166	63.1%	2	4.5%	44	20.0%	490	81.0%	55	19.9%	87	30.5%	319	25.2%
合 計	295	100.0%	97	100.0%	158	100.0%	39	100.0%	143	100.0%	263	100.0%	44	100.0%	220	100.0%	605	100.0%	277	100.0%	285	100.0%	1,268	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもの

付表―6 樹種と着生植物との関係（新規データ）

着生植物等 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	46	50.5%	23	67.6%	485	63.7%	148	49.3%	100	40.7%	98	45.2%	96	61.1%	528	50.5%	912	66.4%	205	51.0%	29	82.9%	277	18.6%	1,087	63.1%
有り	43	47.3%	6	17.6%	162	21.3%	98	32.7%	112	45.5%	65	30.0%	40	25.5%	414	39.6%	234	17.0%	116	28.9%	3	8.6%	1,039	69.7%	288	16.7%
無回答	2	2.2%	5	14.7%	114	15.0%	54	18.0%	34	13.8%	54	24.9%	21	13.4%	103	9.9%	227	16.5%	81	20.1%	3	8.6%	174	11.7%	348	20.2%
合 計	91	100.0%	34	100.0%	761	100.0%	300	100.0%	246	100.0%	217	100.0%	157	100.0%	1,045	100.0%	1,373	100.0%	402	100.0%	35	100.0%	1,490	100.0%	1,723	100.0%

着生植物等 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	94	31.9%	22	22.7%	65	41.1%	24	61.5%	101	70.6%	54	20.5%	12	27.3%	140	63.6%	130	21.5%	113	40.8%	145	50.9%	637	50.2%
有り	123	41.7%	64	66.0%	69	43.7%	13	33.3%	32	22.4%	95	36.1%	30	68.2%	40	18.2%	197	32.6%	102	36.8%	71	24.9%	417	32.9%
無回答	78	26.4%	11	11.3%	24	15.2%	2	5.1%	10	7.0%	114	43.3%	2	4.5%	40	18.2%	278	46.0%	62	22.4%	69	24.2%	214	16.9%
合 計	295	100.0%	97	100.0%	158	100.0%	39	100.0%	143	100.0%	263	100.0%	44	100.0%	220	100.0%	605	100.0%	277	100.0%	285	100.0%	1,268	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもの

付表－7 樹種と健全度との関係

未更新・更新・新規データの合計

健全度 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
良	237	82.0%	137	61.7%	3,971	81.6%	1,101	75.2%	1,261	69.2%	482	67.6%	768	78.2%	4,837	81.4%	7,257	76.8%	704	51.5%	192	70.6%	3,220	62.5%	11,618	78.1%
不良	49	17.0%	79	35.6%	700	14.4%	292	19.9%	433	23.8%	175	24.5%	192	19.6%	887	14.9%	1,845	19.5%	598	43.7%	64	23.5%	1,693	32.8%	2,217	14.9%
不明	3	1.0%	6	2.7%	194	4.0%	72	4.9%	128	7.0%	56	7.9%	22	2.2%	217	3.7%	351	3.7%	65	4.8%	16	5.9%	242	4.7%	1,035	7.0%
合計	289	100.0%	222	100.0%	4,865	100.0%	1,465	100.0%	1,822	100.0%	713	100.0%	982	100.0%	5,941	100.0%	9,453	100.0%	1,367	100.0%	272	100.0%	5,155	100.0%	14,870	100.0%

健全度 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
良	1,488	70.0%	270	80.1%	575	72.3%	165	50.6%	684	81.0%	558	72.3%	175	77.1%	1,400	76.5%	827	65.7%	1,171	71.0%	1,365	81.5%	3,578	68.6%
不良	533	25.1%	41	12.2%	150	18.9%	109	33.4%	129	15.3%	136	17.6%	42	18.5%	339	18.5%	270	21.4%	390	23.7%	219	13.1%	1,311	25.1%
不明	104	4.9%	26	7.7%	70	8.8%	52	16.0%	31	3.7%	78	10.1%	10	4.4%	91	5.0%	162	12.9%	88	5.3%	91	5.4%	325	6.2%
合計	2,125	100.0%	337	100.0%	795	100.0%	326	100.0%	844	100.0%	772	100.0%	227	100.0%	1,830	100.0%	1,259	100.0%	1,649	100.0%	1,675	100.0%	5,214	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもの

付表－8 樹種と信仰対象との関係

未更新・更新・新規データの合計

信仰対象 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	252	84.3%	143	63.0%	3,343	67.5%	1,077	71.7%	1,076	57.4%	479	66.3%	709	70.8%	3,968	64.4%	6,708	69.6%	1,031	74.4%	164	58.6%	2,983	56.1%	7,969	51.3%
信仰あり	34	11.4%	52	22.9%	974	19.7%	237	15.8%	455	24.3%	119	16.5%	161	16.1%	1,392	22.6%	1,595	16.6%	171	12.3%	73	26.1%	1502	28.2%	4,571	29.4%
タブーあり	3	1.0%	0	0.0%	38	0.8%	19	1.3%	16	0.9%	5	0.7%	20	2.0%	40	0.6%	56	0.6%	15	1.1%	0	0.0%	102	1.9%	241	1.6%
祭事あり	5	1.7%	8	3.5%	57	1.2%	23	1.5%	41	2.2%	7	1.0%	12	1.2%	168	2.7%	134	1.4%	17	1.2%	8	2.9%	58	1.1%	507	3.3%
不明	2	0.7%	14	6.2%	315	6.4%	74	4.9%	100	5.3%	19	2.6%	62	6.2%	244	4.0%	551	5.7%	60	4.3%	17	6.1%	282	5.3%	625	4.0%
無回答	3	1.0%	10	4.4%	225	4.5%	73	4.9%	186	9.9%	94	13.0%	38	3.8%	347	5.6%	592	6.1%	91	6.6%	18	6.4%	394	7.4%	1,629	10.5%
合計	299	100.0%	227	100.0%	4,952	100.0%	1,503	100.0%	1,874	100.0%	723	100.0%	1,002	100.0%	6,159	100.0%	9,636	100.0%	1,385	100.0%	280	100.0%	5,321	100.0%	15,542	100.0%

信仰対象 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	1,384	62.8%	268	79.3%	573	70.6%	234	71.6%	506	57.2%	621	80.2%	166	71.6%	1,345	71.4%	923	72.9%	1,134	66.5%	1,149	67.3%	3,808	70.7%
信仰あり	479	21.7%	21	6.2%	105	12.9%	29	8.9%	243	27.5%	24	3.1%	42	18.1%	290	15.4%	40	3.2%	320	18.8%	294	17.2%	759	14.1%
タブーあり	25	1.1%	4	1.2%	13	1.6%	1	0.3%	11	1.2%	2	0.3%	1	0.4%	16	0.8%	3	0.2%	25	1.5%	13	0.8%	82	1.5%
祭事あり	52	2.4%	0	0.0%	8	1.0%	1	0.3%	28	3.2%	1	0.1%	3	1.3%	40	2.1%	3	0.2%	36	2.1%	25	1.5%	110	2.0%
不明	111	5.0%	13	3.8%	29	3.6%	6	1.8%	39	4.4%	3	0.4%	8	3.4%	78	4.1%	6	0.5%	75	4.4%	66	3.9%	187	3.5%
無回答	153	6.9%	32	9.5%	84	10.3%	56	17.1%	57	6.4%	123	15.9%	12	5.2%	114	6.1%	291	23.0%	116	6.8%	161	9.4%	440	8.2%
合計	2,204	100.0%	338	100.0%	812	100.0%	327	100.0%	884	100.0%	774	100.0%	232	100.0%	1,883	100.0%	1,266	100.0%	1,706	100.0%	1,708	100.0%	5,386	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に集約したもの

付表―9 独特の呼称・名称のある樹種

未更新・更新・新規データの合計

独特の呼称 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	235	81.3%	119	53.6%	3,872	79.6%	1,195	81.7%	1,445	79.1%	490	68.7%	703	71.6%	4,907	82.6%	7,881	83.4%	801	58.6%	181	66.5%	3,488	67.7%	10,939	73.6%
有り	46	15.9%	99	44.6%	685	14.1%	181	12.4%	204	11.2%	171	24.0%	230	23.4%	612	10.3%	940	9.9%	518	37.9%	62	22.8%	1,172	22.8%	2,562	17.2%
不明	6	2.1%	2	0.9%	222	4.6%	74	5.1%	77	4.2%	14	2.0%	37	3.8%	290	4.9%	439	4.6%	36	2.6%	22	8.1%	372	7.2%	568	3.8%
無回答	2	0.7%	2	0.9%	86	1.8%	13	0.9%	96	5.3%	38	5.3%	12	1.2%	132	2.2%	193	2.0%	13	1.0%	7	2.6%	123	2.4%	801	5.4%
合 計	289	100.0%	222	100.0%	4,865	100.0%	1,463	100.0%	1,827	100.0%	713	100.0%	982	100.0%	5,941	100.0%	9,453	100.0%	1,368	100.0%	272	100.0%	5,150	100.0%	14,870	100.0%

独特の呼称 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	1,799	84.7%	282	83.7%	545	68.6%	217	66.6%	671	79.5%	642	83.2%	185	81.5%	1,152	62.9%	1,035	82.2%	1,375	83.1%	1,328	79.3%	3,849	73.8%
有り	190	8.9%	28	8.3%	174	21.9%	57	17.5%	123	14.6%	73	9.5%	25	11.0%	567	30.9%	105	8.3%	172	10.4%	213	12.7%	1,050	20.1%
不明	90	4.2%	7	2.1%	25	3.1%	2	0.6%	34	4.0%	5	0.6%	10	4.4%	56	3.1%	11	0.9%	78	4.7%	70	4.2%	161	3.1%
無回答	46	2.2%	20	5.9%	51	6.4%	50	15.3%	16	1.9%	52	6.7%	7	3.1%	55	3.0%	108	8.6%	27	1.6%	64	3.8%	154	3.0%
合 計	2,125	100.0%	337	100.0%	795	100.0%	326	100.0%	844	100.0%	772	100.0%	227	100.0%	1,832	100.0%	1,259	100.0%	1,654	100.0%	1,675	100.0%	5,214	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に属したもの

付表―10 樹種と保護制度指定の有無との関係

更新・新規データの合計

保護制度有無 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	105	61.4%	51	43.6%	1,615	54.0%	514	60.8%	493	53.9%	173	36.0%	263	45.0%	1,965	51.2%	3,311	59.5%	401	45.2%	101	63.1%	1,491	44.9%	4,672	61.8%
有り	63	36.8%	62	53.0%	1,266	42.3%	280	33.1%	393	43.0%	284	59.2%	302	51.6%	1,778	46.3%	2,050	36.8%	422	47.6%	55	34.4%	1,741	52.5%	2,675	35.4%
天然記念物等	25	14.6%	41	35.0%	418	14.0%	79	9.3%	190	20.8%	67	14.0%	185	31.6%	548	14.3%	546	9.8%	243	27.4%	25	15.6%	298	9.0%	1,292	17.1%
自然公園	9	5.3%	2	1.7%	62	2.1%	15	1.8%	65	7.1%	164	34.2%	20	3.4%	115	3.0%	180	3.2%	50	5.6%	2	1.3%	966	29.1%	609	8.1%
自然環境保全地域	0	0.0%	1	0.9%	14	0.5%	2	0.2%	16	1.7%	6	1.3%	2	0.3%	2	0.1%	41	0.7%	4	0.5%	3	1.9%	78	2.4%	253	3.3%
保安林・学習参考保護樹	4	2.3%	2	1.7%	15	0.5%	5	0.6%	21	2.3%	40	8.3%	4	0.7%	30	0.8%	36	0.6%	13	1.5%	9	5.6%	46	1.4%	214	2.8%
都市公園	1	0.6%	0	0.0%	43	1.4%	23	2.7%	10	1.1%	1	0.2%	0	0.0%	131	3.4%	96	1.7%	23	2.6%	1	0.6%	34	1.0%	31	0.4%
風致地区等	1	0.6%	1	0.9%	217	7.3%	70	8.3%	55	6.0%	21	4.4%	23	3.9%	448	11.7%	343	6.2%	36	4.1%	3	1.9%	153	4.6%	188	2.5%
その他制度	28	16.4%	18	15.4%	584	19.5%	108	12.8%	92	10.1%	37	7.7%	90	15.4%	716	18.6%	950	17.1%	105	11.8%	16	10.0%	329	9.9%	551	7.3%
不明	2	1.2%	0	0.0%	17	0.6%	5	0.6%	8	0.9%	0	0.0%	8	1.4%	15	0.4%	34	0.6%	6	0.7%	0	0.0%	22	0.7%	111	1.5%
無回答	3	1.8%	4	3.4%	111	3.7%	49	5.8%	29	3.2%	23	4.8%	20	3.4%	97	2.5%	207	3.7%	64	7.2%	4	2.5%	87	2.6%	211	2.8%
合計	171	100.0%	117	100.0%	2,992	100.0%	845	100.0%	915	100.0%	480	100.0%	585	100.0%	3,840	100.0%	5,568	100.0%	887	100.0%	180	100.0%	3,319	100.0%	7,558	100.0%

保護制度有無 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	726	61.8%	74	39.2%	187	45.8%	67	36.0%	306	64.6%	73	14.4%	60	47.6%	474	52.5%	83	9.9%	531	53.8%	499	54.5%	1,348	43.4%
有り	403	34.3%	111	58.7%	217	53.2%	108	58.1%	162	34.2%	424	83.5%	64	50.8%	402	44.6%	743	88.5%	410	41.5%	368	40.2%	1,610	51.8%
天然記念物等	135	11.5%	6	3.2%	68	16.7%	12	6.5%	76	16.0%	13	2.6%	23	18.3%	154	17.1%	11	1.3%	128	13.0%	123	13.4%	623	20.1%
自然公園	67	5.7%	86	45.5%	114	27.9%	9	4.8%	37	7.8%	351	69.1%	22	17.5%	82	9.1%	617	73.5%	18	1.8%	127	13.9%	438	14.1%
自然環境保全地域	10	0.9%	9	4.8%	6	1.5%	10	5.4%	2	0.4%	11	2.2%	1	0.8%	8	0.9%	3	0.4%	1	0.1%	20	2.2%	32	1.0%
保安林・学習参考保護樹	36	3.1%	10	5.3%	44	10.8%	14	7.5%	13	2.7%	62	12.2%	6	4.8%	44	4.9%	50	6.0%	12	1.2%	54	5.9%	127	4.1%
都市公園	42	3.6%	1	0.5%	2	0.5%	13	7.0%	0	0.0%	1	0.2%	2	1.6%	24	2.7%	25	3.0%	23	2.3%	8	0.9%	98	3.2%
風致地区等	50	4.3%	3	1.6%	6	1.5%	20	10.8%	14	3.0%	5	1.0%	4	3.2%	49	5.4%	7	0.8%	85	8.6%	45	4.9%	162	5.2%
その他制度	134	11.4%	9	4.8%	15	3.7%	36	19.4%	45	9.5%	27	5.3%	12	9.5%	121	13.4%	61	7.3%	178	18.0%	70	7.6%	299	9.6%
不明	2	0.2%	1	0.5%	2	0.5%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.4%	0	0.0%	9	0.9%	7	0.8%	12	0.4%
無回答	46	3.9%	4	2.1%	4	1.0%	11	5.9%	6	1.3%	11	2.2%	2	1.6%	26	2.9%	14	1.7%	46	4.7%	49	5.3%	149	4.8%
合計	1,175	100.0%	189	100.0%	408	100.0%	186	100.0%	474	100.0%	508	100.0%	126	100.0%	902	100.0%	840	100.0%	987	100.0%	916	100.0%	3,107	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に属したもの

付表―11 樹種と特記事項との関係

更新・新植データの合計

特記事項 区分	アコウ		イチイ		イチヨウ		エノキ		カシ		カツラ		カヤ		クスノキ		ケヤキ		サクラ		サワラ		シイ		スギ	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	152	88.9%	66	56.4%	1,900	63.5%	562	66.5%	653	71.4%	343	71.5%	391	66.8%	2,614	68.1%	3,593	64.5%	470	53.0%	86	53.8%	2,508	75.6%	4,886	64.6%
有り	14	8.2%	44	37.6%	878	29.3%	207	24.5%	210	23.0%	80	16.7%	166	28.4%	1,069	27.8%	1,649	29.6%	312	35.2%	69	43.1%	632	19.0%	2,335	30.9%
保護欄設置	0	0.0%	10	8.5%	184	6.1%	28	3.3%	39	4.3%	18	3.8%	45	7.7%	307	8.0%	194	3.5%	75	8.5%	7	4.4%	90	2.7%	360	4.8%
遊歩針設置	0	0.0%	0	0.0%	4	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	4	0.7%	4	0.1%	6	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	31	0.4%
支柱設置	2	1.2%	7	6.0%	24	0.8%	8	0.9%	14	1.5%	2	0.4%	4	0.7%	25	0.7%	40	0.7%	71	8.0%	11	6.9%	21	0.6%	39	0.5%
薬剤散布・施肥	7	4.1%	6	5.1%	62	2.1%	11	1.3%	12	1.3%	2	0.4%	12	2.1%	114	3.0%	67	1.2%	89	10.0%	0	0.0%	12	0.4%	68	0.9%
定期的な下刈り・清掃	9	5.3%	28	23.9%	566	18.9%	154	18.2%	150	16.4%	41	8.5%	116	19.8%	578	15.1%	1,260	22.6%	200	22.5%	57	35.6%	481	14.5%	1,879	24.9%
枯損部削除・枝下ろし	7	4.1%	9	7.7%	287	9.6%	68	8.0%	49	5.4%	27	5.6%	57	9.7%	365	9.5%	650	11.7%	137	15.4%	30	18.8%	225	6.8%	514	6.8%
刈取運動	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	3	0.0%
その他	1	0.6%	6	5.1%	45	1.5%	18	2.1%	26	2.8%	17	3.5%	5	0.9%	92	2.4%	51	0.9%	25	2.8%	7	4.4%	29	0.9%	123	1.6%
無回答	5	2.9%	7	6.0%	214	7.2%	76	9.0%	52	5.7%	57	11.9%	28	4.8%	157	4.1%	326	5.9%	105	11.8%	5	3.1%	179	5.4%	337	4.5%
合計	171	100.0%	117	100.0%	2,992	100.0%	845	100.0%	915	100.0%	480	100.0%	585	100.0%	3,840	100.0%	5,568	100.0%	887	100.0%	160	100.0%	3,318	100.0%	7,558	100.0%

特記事項 区分	タブノキ		ツガ		トチノキ		ニレ		ヒノキ		ブナ		ホルトノキ		マツ		ミズナラ		ムクノキ		モミ		その他	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
無し	849	72.3%	161	85.2%	330	80.9%	90	48.4%	346	73.0%	407	80.1%	105	83.3%	501	55.5%	588	70.0%	679	68.8%	640	69.9%	1,981	63.1%
有り	249	21.2%	17	9.0%	52	12.7%	69	37.1%	106	22.4%	29	5.7%	18	14.3%	356	39.5%	45	5.4%	221	22.4%	198	21.6%	842	27.1%
保護欄設置	28	2.4%	4	2.1%	10	2.5%	7	3.8%	13	2.7%	5	1.0%	4	3.2%	53	5.9%	10	1.2%	43	4.4%	18	2.0%	185	6.0%
遊歩針設置	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	2	0.1%
支柱設置	4	0.3%	0	0.0%	3	0.7%	1	0.5%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	68	7.5%	1	0.1%	8	0.8%	4	0.4%	79	2.5%
薬剤散布・施肥	7	0.6%	0	0.0%	1	0.2%	3	1.6%	4	0.8%	0	0.0%	2	1.6%	145	16.1%	0	0.0%	23	2.3%	11	1.2%	86	2.8%
定期的な下刈り・清掃	193	16.4%	13	6.9%	34	8.3%	52	28.0%	89	18.8%	13	2.6%	7	5.6%	202	22.4%	40	4.8%	130	13.2%	166	18.1%	561	18.1%
枯損部削除・枝下ろし	75	6.4%	0	0.0%	6	1.5%	39	21.0%	22	4.6%	1	0.2%	13	10.3%	112	12.4%	23	2.7%	85	8.6%	45	4.9%	268	8.6%
刈取運動	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
その他	11	0.9%	0	0.0%	5	1.2%	2	1.1%	1	0.2%	12	2.4%	1	0.8%	26	2.9%	0	0.0%	28	2.8%	3	0.3%	73	2.3%
無回答	77	6.6%	11	5.8%	26	6.4%	27	14.5%	22	4.6%	72	14.2%	3	2.4%	45	5.0%	207	24.6%	87	8.8%	78	8.5%	304	9.8%
合計	1,175	100.0%	189	100.0%	408	100.0%	186	100.0%	474	100.0%	508	100.0%	126	100.0%	902	100.0%	840	100.0%	987	100.0%	916	100.0%	3,107	100.0%

*樹種は我が国の代表的な24種及びその他に属したもの

付表―12 年別・枯死・伐採・消失した巨木本数

(単位:本)

年	1984	1986	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	年不明	合計
枯死等	1	1	6	7	13	53	20	15	18	12	12	33	38	29	14	1,388	1,660

付表—1 3 胸高直径別人文的項目（新規データ）

信仰対象 胸高直径(m)	無し		有り		不明		無回答		合計	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
～0.9	1,725	23.7%	424	18.2%	100	23.5%	366	24.1%	2,125	18.4%
1-1.9	5,151	70.6%	1,601	68.6%	308	72.3%	1,097	72.2%	8,325	71.9%
2-2.9	353	4.8%	264	11.3%	15	3.5%	43	2.8%	925	8.0%
3-3.9	42	0.6%	29	1.2%	2	0.5%	9	0.6%	132	1.1%
4-4.9	7	0.1%	9	0.4%		0.0%		0.0%	30	0.3%
5m以上	7	0.1%	4	0.2%		0.0%	2	0.1%	21	0.2%
無回答	8	0.1%	2	0.1%	1	0.2%	3	0.2%	14	0.1%
合計	7,293	100.0%	2,333	100.0%	426	100.0%	1,520	100.0%	11,572	100.0%

独特の呼称 胸高直径(m)	無し		有り		不明		無回答		合計	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
～0.9	2,081	24.6%	454	16.6%	79	22.1%	1	10.0%	2,125	18.4%
1-1.9	6,055	71.5%	1,831	66.9%	264	73.7%	7	70.0%	8,325	71.9%
2-2.9	287	3.4%	373	13.6%	14	3.9%	1	10.0%	925	8.0%
3-3.9	27	0.3%	53	1.9%	1	0.3%	1	10.0%	132	1.1%
4-4.9	2	0.0%	14	0.5%		0.0%		0.0%	30	0.3%
5m以上	5	0.1%	8	0.3%		0.0%		0.0%	21	0.2%
無回答	11	0.1%	3	0.1%		0.0%		0.0%	14	0.1%
合計	8,468	100.0%	2,736	100.0%	358	100.0%	10	100.0%	11,572	100.0%

故事伝承 胸高直径(m)	無し		有り		不明		無回答		合計	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
～0.9	1,854	22.8%	87	17.1%	309	21.9%	365	23.9%	2,125	18.4%
1-1.9	5,720	70.4%	350	68.8%	992	70.4%	1,095	71.7%	8,325	71.9%
2-2.9	481	5.9%	46	9.0%	94	6.7%	54	3.5%	925	8.0%
3-3.9	48	0.6%	16	3.1%	10	0.7%	8	0.5%	132	1.1%
4-4.9	9	0.1%	5	1.0%	2	0.1%		0.0%	30	0.3%
5m以上	6	0.1%	3	0.6%	1	0.1%	3	0.2%	21	0.2%
無回答	9	0.1%	2	0.4%	1	0.1%	2	0.1%	14	0.1%
合計	8,127	100.0%	509	100.0%	1,409	100.0%	1,527	100.0%	11,572	100.0%

資 料

- 1.巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票の記入方法
- 2.追跡調査票（見本）
- 3.巨樹・巨木林フォローアップ調査 巨樹・巨木林調査票の記入方法
- 4.巨樹・巨木林調査票【新規調査票】
- 5.巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票（一般）記入方法
- 6.巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票（一般）【記入例】
- 7.巨樹計測講習会のお知らせ
- 8.巨樹・巨木林計測マニュアル“大きな木が待っている！”

巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票の記入方法

お送りした調査票に記載された巨樹・巨木林は、昭和 63 年に環境庁の巨樹・巨木林調査で調査されたものです。これらについて記載事項の変更があった場合（所在の名称が変更になった等）と前回調査で記載がされていない「空白欄」について以下の要領で記入をお願いいたします。

なお、約 10 年ぶりに行われる追跡調査ですので、可能な限り記入漏れがない様をお願い申し上げます。

管理用コード

電算処理のために作成されたコードです。

3次メッシュコード

前回の調査において、所在情報が未記入であったため、お送りした調査票の所在欄が空白の巨樹・巨木林が存在します。追跡調査をされる上で手がかりとしていただくために、標準メッシュの3次メッシュコードを記載しています。

調査の有無

今回、調査を行ったかの有無を以下のコードで記入してください。

コード	区分
1	調査を行った
2	調査対象木を探したが、見つけることができなかった
3	調査を行わなかった

対象区分

以下のコードを記入してください。

コード	区分
1	単木
2	樹林
3	並木

1.単木

調査対象基準に該当する樹木(巨樹)が単体で生育しているもの。(巨樹の周囲には他に樹木が生育していない場合)

2.樹林

調査対象基準以上の樹木及び樹木が複数生育しており、面的な広がりをもつもの(巨木林)。ただし巨樹が林内に生育している場合であっても、巨樹周囲の樹木が調査対象基準以下である場合は単木とする。

なお、社叢林等比較的小規模の巨木林の場合には、便宜上、巨樹の生育していない区画も含めて樹林全体を「巨木林」とする。但し、山岳地等の比較的大きな樹林の

場合には、このうち巨樹が生育している範囲のみを「巨木林」とする。

3.並木

調査対象基準以上の樹木及びこれに準ずる樹木が複数生育しているもののうち、線的な配置になっているもの。

所在

調査対象木が生育している施設の名称とを可能な限り詳細に記入してください。

また、可能ならばその住所（町名と丁目）を記載してください。

現在巨樹・巨木林の名称記載がされている場合は、住所の記載をお願いします。

例：〇〇小学校

〇〇区×××町◇丁目

所有者

調査対象を管理している団体を以下のコードで記入してください。

コード	区分
1	国
2	都道府県
3	市町村
4	その他公有
5	寺社
6	個人
7	法人等
8	不明

種名

調査対象の種名 現在「不明」と記載されているもの、または明らかに記載が間違っているものについて記入をお願いします。

記入にあたっては、巨樹・巨木林調査マニュアルを参照してください。

健全度

調査対象の生育状況を以下のコードより記入してください。

コード	区分	
1	枯死寸前	枯死寸前の状態である。
2	一部枯損	枝先等の一部に枯損が見られる。
3	病虫害	病虫害等の症状が表われている。
4	異常落葉	落葉樹で秋期の通常の落葉時期以外にも落葉したり、常緑樹で芽ぶき時期の落葉の量が異常に多いなど、異常落葉が見られる。
5	その他	
6	枯死	枯死している場合。
7	良	上記以外の場合。

幹周

計測値を c m単位で記入してください。

計測方法は巨樹・巨木林調査マニュアルを参照してください。

主幹

計測値を c m単位で記入してください。

計測方法は巨樹・巨木林調査マニュアルを参照してください。

株立

株立の本数を記入してください。

巨樹・巨木林調査マニュアルを参照してください。

独特の呼称

独特の呼称がある場合には以下のコードとともに記入してください。

コード	区分
1	無し
2	有り 単木の場合は「A:○○○○○」 樹林の場合は「B:○○○○○」
3	不明

保護制度単木・樹林

以下のコードを記入してください。

コード	区分
1	特に保護制度の指定がない場合
2	天然記念物等 「文化財保護法」又は「文化財保護条例」による天然記念物、名勝等。 指定者により「a.国」「b.都道府県」「c.市町村」に区分する。
3	自然公園 「自然公園法」又は「自然公園条例」による自然公園。 種類により「a.国立公園」「b.国定公園」「c.都道府県立自然公園」に区分する。
4	自然環境保全地域 「自然環境保全法」又は「自然保護条例」等による自然環境保全地域、緑地環境保全地域等。指定者により「a.国」「b.都道府県」に区分する。
5	保安林・学術参考保護林等 「森林法」又は森林計画等による保安林、学術参考保護林、自然休養林等。
6	都市公園 「都市公園法」による公園又は緑地。設置者により、「a.国営」「b.都道府県」「c.市町村」に区分する。
7	風致地区・緑地保全地区・都市の美観風致を維持するための保存樹木等 「都市計画法」「都市緑地保全法」又は「都市の美観風致を維持するために樹木の保全に関する法律」による風致地区、緑地保全地区、保存樹木、保存樹林等。

8 その他制度

上記以外の法律、その他地方公共団体独自の制度による保存木等。

この場合、制度の名称、設置者（a.国 b.都道府県 c.市町村の区分）のほか制度内容についても調べ、制度内容は「a.指定のみ」「b.買上げのみ」「c.補助・助成あり」「d.その他」「e.不明」の区分から選んで記入してください。制度の名称は記入欄下の空白部にお書き添えください。

例：国立公園の場合 自然公園を示すコード「3」とその種類を示すコード「a」を「3 a」と連続して記入してください。

特記事項

調査対象について特別な保護対策が講じられている場合は、以下のコードを記入してください。

コード	区分
1	無
2	保護柵設置
3	避雷針設置
4	支柱設置
5	薬剤散布・施肥
6	定期的な下刈り・清掃
7	枯損部の削除、枝下ろし
8	買取り運動
9	その他

複数の事項がある場合は、続けて記入してください。

例：保護柵設置（コード「2」）と支柱設置（コード「4」）がある場合「2 4」と連続して記入してください。

巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票

資料 2

管理用 コード	3次 メッシュ コード	調査の有無	対象区分	所在	所有者	種名	健全度	幹周 (cm)	主周 (cm)	株立 (本)	独特の呼称		保護制度		特記事項
											有無	名称	単木	樹林	
住所記入欄:															
住所記入欄:															
住所記入欄:															
住所記入欄:															
住所記入欄:															
住所記入欄:															
住所記入欄:															

巨樹・巨木林フォローアップ調査

巨樹・巨木林調査票の記入方法

昭和63年環境庁の巨樹・巨木林調査以降に、発見・調査された巨樹・巨木林データを、同封の調査票に記入をお願いいたします。

「巨樹・巨木林計測マニュアル」をあわせて参照し、出来るだけ記入漏れのないようにお願い申し上げます。

<はじめに>

○調査の項目には、基礎的項目・保護の項目・生態的項目・人文的項目・その他の項目とあります。可能な限りの項目を記入してください。

○特に、太枠の中の項目に空欄があると、新規データとして登録できませんので、この中はかならずすべての項目を記入して下さい。

○調査内容をよく読み、調査結果を回答内容欄の（ ）に記入、または該当番号、記号に○をつけて下さい。回答欄右側の回答番号欄にも記入漏れがないようにして下さい。

○表面に書ききれない場合は、調査票の裏面を使って下さい。

<調査対象基準>

この基準にあてはまるものを以下「巨樹」「巨木林」とします。

○地上から約130cmの位置での幹周が300cm以上の樹木（巨樹）、またはこれらが生育している樹林・並木等（巨木林）。

○地上から約130cmの位置で幹が複数に分かれている樹木の場合には、個々の幹の幹周の合計が300cm以上であり、そのうちの一番太い幹（主幹）の幹周が200cm以上のもの

○今回の調査では、樹種により幹周3m以下でも調査対象と考えます。詳細は巨樹・巨木林計測マニュアルをご覧ください。

<調査内容>

- ・コード番号は記入の必要はありません。
- ・調査日、調査者名、所属を書いて下さい。

単木・樹林の別

次を参考に選び、樹林は面積を、並木は延長（長さ）等を記入してください。

1. 単木

巨樹の周囲に他に樹木が生育していないとき。または、巨樹が林内に生育していても、周囲の樹木が調査対象基準以下であるとき。

2. 樹林

巨樹とこれに準ずる樹木が複数生育していて、面的な広がりを持つもの（巨木林）。なお、社叢林等比較的小規模な場合には、便宜上、巨樹の生育していない区画も含めて樹林全体を「巨木林」とします。但し、山岳地等の比較的大きな樹林の場合には、このうち巨樹及び準ずる樹木が生育している範囲のみを「巨木林」とするが、便宜上、この外周線は地形、土地所有、林班などに着目したものでよいとし、面積はこの範囲内を算定するものとします。

3. 並木

巨樹とこれに準ずる樹木が複数生育しているもののうち、線的なもの。延長はその両端に位置するものの距離とします。

独特の呼称・名称

巨樹の場合と巨木林の場合とに分けて、それぞれその呼称を調べ、○○○松、○○○○の森のように記入してください。

巨木（林）の位置

巨樹・巨木林が所在する市町村名、番地や社寺・学校の敷地内にあるときはその名称、字などの通称名も含め、出来るだけ詳しく記入します。

また、できましたら、管内図、もしくは縮尺5万分の1か2万5千分の1の地形図に、調査した巨樹・巨木林の位置を記入した「巨樹巨木林分布図」（分布図）を、あわせて提出してください。

林（並木）内の巨樹本数

調査の対象が巨木林の場合には巨樹本数を実測または推定により調べてください。

所有者（管理者）

所有者または管理者を調べてください。

巨木測定値

巨樹、または巨木林のうち代表的なものについて、以下の項目を調べてください。

1. 樹種名・樹種コード

樹種は図鑑で使われている和名を調べてください。

樹種コードは記入の必要はありません。

2. 幹周

計測方法については巨樹・巨木林計測マニュアルをご参照ください。

3. 株立状況

幹周を計測する位置での株立の本数を調べます。なお、5本以上の株立ちは、調査票にはすべて5と記入して下さい。詳細については巨樹・巨木林計測マニュアルをご参照ください。

4. 樹高

樹高をメートル単位で計測します。実測が困難なときは、目測でも良いものとします。

5. 枝張

樹幹の広がり、を、東西方向及び南北方向にそれぞれの水平距離について測定します。実測が困難な場合には、目測でよいとします。

樹齢（林齢）

巨樹なら樹齢を、巨木林なら全体の林齢を、推定または伝承により調べてください。

*巨樹の樹齢が推定1000年のとき、回答番号欄に「1 d」と記入します。

巨木（林）の健全度

樹勢が悪いと判断したときは、選択肢の中から原因を選んでください。なお、巨木林全体についての把握が困難な場合には、幹周等の測定樹木周囲の状況でよいものとします。

*落葉樹で秋季の落葉時期でないときまたは常緑樹で芽吹き時期に、落葉の量が異常に多い場合などは、回答番号欄に「2 d」と記入します。

欠損状況

選択肢の中から、それぞれ該当する欠損の状況及び原因を選んでください。

巨木林全体についての把握が困難な場合には、幹周等の測定樹木周囲の状況でもよいものとします。

計測位置

計測した巨樹の樹形（立ち姿）を簡単に絵で記録してください。または、写真を添えてください。このとき、計測位置が後の調査で確認出来るように、破線などで書き入れてください。計測位置の高

さが基本の測り方と異なる場合は、その位置の数値も記録します。詳細は巨樹・巨木林計測マニュアルを参照下さい。

保護制度指定

巨樹が各種保護制度に指定されている場合には、その制度と指定者を調べ、選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。巨木林全体が指定されていて、さらにその中に特定の巨樹が指定されている場合には、それぞれについて調べてください。

選択肢の中の制度については、下記を参考にしてください。

- ・天然記念物等（「文化財保護法」または「文化財保護条例」による天然記念物、名称等）
- ・自然公園（「自然公園法」または「自然公園条例」による自然公園）
- ・自然環境保全地域（「自然環境保全法」または「自然保護条例」等による自然環境保全地域、緑地環境保全地域等）
- ・保安林・学術参考保護林等（「森林法」または森林計画等による保安林、学術参考保護林、自然休養林等）
- ・都市公園（「都市公園法」による公園又は緑地）
- ・風致地区・緑地保全地区・都市の美観風致を維持するための保存樹木等（「都市公園法」「都市緑地保全法」又は「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律」による風致地区、緑地保全地区、保存樹木、保存樹林等）
- ・その他の制度（上記以外の法律、その他地方公共団体独自の制度による保存木等。この場合、出来れば制度の名称、設置者、内容について調べてください）

*単木は○、樹林は◎でマーキングします。巨木林全体が都道府県其自然公園であり、その中に生育している巨樹が国天然記念物に指定されているとき、2とaを○で囲み、回答番号欄（1）に「2a」さらに3とcを◎で囲み、回答番号欄（2）に「3c」と書き入れます。

解説板等の有無

巨樹または巨木林全体の樹名板、解説板、石標等について調べてください。

*巨樹に樹名板があり、その巨樹の生育している巨木林に解説板がある場合、回答番号欄に「2a」「3b」と記入します。

周囲の状況

選択肢の中から面積の占める割合の高いものから順に、いくつでも選んでください。巨木林全体についての把握が困難な場合には、幹周等の測定樹木周囲の状況でよいものとします。

*ここでの1.の樹林は、「周囲に樹木が生育しているが、これらが巨樹または巨木林にはならない」場合です。a.周囲の影響が及ばないような「山林など大面積」の樹林と、b.比較的影響が及びやすい「社叢など小面積」の樹林に分けて記入してください。

株元又は林床の状況

巨樹の根本の状況を、選択肢の中から面積の占める割合の高いものから順にいくつでも選んでください。巨木林全体についての把握が困難な場合には、幹周等の測定樹木周囲の状況でもよいものとします。

*ここでの5.舗装は、透水性に着目してください。巨樹の根元が敷石の場合、5と「c.その他」を○で囲み、（ ）に敷石と記入します、回答番号欄には「5c」と記入します。

動物生息

特有の動物が生息している場合には、その種名を調べてください。

巨樹の空洞を住処とする鳥獣、または巨木林に生息する鳥獣などの例は、フクロウ類、クマゲラ、ムササビ、モモンガ、リス、ヤマネ、コウモリ、ヘビ、ワシ・タカ類、クマなどです。

着生植物等

巨樹について、巨木林全体について、着生植物等の被度及びその種類を調べ、被度の順にすべて選

んでください。巨木林全体についての把握が困難な場合には、幹周等の測定樹木周囲の状況でもよいものとします。

「種類」については以下を参考にしてください。

- a. つる性（ツタ・カズラ類及びクズなど、樹木に巻き着いて生長、生育しているの）
- b. 寄生（ヤドリギ及びキノコ、サルノコシカケ等の菌類など、樹木から栄養分をを吸収して生育しているもの）
- c. 着生（コケ類、サルオガセ等の大型地衣類、及びシダ類など、樹木に着いて生育はしているが、自ら栄養分を作ることができるもの）

信仰対象等

巨樹（樹林内の特定の巨樹の場合を含む）と巨木林全体との場合に分けて、それぞれ、社、ほこら、鳥居、しめ縄等の有無及び禁忌（タブー）、祭事の有無等について調べてください。

*単木（巨樹）と樹林（巨木林）全体が信仰対象になっていて、巨樹にはしめ縄があり、巨木林には鳥居があるばあい、回答番号欄には、有無「2」－内容「aウ」と有無「2」－内容「bイ」と記入します。

故事・伝承

巨樹（樹林内の特定の巨樹の場合を含む）と巨木林の場合とに分けて、それぞれ、その概要を調べてください。

直接利用

巨木林の場合には、その直接的な利用のされ方について以下を参考に調べ、利用の比重の高いものから選んでください。

1. 特になし（水源かん養、国土保全などの間接的利用などがあっても、直接的利用はとくにないとき）
2. 林業的利用（建築用材、家具材など木材生産のため、また、シイタケ・果樹・種子生産など林産物の生産に利用されているもの）
3. その他林木の直接利用
4. 観光レクリエーション・公園（樹林内に遊歩道が設置されているなど観光・レクリエーション又は公園として利用されているもの）

視認性

視認性（地域でのランドマーク状況）について、以下を参考に選んでください。

1. 遠方（集落外など）からも目立つ（集落外など遠方からも目立ち、地域のランドマークになっている）
2. 付近に行けば見える（集落内では多くの地点から見え、地域の人々に認識されている）
3. 直前まで見えない（周囲に樹木や建物があるなど、直前まで行かないと見えないもの）

特記事項

他に、特別な保護対策が講じられている場合等があれば、その内容を調べ、該当するものを全て選んでください。

資料 4

)

114

分 類	項 目	回 答 内 容	回 答 番号欄
保護の項目	保護制度指定 (単木○ 樹林◎) (複数回答)	1. 無 2. 天然記念物等 (a 国 b 都道府県 c 市町村) 3. 自然公園 (a 国立 b 国定 c 都道府県立) 4. 自然環境保全地域 (a 国 b 都道府県) 5. 保安林・学術参考保護等 6. 都市公園 (a 国営 b 都道府県 c 市町村) 7. 風致地区・緑地保全地区・都市の美観風致を維持するための保存樹木等 8. その他制度 名称 () 9. 不明	☐ ☐ ☐ ☐
	解説板等の有無	1. 無 2. 樹名板 3. 解説板 4. 石標 5. その他 () a 単木用 b 樹林用	☐ ☐
生態的項目	周囲の状況 (複数回答)	1. 樹林 (a 山林など大面積 b 社叢などの小面積) 2. 公園 3. 耕地 4. 建物群 5. 道路 6. 水面 7. その他 ()	☐ ☐ ☐ ☐
	根本(林床)の状況 (複数回答)	1. 裸地 2. 草地・地被類 3. 稚樹・その他低木生育 4. ササその他やぶ 5. 舗装 (a 砂利・碎石 b アスファルト・コンクリート c その他 ()) 6. その他 ()	☐ ☐ ☐ ☐
	動物生息	特記すべき鳥類の生息 1. 無 2. 有 3. 不明 種名 () 特記すべき獣類の生息 1. 無 2. 有 3. 不明 種名 ()	鳥類 ☐ 獣類 ☐
	着生植物等	1. 無 2. 有 被度 (a はほぼ全体 b 半分位 c 一部分) 種類 (a つる性(ツタなど) b 寄生(ヤドリギなど) c 着生(コケなど))	有無 ☐ 被度 ☐ 種類 ☐
人文的項目	信仰対象等	1. 無 2. 信仰対象あり a 単木が信仰対象 (ア. 社、ほこら あり 社寺名 ()、不明) イ. 鳥居あり ウ. しめ縄あり エ. その他 () オ. 特になし b 樹林全体が信仰対象 (ア. 社、ほこら あり 社寺名 ()、不明) イ. 鳥居あり ウ. しめ縄あり エ. その他 () オ. 特になし 3. 禁忌(タブー)あり 対象(ア. 単木(全体) イ. 幹 ウ. 枝 エ. 実 オ. 樹林全体 カ. その他 キ. 不明) 概要 () 4. 祭事あり 概要 () 5. 不明	有無 ☐ (1~5) 内容 有無 ☐ (2~4) 内容
	故事・伝承	1. 無 2. 有 3. 不明 (概要) a 単木 b 樹林全体	有無 ☐
	直接利用(樹林) (複数回答)	1. 特になし 2. 林業的利用 () 3. その他林木の直接利用 () 4. 観光・レクリエーション・公園 所在地 ()	☐ ☐ ☐ ☐
	視認性	1. 遠方(集落外など)からも目立つ 2. 付近に行けば見える 3. 直前まで見えない	☐
その他の項目	特記事項 (複数回答)	1. 無 2. 保護柵設置 3. 避雷針設置 4. 支柱設置 5. 薬剤散布・施肥 6. 定期的な下刈り・清掃 7. 枯損部の削除、枝下ろし 8. 買取運動 9. その他 ()	☐ ☐ ☐ ☐

(裏面記入 有・無)

(幹周既存データ使用 有・無)

巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票（一般） 記入方法

この調査票には、枯死・枯損した巨樹・巨木林の情報を記入します。

<はじめに>

○日付、調査者名、所属をお書き下さい。

1本の巨樹（単木）につき、I行に書き入れます。

巨木林（樹林）は、第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査報告書に記載してある一本一本をI行ずつにして、書き入れて下さい

コード番号（3次メッシュコード）

第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査報告書（地方版）8冊より、枯死報告をする巨樹・巨木林のデータを探し、左端にあるコード番号と（3次メッシュコード）を書き写して下さい。

樹種、独特の呼称

枯死した巨樹と巨木林の中に生育する巨樹の樹種を書いて下さい。もしあれば、独特の呼称も書いて下さい。

枯死年度

枯死した年を調べ、わかればより詳しく記入して下さい。

枯死原因

枯死の原因を調べ、いくつでも○をつけて下さい。

注意事項

- ・調査票は必要に応じて、コピーしてお使い下さい。
- ・漏れている項目があると、報告された巨樹が確認できないことがあります。
項目は全て記入して下さいますようお願い申し上げます。

巨樹・巨木林フォローアップ調査 追跡調査票（一般）

資料 6

年 月 日		調査者名（ ） 所属（ ）		
コード番号 (3次メッシュコード)	樹種 独特の呼称	枯死年度	枯死原因	備考
記入例 単木(巨樹) 37 306 -006 (5134 -31-83)	クロマツ 岡の松	平成5年 (5月)	a.大風 b.落雷 c.積雪 d.病虫害 e.その他自然災害 f.人為(剪定等) g.不明	
記入例 樹林(巨木林) ()	}			
記入例 樹林(巨木林) ()		樹林(巨木林)に関しては、報告書に記載してあるもの一本一本についてを一行にします。		
()			a.大風 b.落雷 c.積雪 d.病虫害 e.その他自然災害 f.人為(剪定等) g.不明	
()			a.大風 b.落雷 c.積雪 d.病虫害 e.その他自然災害 f.人為(剪定等) g.不明	
()			a.大風 b.落雷 c.積雪 d.病虫害 e.その他自然災害 f.人為(剪定等) g.不明	
()			a.大風 b.落雷 c.積雪 d.病虫害 e.その他自然災害 f.人為(剪定等) g.不明	
()			a.大風 b.落雷 c.積雪 d.病虫害 e.その他自然災害 f.人為(剪定等) g.不明	

同コード

主催 全国巨樹・巨木林の会
協力 奥多摩町

平成12年度巨樹・巨木林フォローアップ調査実施にあたり、調査の円滑な推進と、計測データの信頼性の向上を図るため、正しい計測方法、計測技術の習得のための巨樹計測講習会を開催いたします。

目的：巨樹・巨木林フォローアップ調査のデータ集計後、新規巨樹ランキングの上位にはいりそうな巨樹を全国巨樹・巨木林の会で再調査いたします。そこで、全国各地の巨樹に確認調査が行えるように各地の会員に参加を願うものです。

対象者：現地での確認調査実施を目的とするのため、以下を満たす方にご参加願います。

- 確認調査に参加できる方。
- 75才までの方。76歳以上の方は障害保険の対象外になりますのでご遠慮ください。
- 健康で山歩きの達人な方。

開催地：東京都奥多摩町

講習会場 奥多摩町森林館

実習会場 奥多摩日原地区、氷川地区、梅沢、丹三郎

日時： A グループ / 6月2日宿泊、3日実習
B グループ / 6月3日宿泊、4日実習

定員： 1グループ40名 計80名まで

- 希望の期日をお選びください。但し、参加者が少数のときは、どちらか一日に調整いたします。
- 先着順で受け付け、定員になり次第締め切りとします。
- 出来るだけ多くの地方からの参加をしていただきたいため、団体会員の場合は5名までとさせていただきます。但し、締め切り以降に定員に空きがある場合は追加受付致しますので、事務局までご連絡ください。

参加費用： 15,000円（消費税込み）

この中には宿泊費（2食を含む）、実習日当日の昼食費、保険料、テキスト・ガイダンス資料代が含まれます。

申込方法：同封の振込用紙を使い、最寄りの郵便局で参加費用をお振り込みください。講習会申込書に必要事項を記入し、ハガキに貼るかFAXで事務局に郵送ください。講習会申込書の受付、参加費用の振込みの確認を持ちまして、手続き完了とさせていただきます。

当日のタイムスケジュール、宿泊場所の連絡先、装備など詳細は、5月中旬にお申し込みされた方に直接ご連絡します。

また、5月9日（火）以降に参加のお取り消しをされた場合、原則としてお申し込みされた参加費用はお返しできませんので、ご了承ください

締め切り：平成１２年５月１日（当日消印有効）

プログラム日程：講師・実習指導予定者

平岡忠夫（画家・巨樹の会主宰）

笹岡達男（環境庁生物多様性センター長）

真板昭夫（（財）自然環境研究センター理事）

講習内容 ・巨樹巨木林調査フォローアップ調査について

・巨樹計測について など

実習内容 奥多摩の名樹を教材に、指導を行います。

認定証の授与：受講者は、巨樹計測方法取得者として登録され、認定証を授与いたします。

問い合わせ先：

〒１１３－００２１

東京都文京区湯島２－２９－３

（財）自然環境研究センター内

全国巨樹・巨木林の会事務局

電話０３－３８１２－０８１１

FAX ０３－３８１３－８８８４

担当 堀田

巨樹調査での注意

里での巨樹調査、山での巨樹調査にはそれぞれ約束があります。
素晴らしい自然や、人との出会いに感謝しながら調査を行い、巨樹を愛する人の輪を広げてゆきましょう。

里の約束

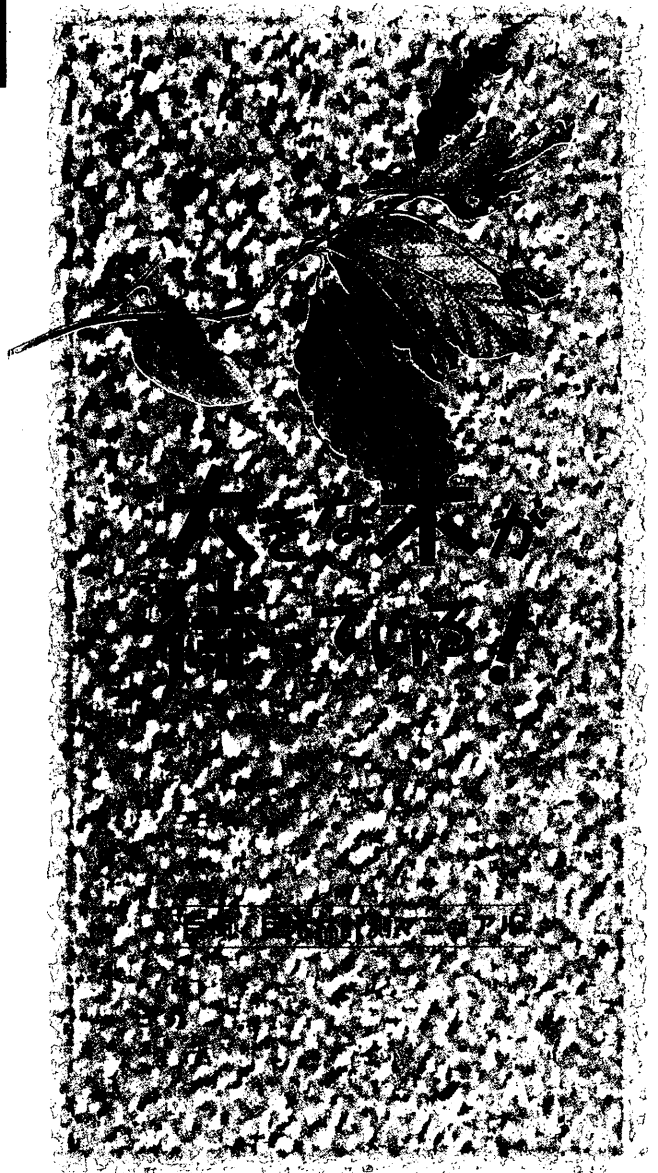
- ・巨樹には私有の木がたくさんあります。調査の前には必ず所有者に挨拶し、先祖代々木を大切にされてきたことに感謝と敬意を表しましょう。
- ・自然公園や都市公園内の木を調査したいときには、構内に入ってよいかなど管理事務所に確認しましょう。樹勢治療のために根周りを掘りわけていることがあります。
- ・付近にお住まいの方や木を見に来た方が調査に関心を持っている様子なら、情報交換をしてみましょう。

山の約束

- ・必ずその地域の天候や地勢に詳しい方に、案内人として調査グループに加わってもらいましょう。
- ・調査の時期を決める前に、先ず、役場や森林管理事務所等に問い合わせ・届け出をしましょう。天候やフィールド状況、さらには、熊除け鈴の携帯や装備、オオタカの産卵期なので調査に入らないでほしいといった野生生物に対する注意・配慮等を教えてくれます。
- ・一人で調査に入っては絶対にいけません。グループで安全に楽しく行動しましょう。
- ・切り立った崖地の巨樹など危険な場所には、調査のためにと無理して入らないで下さい。
- ・巨樹の多い場所は、古くは神聖な場所や信仰ための通り道である場合が多いようです。もし、神様が祀られているような祠等に行き当たったら失礼のないようにし、巨樹の残ってきた跡を考えてみましょう。

発行 : 環境庁自然保護局 生物多様性センター
編集協力 : 全国巨樹・巨木林の会
発行日 : 2000年1月
編集 : 堀田昌子 ((財) 自然環境研究センター)
 小澤一雄 ((株) サイト・デザイン研究所)
デザイン : 滝口貴美子 (アートポスト)
イラスト : 徳永桂子 田口道恵 栗原由美子
写真 : 日野正幸 和賀山塊巨樹巨木林調査隊
原稿協力 : 伊藤秀三 (長崎大学名誉教授) 平岡忠夫 (画家・巨樹の会主宰)
 牧野和春 (随筆家) 井橋清生 (石川県巨樹の会会長)
 菅沼孝之 (元奈良女子大教授)
 松枝章 (石川県林業試験場森林環境部長)
協力 : 大館俊治 (東京都奥多摩町在住) 大野耕一 (巨樹の会技術総括)
 真板昭夫 ((財) 自然環境研究センター理事)

※本リーフレットは再生紙(古紙含有率100%)を使用しています。



環境庁自然保護局
生物多様性センター



巨樹計測のすすめ

巨樹の大きさを測って見ませんか。
 巨樹巨木は、間違いなく私たちよりずっと早く
 この世に生まれ、
 私たちよりずっと先の時代まで生き延びていくでしょう。
 この世に生を受けた彼らを、
 住民登録しようではありませんか。
 大人だけでなく子供たちも、
 一緒に巨樹の大きさを測りましょう。
 子供たちが大人になったとき、
 もう一度大きさを測る機会が来るでしょう。
 子供たちの子供もまた、この巨樹を



巨樹調査のまえに

大きな木と親しもう

●このリーフレットは、大きな木と親しみ、自然と私達の新しいよい関わり方を見つけてほしいという願いから作られています。木の測りかたには何通りもあり、測る位置も胸高(120cm)、目通り(150cm)、ヨーロッパでは胸高を130cm(4フィート3インチ)としています。ここでは、1988年に環境庁が「緑の国勢調査」で実施した「巨樹・巨木林調査」で決められた計測方法をご紹介します。

木を測るということ・1

●木を測ることは、基本的なルールを知り、それを守れば、誰でも始められ、楽しむことができます。家族で公園の木を測ったり、友人同士でハイキングで見つけた大きな木を測ってみて下さい。身近な木なら、数年ごとに測ってみましょう。わずかなですが、今も木が生長しているのがわかります。

木を測るということ・2

●大きな木は、測り方や測る位置によって、大きさに数十センチも違いがあるものです。何百年も生きるうちにその樹種ならではの形となったり、逆に気候や立地により自然の樹形からかけ離れた不思議な形になっていたりするためです。巨樹調査のたくさんの項目は、木のプロフィールを少しでも多く見てもらうようになっています。

全国の巨樹について、同じ計測方法で幹周を測り、同じ樹種や地域ごとに比べることは、何百年にもわたるその木と人の歴史を知ること、その背景に想いを寄せること、この感動を次の世代に受け継いでいくことです。同じ樹種でも同じ形、同じ幹周の木がないにもかかわらず、巨樹調査は、1本ずつの違いを限られた項目で比較しようとするものです。けれども、これらの項目からつかみきれないその木独自の風格や存在感などは調査票からは浮かび上がってきません。それは現地調査をされた方だけが得ることができる貴重な体験です。厳密に計測値を求めることは大変重要なことですが、それでもなお測りきれない有形無形の価値について、どのように伝えることができるのでしょうか。絵を描くこと、写真を撮ること、歌を詠むことなど、調査をきっかけにお考えになられたことを、教えていただけたら幸いです。

巨樹調査の内容

多くの調べておきたい項目があります。
それは、今後の追跡調査と、
他の巨樹との比較などを行うためです。
調査は「単木、並木、樹林」にわけて、
それぞれ調査票1枚に調べたことを書きこみます。

はじめに

- 調査番号：複数の木の調査では、調査順に番号をつけます。
- 調査年月日：いつ調べたのかは重要な情報です。
- 調査者：所属と氏名を書きます。

1. 所在地と所有者

市町村名地番などの地名、字名、地域での呼び名を記録します。
目印になる建物や地形や、所有者のお名前なども書きます。

2. 単木・並木・樹林

巨樹が1本だけなら単木、列状に並んでいれば並木、まとまりがあれば樹林です。並木や樹林は、代表的な巨樹を選んで測ります。複数のときは巨樹ごとに調査票を書きます。全体の中のおよその巨樹の本数も記入します。

3. 樹種名

木の種名は図鑑などに使われている和名（国内共通の名前）を用います。地域での木の名前や独自の呼称は備考欄に書きます。

4. 推定樹齢（木の年齢）

推定または伝承の樹齢を樹名板を見るなどして書きます。

5. 幹周

地上から130cmの高さで、幹周りをセンチメートル単位で測ります。木の生えている場所や、幹の形などで測り方が違います。
(7～11ページ参照)

6. 写真記録

写真は後の調査で木を確認するために必要です、特に山中の巨樹の場合は最も有効な情報です。

*記録用写真には、調査番号、標高・樹種・幹周・所在地を書き入れたボードを調査木と一緒に写します。



●計測位置の記録写真例

4

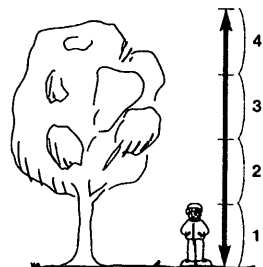
7. 計測位置の記録

根や幹の形状によって、高さ130cmの計測位置に迷うことがあります。後の調査の参考にするためにスケッチや写真に計測位置を記入したものを必ず添えます。

(6ページ参照)

8. 樹高（木の高さ）

樹高をメートル単位で測ります。樹高測定器による実測が困難な場合には、目測でもかまいません。



木のそばに人に立ってもらい、その人の身長を基準に木の高さを測ります。

9. 木の形

○株立ち：幹周りを測った高さ（地上から130cm）で幹が分かっていたら、その本数を記録します。

○枝張り：東西方向、南北方向の枝の拡がりをメートル単位で測ります。実測が困難な場合には、目測でもかまいません。

10. 地図への記入等

人が住んでいる里では、木の位置や地名もわかりやすいのですが、山の中では、地名もあいまいで位置が伝えにくいものです。できれば市町村の管內図、あるいは5万分の1地形図か、2万5千分の1地形図に位置を記入したものを添えます。高度計があれば、標高も記録します。

11. 独特の呼称、故事・伝承

○○の松、○○の森のように単木、樹林の場合に分けてそれぞれ書きます。資料などがあったらコピーを添えます。

12. 保護制度の指定

樹林全体が指定されており、さらにその中の特定の巨樹が別に指定されている場合にはそれぞれについて、市役所・町村役場へ問い合わせるなどして調べます。

13. 健全度

枝・幹・根に異常がないか調べ、問題がないときは良です。異常が認められれば枯死寸前、病虫害などの症状が現れているなどを記録します。

14. その他

動物、着生植物等について気づいたことは、何でも記録しておきます。



5

巨樹調査グループをつくろう

山の調査では、登山に必要な装備に加えて、計測のための道具をいくつも持っていきます。グループリーダーを決め役割分担すると、安全に能率よく調査が出来ますし、お年寄りから子供まで調査に参加することもできるでしょう。

最終判断をするリーダーは案内者をのぞいた4名の中で決めます。

●案内者 1名

地図・方位磁石・高度計・トランシーバー等を持ってグループを先導します。天候や山の様子を見ながら、安全な道を選んだり、移動方法を教えます。地元の方など、その山の地勢に詳しい人がこの役目をします。

●計測者 2名

メジャー・測量ボール等、計測に使う大きな道具を持ちます。山野をどろんどろん歩き、計測をします。山歩きが達者な人にお願いしましょう。

●記録者 1人

ボード・チョーク・調査票等を持ちます。読み上げられた計測値をボードに書きとめ、それを持って調査木の側に立ち記録写真に入ります。

●撮影者 1人

カメラ・フィルム・野帳・調査票・持ち帰る葉や実等を持ちます。調査木、花、実、そのほか位置情報となるすべての写真記録を受けもちます。



装備もしっかりしましょう

案内者が調査木までメンバーを先導します。すぐ後に計測者の2人。3人は計測位置を確認し、協力してメジャーを巻き押さえます。記録者は木のスケッチをし、計測位置を書き加えます。撮影者は周辺を観察して写真記録を始めます。2人は足場の安定した所から計測する3人にボールの向きやメジャーの高さの修正を促したりします。メジャーの位置が決まると、計測している3人が計測値を読み上げ、所在地、樹種名、健全度などの調査項目や、後の地図記入に備えて調査木の位置情報を確認し合います。記録者はすべての記録をとり、必要項目をボードに書き写します。撮影者は記録を補助し、ボードと木を撮影します。計測と記録が終わったら、チョークで調査済みの木にマーキングしてからそこを離れます。

基本の測り方

1 調査の対象

「調査木」は、地上から130cmの高さで、幹周りが300cm以上の木です。これらが育成している並木・樹林も対象になります。



図-2 (複雑な形状の幹周りの例)

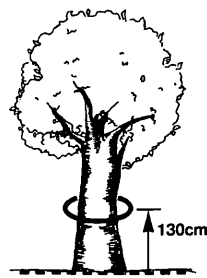


図-1 (平地の例)

2 測り方

幹周は地上から130cmの高さを、センチメートル単位で測ります。メジャーを幹に当てて、凹凸のあるところは手の平で押さえ、一周させます。手の平よりも小さい溝やへこみは無視します。ウロ（樹洞）があったら、その大きさや奥行きにかかわらず、図-2のようにメジャーをピンと張って、これを幹周とします。斜面に生えている木は、山側（高い方）で地上（根元）から130cmの高さで測ります。斜面が急で谷側（低い方）に降りられないときは、山側から測量ボールで直径を測り、幹周を計算します。

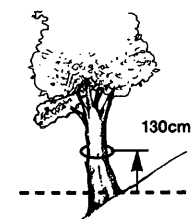


図-3 (斜面の例)

3 株立ち

130cmの高さで幹が複数に分かれていたら、次の条件を満たしている木が調査木です。

- ・一番太い幹（主幹）の幹周が200cm以上ある。
- ・それぞれの幹周の合計値が300cm以上ある。

このとき幹周は複数の幹の合計値になります。主幹の大きさ、株立本数も記録します。

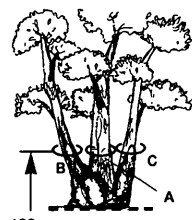


図-4 (株立ちの例)
130cm $A \geq 200\text{cm}$
 $A+B+C \geq 300\text{cm}$

4 根上り

根が地面から上に上がっているときは、露出している根の根元から測ります。

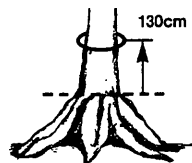


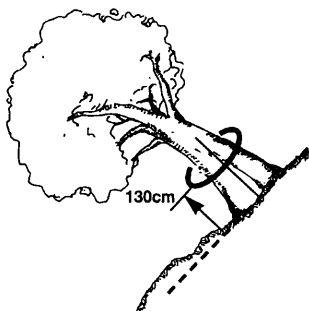
図-5 (根上り例)

難しい木の測り方

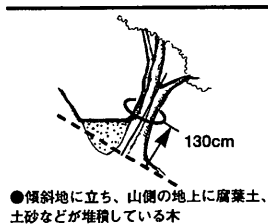
**基本の方法では測りにくい木はたくさんあります。
ここでは代表的なものをあげました。
必ず調査票にスケッチや写真を添えて
どこを測ったか分かるように
記録を残しておいて下さい。**

**基本の測り方で計測位置が
決められない木**

次のような木の生え方の場合
は、幹の軸線（中心）を想定し、
地表面に接したところから、幹
の形状に沿って130cmのところで
幹周り（軸線に対して垂直面）
を測ります。



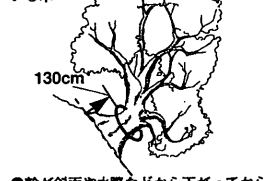
**ほかにもこんな木の場合は
軸線を決めて測ります。**



●傾斜地に立ち、山側の地上に腐葉土、
土砂などが堆積している木



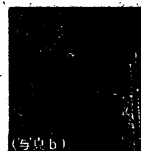
●幹が斜面や水際などから水平に伸びて
いる木



●幹が斜面や水際などから下がつてから
立ち上がっている木

軸線の決め方

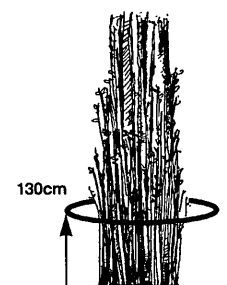
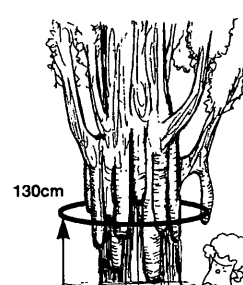
- 1 計測者は調査木の左右どちらかの横に立ちます。
地表面の自然な傾斜と測量ポールを平行におき、木
の根周りに接する地点を探します。
- 2 1の地点から幹の中心を想定し、チョークなどで
マーキングします。
- 3 マーキングした位置から幹の形状に沿って130cm
のところにマーキングします。この2点をつないだ
線が軸線です。（写真a）
- 4 軸線に対して垂直になるように計測位置を決め幹
周りを測ります。（写真b）



8

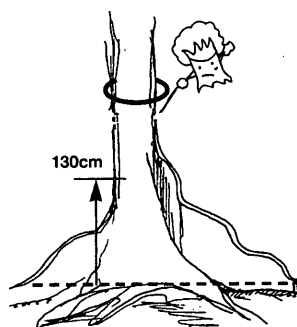
主幹がわかりにくい木

カツラは主幹が確認できない場合がありますが、地上から130cm
の高さでメジャーを一巡し測ります。アコウやイチョウなど、気根が
垂れ下がり幹と合体しているときは、130cmの高さで気根を含めて測
ります。このとき幹から離れている気根は除きます。



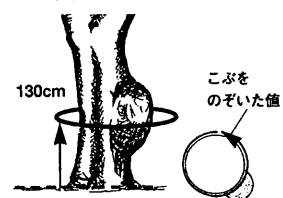
板根の発達している木

130cmの高さに板根があるとき
は、その上部で板根が終わった
高さを計測位置とします。位置
の記録を忘れないで下さい。

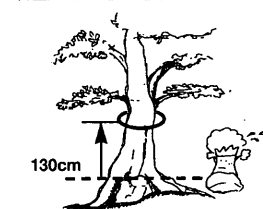


こぶの発達している木

異常な「こぶ」は、除いた計測
値を出します。参考までに「こ
ぶ」周りの計測値も記録してお
きます。



岩盤にまたがっている木
岩盤を包む根の根元から測ります。



9

幹周り3 m以下でも巨樹の仲間

樹齢を重ねても幹周3 m以上には育たない、あるいは、育ちにくい樹種はたくさんあります。これらも計測して「巨樹」のなかまに入れましょう。

いくつかの代表例をあげます。種類または科によって対象とします。ほかにも気付いた種類があれば記録しましょう。

●幹周1メートル以上を計測の対象とするもの

クスノキ科	ニッケイ・ヤブニッケイ・イヌガシ
ヤマガルマ科	フサザクラ
マンサク科	マンサク・マルバマンサク
マメ科	ネムノキ・ハナズオウ
ミカン科	すべて
ツゲ科	ツゲ
ツツジ科	アセビ・ネジキのように直立幹をもつもの

●幹周2メートル以上を計測の対象とするもの

マツ科	カラマツ・ゴヨウマツ
ヒノキ科	コノテガシワ・ヒムロ・ネズミサシ
ヤナギ科	オオバヤナギ・ケショウヤナギ

カバノキ科	シラカンバ
ブナ科	ウバメガシ
モクレン科	シキミ
ツバキ科	すべて
バラ科	エドヒガン系のサクラを除くサクラ属のすべて
トウダイグサ科	ユズリハ・シラキ・ナンキンハゼ・アブラギリ
ニガキ科	ニガキ・ニワウルシ
ウルシ科	ウルシ・ハゼノキ
モチノキ科	タマミズキ・アオハダ
ニシキギ科	マユミ・ヒゼンマユミ・マサキ
クロウメモドキ科	ナツメ・ケケンボナシ
シナノキ科	ヘラノキ・ボダイジュ
ミソハギ科	サルスベリ
ミズキ科	ミズキ・クマノミズキ
カキノキ科	すべて
エゴノキ科	すべて
ハイノキ科	ハイノキ・タンナサワフタギ
モクセイ科	ミミズバイ
スイカズラ科	アオダモ・ヒトツバタゴ
	サンゴジュ



ツゲ

さあ、巨樹を測りに行こう 調査に用意するもの

●計測関係

・メジャー、(巻尺) (5 m以上ものを2本用意。ビニール、エスロン等しなやかな素材のもの) / 測量ポール (130cmの位置にマーキングしておく。メジャー、釣り竿に20cmおきにテープをまくと代用できる) *もしもあれば、樹高測定器

●記録関係

・調査票 (予想外に巨樹が見つかることもあるので多めに用意) / 地図 (巨樹の位置を記入するための5万分の1の地形図) / ボード、スケッチブック等 (標高・樹種・幹周・所在地・調査番号を書き、調査木と共に記録写真に写しておくもの) / チョーク (ボード記入に使うほか、調査木に計測ポイントの印をつけたり、調査済みの木にマーキングしたり幅広く使う) / 野帳・筆記用具 (ザ



●記録写真の例

ック、ポーチにひもでつないでおく) / カメラ・フィルム (木が茂り暗いときがあるので、感度400くらいのもの)

●その他、山間部の調査のときに便利なもの

支持棒 (釣り竿など。傾斜地での測定で谷側の計測位置が高くなったとき、メジャーを押さえるのに使う) / 高度計、GPS (緯度・経度の分かるもの。標高の示される時計も使える) / 勾配測定器・方位磁石 / 双眼鏡 / トランシーバー / ポケット図鑑 / ビニール袋小・大 (樹種が解らないとき実や花葉を入れて持ち帰るもの。大は雨具の代わりにもなり非常時に便利) / 油性マジックインキ (採集物と一緒にビニール袋に入れるメモを書くため) / カマ、ナタ

●山間部の調査の時に欠かせない装備

帽子、ヘルメット等 / 長そでのシャツ、長ズボン / 軍手 / 靴 / 雨具 (レインスーツ) / お弁当、お菓子、水筒 / トイレットペーパー / 携帯用灰皿 / 虫除け、救急用品

*マムシ、スズメバチ、ツツガムシなどの危険な生き物には特に注意して下さい。

自然環境保全基礎調査

巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書

平成13(2001)年 3 月

環境省自然環境局 生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1

電話：0555-72-6033 FAX：0555-72-6035

業務名 平成12年度巨樹・巨木林フォローアップ調査業務

請負者 株式会社 サイト・デザイン研究所

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-32-9 モトハシビル